

吹雪「司令官が浮気している？」

多聞丸

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

概要

最近提督が鎮守府に来なくなつた横須賀鎮守府、吹雪が青葉に調査を依頼したところ…

前書き

艦これ×ウマ娘のクロスオーバーです。まあ…今まで艦こればかり書いてきましたが温かく見守ってください。ちなみに、今回はリアル嫁（艦これ内）が主人公です。

一嫁艦一

吹雪

赤城（正妻）

加賀

飛龍

蒼龍

翔鶴

瑞鶴

大和

比叡

伊勢

古鷹

加古

羽黒

神通

※なお、これはSS投稿速報の題材をこちらに写したものですが（一
部オリジナルあり）

「ウマ娘」

スペシャルウイーク
サイレンスズカ
ゴールドシップ
ダイワスカーレット
ウォッカ
トウカイティオー
メジロマツクイーン

目 次

—キャラクター紹介—

第1章 —浮気—

#1 —調査—

#2 —発見—

#3 —尾行—

#4 —追跡—

#5 —拉致—

#6 —尋問—

#7 —捜索—

#8 —嫌悪—

#9 —目標—

#10 —餌兵—

#11 —捕縛—

#12 —拒否—

#13 —八門—

#14 —水計—

#15 —探索—

#16 —大食—

第2章 —捜索—

#17 —競走—

#18 —加入—

#19 —監視—

—茶会—

79 75 72

68 61 56 52 49 45 42 40 37 30 27 23 20 16 12 9 6 1

一 番外編、夜の探検 一

#43 一派遣一

#44 一劇物一

#45 一不幸一

#46 一連行一

#47 一誘引一

#48 一作戦一

#49 一士道一

#50 一兆候一

#51 一緊張一

#52 一開戦一

#53 一修羅一

#54 一熱戦一

#55 一終戦一

#56 一戦後一

#57 一結末一

一 番外編 一

一 番外編、温泉旅行 一

一 番外編、温泉旅行2日目 一

一 番外編、出逢 一

一キヤラクター紹介ー

一艦娘側ー

一嫁艦娘（14人）ー

赤城

提督の正妻。提督からは艦娘の統率を任せている。性格は温厚であり、ウマ娘に対しても優しく接してはいるが…。過去のトラウマから一度は提督を狙うものの自らの過ちに気づき本気で提督を愛するようになる。提督との仲は良好。大食いの面が目立つが主力として海域を解放してきたので戦闘力は艦娘の中でもずば抜けて高い。赤城が決めた事が鎮守府の最終決定とはなるが、公平な決め事を好み。嫁艦全員との関係はかなり良好。弓の腕は空母艦娘でも最上位に位置する。軍刀を所持してるが基本は使わない。

加賀

提督の側妻、主に赤城や空母の補佐をする。基本表に感情を出さない。赤城から艦娘へのパイプ役。他の空母娘とは友好であり、特に瑞鶴は最初こそ冷たい態度をとっていたが成長を認めて現在では食事を共にするほどの仲。ウマ娘に対しては中立派、提督さえ無事に返してくれるならとも思っている。

飛龍

提督の側妻、加賀と同じく赤城のサポート役。勘が良い。ウマ娘に対しては興味を持っていて、特にゴルシに対しては興味津々である。温厚派の1人である。弓の腕は艦娘の中でもかなり高い。

蒼龍

提督の側妻、ウマ娘に対しては温厚派。基本飛龍と同じくであり、赤城たちのサポートに回る。提督に対してはなにか事情はあると思うけど相談して欲しいとも思っている。

翔鶴

提督の側妻、空母の中でもかなり温厚派。スペシャルウイークの確保には協力したものの、ウマ娘と仲良くなないと感じている。不幸体質により何かしらとばつちり受けることが…

瑞鶴

提督の側妻、加賀と仲直りし現在は関係良好。ウマ娘に対しては中立→敵視。加賀曰く成長したが、頭に血が上りやすいのが欠点らしい。提督に対してはかなり敵視してる（裏切り者としてみてる）

吹雪

提督の側妻、ウマ娘と艦娘のパイプ役。主に駆逐艦、海防艦の統率を任せられている。ウマ娘に対しては嫁艦の中では最も温厚派。特にスペシャルウイーク達と仲が良い。出来るなら争いは起こしたくなく、艦娘とウマ娘の共存を望んできる。提督に対してはどこに行つたのか心配している。

神通

提督の側妻。主に水雷戦隊、軽巡洋艦の統率を任せている。軍刀を持つた艦娘の一人。近接戦闘を好み剣術で神通と互角に戦えるのは伊勢、提督、神風だけと言われている。ウマ娘に対しては中立→敵視。和解後にグラスワンダーを弟子にとつて師弟関係を築くことになる。

古鷹

提督の側妻、あまり本文には登場しないが、穩健派。普段は重巡洋艦の統率を任せている。

加古

提督の側妻、普段から寝てるるので本文にはあまり登場せず…。ウマ娘に対しては中立（興味なし）。

羽黒

提督の側妻、臆病な性格だが、心優しい艦娘。ウマ娘に対しては温厚派であり、吹雪と同じく争いはせず、共存したいと考えている。

比叡

提督の側妻、料理が壊滅的に下手で厨房から出禁を食らっている。後にあのスペシャルウイークでさえ食べた際に気絶するほど不味いらしい。ウマ娘に対しては敵視、お姉様が愛する提督を奪つたのが許せない…らしい。

大和

提督の側妻、普段は戦艦の中では最後の結婚艦娘。ウマ娘に対しては敵視。剣術、弓術の使い手である。ルウィークを誘つて食事会をした。後々敵対する艦娘も増える中、彼女は争いを止めようとしていた。

伊勢

提督の側妻、嫁艦の中では最後の結婚艦娘。ウマ娘に対しては敵視。剣術、弓術の使い手である。

一嫁艦以外

曙、霞、満潮

裏提督Love勢。口は悪いが提督は信頼している様子。スペ達が拉致された際にはサイレンススズカと激突する。後に和解したらしい。

長門

ながもんじやない長門。提督に対して信頼を置いているが今回のことで困惑している。ウマ娘に対しては厳しい態度を取っている。

一ウマ娘

一チームスピカー スペシヤルウイーク

たまにドジを踏む大食い道産娘。サイレンススズカと水族館に行つた際に瑞鶴によつて拉致された。鎮守府で過ごしてからは大食いするので一時的に食料が足りなくなつたことも…。吹雪と仲が良く、和解後もちよちよくあつてる様子。

サイレンススズカ

スペシャルウイークの同室の先輩。スペと共に誘拐された。曙達と仲が悪く、一度口論になつた。後に和解した。基本は無口だが吹雪はよく話す様子。過去に怪我をしていたが提督のお陰で治つたという過去を持つ。

トウカイティオー

今回事件のきっかけとなつてしまつたウマ娘。メジロマツクイーンと共に拉致された。拉致後は白露型とお茶会をしていた。

メジロマツクイーン

ティオーと共に誘拐されてしまった。ちよろい（——）。誘拐後は間宮に入り浸りスイーツの食べすぎで太り気味になってしまった。パクパクですわ！

ゴールドシップ

アニメよりのゴルシ（容姿はゲーム）。今回のウマ娘救出作戦の中心人物。ゲームほど彈けてはない。ゴルシを中心にしてマツクイーン達救出作戦が展開される。

ダイワスカーレット

ゴルシ捕縛後の中心人物。艦娘に対しては敵視している。アグネスタキオンと仲が良く、後にある物を巡つて大事件を引き起こす。

ウオツカ

ダスカのライバル。艦娘に対しては良いイメージを持つてない。

ースピカ以外のメンバリー

キタサンブラック

ティオー誘拐の手がかりを掴んだ発見者。後にスピカメンバリーと協力し、ティオー救出に向けて動き出す。

サトノダイヤモンド

マツクイーン憧れのお嬢様。ゲームほど狂人では無い。ティオー誘拐の発見者で、チームスピカと合流してマツクイーン救出を目指す。

ミホノブルボン

マツクイーン救出時に着いてきたウマ娘。トレーナーがワイルドらしく灯笼を持ち上げて投げるなどパワーがすごい。

ライスシャワー

ブルボンと共に誘拐されたマツクイーン達の救出に参加する。

一生徒会ー

シンボリルドフ

トレセン学園生徒会長。ティオーの居場所を1番に発見したウマ娘。その後捕縛されてしまう。艦娘に対してウマ娘の権利と安全の保証を約束させた。

エアグルーヴ

生徒会副会長。恐らく今作1の苦労人。ティオーの場所を発見するもののルドルフが捕縛され、自身は罠にハマつて風邪引いてしまった。後に反撃に出る糸口を作る。

ナリタブライアン

後半の中心人物。ウマ娘VS艦娘の戦いではウマ娘を統率して指揮を執った。

一黄金世代4人ー

グラスワンドナー

黄金世代中心人物。スペシャルウイークを誘拐した艦娘を敵視している。後にトレセン学園合戦では神通、神風と一騎打ちに挑む。

エルコンドルパサー

いつもマスクしてゐるウマ娘。本編ではグラスにちょつかい出して怒られている。後にグラス一騎打ちの際には…：

セイウンスカイ

おつとりしたウマ娘。スペシャルウイークが誘拐された事でしかたなく参加。あまり艦娘には興味がなさそう？

キングヘイロー

気の強い高飛車お嬢様。スペシャルウイークが誘拐されたと聞き、作戦に参加することとなる。

ー提督ー

提督（トレーナー）

横須賀鎮守府の提督。トレセン学園ではチームスピカのトレーナーをしている。とある理由でトレーナーとなる。ティオーが出馬した有馬記念で青葉達に発見され、騒動が起ることになる。戦闘術では艦娘を木刀1本で制圧出来るほどの剣術の達人であり頭脳明晰である。とある暗い過去があり、それが原因で人生が左右する事となる。

第1章　一浮気－

#1　一調査－

「司令官が浮気しています!!」

青葉のその一言が艦娘達を驚かせた。泣く者、怒る者、鎮守府中が騒ぎとなつた。

一提督の部屋－

赤城「…薄々気がついてましたが…まさか本当にしたとは…」

加賀「…頭にきました」

飛龍「…浮気してたなんて…」

蒼龍「絶対に許さない!!」

吹雪「…で、どうしますか？」

古鷹「ど…どうするつて…」

加古「…ＺＺＺ…」

伊勢「…そりやー決まってるでしょ」

神通「まずは問いただしましようか」

羽黒「で…でも何かしらの事情とかが…」

瑞鶴「その時はその時よ。まずは1発ぶん殴らないと」

加賀「…そうね。全員で1発殴りましょう、艦装をつけて」

翔鶴「だ…だめよ瑞鶴…」

大和「まあ、取り敢えずは提督に聞いてみましようか。青葉さん」

青葉「はい、それがこちらの写真です」

写真「↑提督と知らない女性

比叡「だ…誰ですか？」

青葉「この子達と司令官がよく会っているようですね」

赤城「…まずは捜索しましようか」

これは提督を巡る物語…。

一第1章、浮気－

提督が来なくなつて2ヶ月が過ぎた。艦娘達は出撃が無いまま

ずっと鎮守府内に留まっていた。

明石「…暇ですね…」

夕張「…もう2ヶ月ですよ…やっぱり誘拐されたとかもしかしたら

…」

明石「いや…それはないと思うけど…」

霞「あのクズはどこに行つたのよ！」

朝潮「霞、落ち着きなさい」

満潮「どれだけ皆が待つてていると思っているのよ！」

陽炎「だけどね…いないのは本当に問題ね…」

提督が鎮守府に姿を現さなくなつてから既に2ヶ月、既に提督は殺されたた、誘拐されたなど艦娘からは色々な憶測が飛んでいた。その中でも1番気についていたのが…。

ー艦娘の部屋ー

赤城「…提督がいなくなつて既に2ヶ月…まだ手がかりはありませんか…」

加賀「…中にはもう殺されたとか言つてる子もいるわ」

古鷹「…無事だといいんですけど…」

加古「…Z Z Z…」

羽黒「で…でも生きてるかもしませんよね？」

蒼龍「…鎮守府の近くはいらないみたい…」

飛龍「…みんな不安がつてるよ…。戦争も終わつてないのに…」

大和「…ですが手がかりが…」

瑞鶴「…この鎮守府の人手を割いてでも探してみる?」

翔鶴「だけど緊急事態の時どうすれば…」

伊勢「もう今緊急事態だけどね…」

神通「…鎮守府の皆さんには士気が低下しています。このままでは

…」

比叡「は…早く司令を探しましょうよ！」

吹雪「ですが…どうすれば…」

提督の嫁艦であつた。いきなり提督が消えたのである。彼女らは頭を悩ませていた。その時…

『ふふふ…私にお任せ下さい!』

加賀 「…誰」

青葉 「この青葉にお任せ下さい!」 ババーン!

吹雪 「青葉さん?」

青葉 「この私が司令官の場所を見つけてきましょう!」

神通 「見つけられるのですか?」

青葉 「まあ、やれるだけやつて見ます。ここで悩んでても司令官は

帰つてくる訳ではありませんし…」

加賀 「…赤城さん、この件は青葉さんに任せた方がいいのでは? 蛇の道は蛇と言いますし」

青葉 「失礼ですね!」

赤城 「…分かりました。お願ひします」

青葉 「わかりました! お任せ下さい」

↑ … To be continued

#2 一発見ー

ー青葉の部屋ー

青葉（と言つたはものの…情報が無さすぎるんですよね…）

青葉（1億人いる中でどうやって司令官1人を見つけ出すか…）

青葉（まずは、SNSの確認でもしますか…。まずは司令官のTwitterから…）※提督はTwitterのみやってる

ー5分後ー

カタカタ：

青葉（やつぱり更新されてない…いえ…まだまだです。もう一度ようく確認してみましょう…）

衣笠「お疲れ様…これコーヒー」コトツ

青葉「ありがとうございます、砂糖とミルクは？」

衣笠「入れたよ。それよりも…見つかりそう？」

青葉「…分かりません。でもやるだけやるしか無いですね…」

衣笠「…そうだね。私も手伝うよ」

青葉「ありがとうございます」

ーそれから10日後ー

青葉「…ダメ…全然見つからない…一旦テレビでも見ましょう…」
衣笠（これだけネットを明後日も出てこないなんて…本当に行方不明とか…）

『次のニュースです。今年も中山競馬場で年末年始恒例、有馬記念が

…』

青葉「…競馬ですか…興味無いですね…」

衣笠「…チャンネル変える?」

青葉「そうしてください」

衣笠「…分かったわ…ええと…チャンネルは…」

青葉「…」

記者『それでは優勝したトウカイティオーさんに話を聞きましょ
う。どうでしたか?』

トウカイティオー『えへへ…これでマックイーンとの約束も果たせ

たかな…。でもここまで来るのには僕だけの力では来れなかつた…
何度も挫折して…1度道を閉ざした…でもトレーナーと頑張つてこ
れで…この大舞台を勝てたのかなつて…あ…！トレーナー！』

青葉「…ふうくん…この子のトレーナーってどんな子かな？」

衣笠「見つけたよ。さて…」

トレーナー「…」↑手を振つてる

青葉「…?!き…衣笠…あれつて…」

衣笠「て…提督さん?!」

青葉「目元は隠れてる…でもホクロの位置とか全部一致してる…口
元とかも…なんで競馬場に?!」

衣笠「ええとこれつて…中山競馬場だつけ！すぐ調べてみる！」力
タカタ…

青葉「あ！今回優勝した子とかも調べて！確か…トウカイティオー
だつたつけ?!」

衣笠「分かつた！」カタカタ…

青葉「…見つけましたよ…！」

青葉（でもあれだけじや提督なんて分からぬ…身元とかも似てる
別人かも…なら…ココは調査しないと…）

一嫁艦娘の部屋ー

赤城「…」

加賀「…」

吹雪「…」

蒼龍「…」

青葉「…どうですかね？」

赤城「…目元が隠れているのでなんとも言えませんが…十中八九提
督でしよう」

加賀「…ホクロの位置まで提督と同じよ。まあ、間違ひなく提督ね」

衣笠「しかし別人とか…」

蒼龍「…仮にマジックで書いてもここまで同じになるとは…」

飛龍「…へえ…こんな所で私達と知らない事をやつてたんだ…」(

ω、？) ゴゴゴゴゴゴ

瑞鶴 「トレーナーって…」

青葉 「で…どうしますか？」

飛龍 「もちろん調査しよう！」

赤城 「…いいでしよう。深海棲艦はほぼ壊滅してますし、この海域も今の子達でだいぶ足りると思います」

加賀 「ならば…まずはその提督に似た人を探さないとね」

衣笠 「インターネットで調べたらトウカイティオーはこの学校に属してるらしいです」

羽黒 「トレセン…学園？」

翔鶴 「まずは調査しましよう。提督がいたら…」

伊勢 「ボコボコにする？それとも試し斬り？」スツ…

翔鶴 「違います！」

神通 「…では明日、府中に行きましょうか…」

↑ … To be continued

#3 一尾行ー

一翌日、車内ー

瑞鶴 「…で、どれよ。提督さんに似たトレーナーは」

赤城 「青葉さんが張つてますか…」

伊勢 「…！出てきたようだね」

提督 「…」

トウカイティオー 「♪♪」

古鷹 「…手を繋いでますね…」

神通 「ここに妻がいるのに呑氣ですね…」

飛龍 「…あ、校門を出るよ」

一外ー

青葉 「…見つけました…。それでは…」

青葉はそつと2人の後を追つていった。尾行開始である。
※安価を取ります。

尾行は…♪ 4

1 成功した

2 途中でバレた

3 速攻でバレた

青葉（…こう見えて尾行は得意なんですよ…ジャッジアイズやつてましたからね…）スタヌタ：

トウカイティオー 「トレーナーへ今日はどこに行くの？」

提督 「そうだな…ティオーの好きな所に行くよ」

ティオー 「やつた♪」

青葉 「…随分楽しそうですね…」

青葉 「…私の事なんて見捨てたのに…」 ギリツ…

? 「…ちよつと…?」

青葉 「えつ？」 クルツ…

警察 「君…艦娘だよね？なんでこんなところにいるの？」

青葉 「えつ?!あの…」

警察 「しかもあの男の人を尾行してるようだけど…」

青葉「ご……誤解ですよ！」

青葉（ま……まざい……見失つちゃう……）

提督「……ティオー、少しこつちに行こうか」

ティオー「ええ～」

提督（あれつて……青葉っぽいよな？まさか俺の後をつけてきたのか
？……まさか……）

—青葉 s i d e —

青葉「誤解が解けて良かつたです……」

警察「な……なんか済まなかつた……それでは……」ブロロ……

青葉「まざい……まざい……見失つた……これからどうしよう……」

※安価を取ります。

どうする？』 7

(なんでも構いません)

青葉「……そうだ。明石さんから預かつたものが……」ゴソゴソ……

明石『もし見失つたらこれを使つてください』

青葉「あつたあつた……この虫型の小型カメラ。これなら私が追いか

けなくとも大丈夫ですよね」

青葉「よし……いけ！」パタパタ……！

—提督 s i d e —

ティオー「でさく……マックイーンたらまた減量してくるから……」

提督「……マックイーンに可哀想なこととしてやるなよ？」

ティオー「分かつてるつて」

ティオー「あ！あそこの蜂蜜ジュース飲みたい！トレーナー、買つ
て！」

提督「分かつた」ピタツ……↑背中に着いた

虫型カメラ「」

ティオー「はちみはちみはちみー♪」

ティオー「店員さん！蜂蜜濃いめ固め多めで！」

店員「はい、ありがとうございます！」

提督「ええと……値段は……」

—艦娘 s i d e —

赤城「…何か買つてますね…」

蒼龍「…ジユース?」

飛龍「この子がトウカイティオーネ…」

古鷹「可愛いですね」

加賀「…提督つて口リコンじやなかつたはずだけど…」

赤城「まあ、このまま搜査しましようか」

—提督 s i d e —

ティオー「♪♪」

提督「で、次はどこに行くんだい? 帝王様」

ティオー「ニシシ…。じゃあ…ここ行きたい!」→水族館のホーム

ページ

提督「いいぞ、行こうか」

—艦娘 s i d e —

衣笠「…水族館に行くようですね」

飛龍「変装して潜り込む?」

蒼龍「まあ…最近出かけてなかつたしね…」

赤城「…では飛龍さんと蒼龍さん、お願ひします。但しバレないよう…」

飛龍「分かつてるよ」

蒼龍「それじやあ、少しおめかししてくるね」スタスター…

—提督 s i d e —

提督「さて…それじやあ行こうか

ティオー「うん♪」

—艦娘 s i d e —

飛龍「…いた、提督だよ。あの子も一緒にいる」

蒼龍「…それじやあ話したとおりに」

飛龍「…なるべく近づきすぎないように…ね?」

蒼龍「了解」

※安価を取ります。

尾行は? >> 13

1 成功

2 失敗：（トラブル発生）

3 失敗：（バレた）

飛龍「一応インカムで繋がつていてフォロー出来るようにはしているけど…それでも油断しないで」

蒼龍「わかつた」

尾行で最もやつては行けないことは対象者を見失うことである。そのために青葉で失敗したことを踏まえてツーマンセルで見張ることにした。

－水族館－

ティオー「うわあ～！お魚さんが沢山いるよ～」

提督（…青葉のことがあるから少し心配だな）スツ…

ティオー「どうしたのトレーナー？」

提督「大丈夫だよ」

－飛龍 side－

飛龍「…いた。見つけたよ」

蒼龍『どう？』

飛龍「…まだ動きは見せてないけど…取り敢えずもう少し探つてみるよ」

蒼龍『了解』

飛龍（…疑いが晴れてくれればいいけど…みた感じ黒っぽいんだよな…）↑距離を取つてる

飛龍「…ん？」

ウマ娘「…」

ウマ娘2「…」

飛龍「…蒼龍、2人ほど提督に近づく子がいる」

ティオー「あ、？、？2！今日2人もここに来てたの？」

飛龍「…どうやら知り合いみたい」

↑…To be continued

#4 ー追跡ー

ティオー「あ！スペちゃん、スズカ。今日2人もここに来てたの？」

スペシャルウイーク（以下スペ）「あ、ティオーさん！」

サイレンススズカ（以下スズカ）「ここにちは、トレーナーさん」

提督「2人もここに来てたのか？」

スペ「はい！こここのショーを見に来たんです！」

スズカ「スペちゃんがどうしてもというので」 フフ：

提督「そうか。それともこここのクラゲ見たか？」

スペ「はい！可愛かつたですよ！」

飛龍（なんかすごく気軽に話してるし…）

飛龍「…取り敢えず写真を…」パシャ！ピコン！

飛龍「赤城さん、そちらに提督と話してる子の写真送つたよ。ええ
と…スペちゃんとスズカさんとか言つてたけど…」

ー赤城 sideー

赤城「…ありがとうございます。衣笠さん」

衣笠「ええと…見つけた。こつちの子茶色の栗毛がサイレンススズ
カ、真ん中に白い模様があるのがスペシャルウイークだね」

加賀「…どのような子？」

衣笠「ええとね…トウカイティオーと同じチームの子みたい。チー
ムスピカだつて」

伊勢「…スピカ…おとめ座の一等星の名前だね」

衣笠「2つ名は…サイレンススズカの方は『異次元の逃亡者』、スペ
シャルウイークは『日本総大将』と呼ばれてるらしいよ」

羽黒「す…凄い2つ名だね…」

※2人の共通は騎手が武豊騎手（スズカは天皇賞・秋で故障した時、
スペは武豊騎手の初めてのダービー制覇に乗つてた）

加賀「…この2人にも探りを入れましょう。誰か付けてくれない
？」

※安価を取ります。

誰をつける？」 21

(2人でお願いします)

瑞鶴 「ならあたしが探るよ」

翔鶴 「そうですね。私も瑞鶴と同行します」

加賀 「…分かつたわ。瑞鶴、くれぐれもバレないよう細心の注意を払うのよ」

加賀(異次元の逃亡者)「どれほど早いのかは分からぬけど…見つかつたら速攻で見失うわね…」

瑞鶴 「分かつてるよ」

一水族館」

瑞鶴 「飛龍さん、お疲れ様です」

翔鶴 「私たちはあの子達について行きます」

飛龍 「2人ともお疲れ様、今蒼龍がついて行つてから交代してあげて。私たちはここで提督を捕まえるから」

瑞鶴 「了解です」

イルカシヨーー

ティオー 「うわあ♪♪すぐ～い！」

バシャーン！

提督 「よくあんな芸ができるな…」

飛龍 「…見つけた…早速近づいて…！」

観客 「あ／＼あなたトウカイティオーですよね！私ファンなんですよ。サインしてください！」

観客2 「えつ?!トウカイティオー!?

観客3 「ティオーがいるぞ！」

ワイワイ!!

飛龍 「うわっ?、なにこれ…きやあ!!」→人混みに巻き込まれた。

提督 「すいません、今はプライベートなので…」

ティオー 「トレーナー、は…早く行こう…」

飛龍 「うわっ?!まずい…このままじゃ?!」

観客 「そんなこと言わずにサインを…」

提督 「ダメです！」

飛龍 「くつ?!もう少しなのに！」

—提督 side —

提督「凄い人だつたな…」

ティオー「あんなに僕のファンがいたんだね…。さすがにプライベートのときはやめて欲しかつたけど…」へへへ…

提督「さて…そろそろ日が暮れるし帰るか」

ティオー「うん！」

—2 航戦 side —

蒼龍「飛龍?! どうしたの?!」

飛龍「…人混みに巻き込まれた…もうボロボロ…」

蒼龍「まずいな…こつちはスペシャルウイーク達を見張つてたから提督を見失つちゃった…」

飛龍「こりや加賀さんに怒られるな…」(――;)一車)

加賀「…見失つてしまつたのね」

飛龍『ごめん…』

加賀「仕方ないわ。ハプニングなんだから。取り敢えず、今日はここで切り上げましよう」

加賀「トレセン学園は寮制、学校にいれば確實に提督は姿を現すのだからそこを捕まえましょう」

—一方、瑞鶴 side —

瑞鶴「…」↑尾行中

スペ「今日は楽しかつたですね、スズカさん」

スズカ「ええ、スペちゃん」

スズカ「…」チラツ↑後ろを見た

瑞鶴「！」スツ！

スズカ（やつぱり誰かにつけられてる…まさか…）

スズカ「…」スタスタ…

スズカ「…」ピタツ

スペ「どうしました?」

瑞鶴「…」ピタツ…

瑞鶴「あれ…おかしいな…」↑物を探してゐる振り

スズカ「…怪しい…」

瑞鶴（気づかれた…）

スズカ「…スペちゃん、走つて」

スペ「えっ？なんですか？」

スズカ「いいから！」ダツ！（コンセントレーション）

スペ「えっ?!待つてください！」↑出遅れ

瑞鶴「！待て！」ダツ！（タービン×4）

スズカ「やつぱり…！」

スペ「えつ？えつ？」↑取り敢えず走つてゐる

瑞鶴「翔鶴姉！気づかれた！今追つてるからG P Sで確認して援護

して！」

翔鶴『分かつたわ』

瑞鶴（逃がすもんか…！）

チエイス開始！

↑……To be continued

#5 一拉致ー

スズカ「本当に追つてきてたなんて…」

スズカ（走る事なんて想像してなかつたから…走りにくい…）ダダダ…：

スペ「スズカさん！待つてください!!」ダダダ…！

瑞鶴「ここで捕まえなきや申し訳立たないのよ」ダダダ…：

スズカ「…！」↑倒れてる自転車

スズカ「はあ！」スツ…スタッ！ダダダ…：

スペ「うわあ?!」スツ…スタッ…！ダダダ…：

瑞鶴「逃がさない！」スツ…スタッ！ダダダ…：

スズカ（まだついてくる…）↑長距離は苦手

スペ「うう…疲れてきました…」↑太り気味

瑞鶴「…追いつける」

スズカ（なんとしてでも…逃げ切る！）↑先頭の景色は…：

翔鶴「瑞鶴、見つけたわよ！」

スズカ「?!きやあ?!」↑間一髪避けた

スペ「う…うわあああ?!」↑止まれない

翔鶴「えつ?!」

ドシーノン！

翔鶴「ハレハレ…」↑星が回つてゐる

スペ「うう…」↑星が回つてゐる

スズカ「スペちゃん?!」

瑞鶴「一人確保！でも逃がさないわよ」

スズカ「…！」

スズカ（ごめんなさい…スペちゃん…！）ダツ！

スズカ（早く…早くトレーナーさんに伝えないと…）ツルツ…

スズカ「えつ?!」↑バナナで転んだ

スズカ（うそ…でしょ…）

瑞鶴「あ…危ない！」

スタッ！

スズカ（た…助かつた?）

瑞鶴「さて…捕まえた…それじゃあ寝てもらうよ」
プシユ…→睡眠
薬の入った水

スズカ「う…うう…」バタツ…

翔鶴「うう…なんで私ばつかり…」

スペ「…↑氣絶

瑞鶴「…それじやあ加賀さん呼んできてもらうか
ー?ー

(す…か…ん)

(すず…さん…)

(スズカさん…!)

((スズカさん!!))

スズカ「?!」

スペ「スズカさん！」

スズカ「スペちゃん…無事だつたのね…」

スペ「ですが…」↑椅子に拘束

スズカ「!」↑椅子に拘束

スペ「わ…私達…どうなつちやうんでしょう…」ブルブル…

スズカ「…大丈夫よ、私が守るから…」

加賀「あら? 目覚めるのが早かつたわね」

スペ「あ…あなたは一体…それにここはどこですか！」

加賀「ここは横須賀鎮守府よ。私は加賀、あなた達の尋問官よ」

明石「あ、私は明石です」

スズカ（横須賀…なんでそんな所に…）

加賀「单刀直入に聞くわね。この男を知らないかしら?」

スペ「?!トレーナーさん?!」

スズカ「…トレーナーさんがどうしたんですか?」

加賀「さて…あなたたちに質問するわ。この男とどこで出会ったの
?」

スズカ「…」

スペ「…教えません…」

加賀 「えつ？」

スペ 「教えません!!」

スペ 「そもそも私たちを誘拐するのは犯罪ですよ！今すぐ解放…」

ガシツ！

加賀 「…教えないのね」

スズカ 「スペちゃん?!」

スペ 「ふ…ふぐつ…」

加賀 「…なら強制的に聞きましょうか」 スツ…

加賀 「…この自白剤で」

明石 「えつ?!それ使わないんじゃ?!」

加賀 「この自白剤は本来使うことが禁止されてる物…打てば性格が
変わららしいのだけれども…」

スペ 「ひつ?!」

加賀 「打つたら廃人になるか死亡するらしいわ…打つことないか
ら分からぬけどね」

スペ 「い…嫌です！」 ポロポロ…

加賀 「なら答えなさい」

スペ 「嫌です！」（鋼の意思）

加賀 「そう…なら…」

スズカ 「…待つて」

スズカ 「…私が話すからスペちゃんには手を出さないで」

スペ 「スズカさん…」 ポロポロ…

スズカ 「…お願いします」

加賀 「…そう、じゃあ嘘発見器つけさせてもらうわね」

↑……To be continued

#6 一尋問ー

加賀「この嘘発見器はここにいる明石が作ってね…かなり高性能な物よ。もし嘘だと分かつたら…」

スズカ「…わかってます」

加賀「じゃあ試しに…貴方は男性かしら」

スズカ「…はい」

ビービービー!!!↑嘘発見器作動

スペ「ひやあ?!」ビクツ!

明石「正常ですね」

加賀「そう、じゃあ名前から。あなたの名前はサイレンススズカね」

スズカ「はい」

加賀「…走り続けることが趣味…変わってるわね…そしてあなたがスペシヤルウイークね」

スペ「はい…」

加賀「それじゃあ質問、貴方はどこでこの男とであつたの?」

スズカ「…私が出会つたのはどこ?」

スズカ「トレセン学園で、トレーナーさんと会いました」

加賀「…なぜあの男はあそこで働いているの?」

スズカ「…分かりません」

加賀「本当かしら?」

スズカ「ほ…本当です!」

加賀（…音が鳴らない…どうやら本当のようね…）

加賀「…いいわ、信じてあげるわ。では最後、この男はいつからトレーナーをやつてるの?」

スズカ「に…2ヶ月くらい前からです」

加賀（丁度提督がいなくなつた時期と被るわね。間違いないわ）

加賀「…質問は以上よ」

スペ「…た…助かつた…」はあ…

加賀「それじゃあ…」スツ：

明石「ちよつとすいませんね」バサツ！↑麻袋被せ

スズカ「?!」バサツ！

スペ「な…なにするんですか?!」もゞ’もゞ’…

加賀「拘束は解いたわね。連れていくわよ」

ー?ー

スペ（ど…ど…）につれてかれるんですか?!も…もしかして海に沈めるとか?!聞いたことがある…）

スペ（なんかヤクザとか軍の人は捕虜を海に捨てるつて…!もしかして海に?!じやなくとももしかしてどこかに埋めたり…どつちにしろこれつてまずいことじや?!）

スペ（ドラム缶につめて『東京湾に沈めてやる』って言われるんだ…!それか山で穴を掘らされて深くほつた方が生き残らせてやるつて言われて…あああ…）サアア…（因みにやるとバレるのでやらないでください。本当のヤクザは死体すら残さないので）

スペ（こんなことになるんだつたらもつと人参食べておけばよかつた！お母ちゃん〜！）（T—T）

※海軍は戦死、病死した遺体を海に埋葬する。ただしネルソン（軍人）は戦死した後、遺体が腐らないようにラム酒漬け港まで持ち帰つて国葬になった。

スズカ（もう…走れないの…まだ…何も恩を返せてないのに…）めんなさい…皆…トレーナーさん…）

ガチャ…！

加賀「着いたわよ」バサツ！

スペ「…ここは…どこ…ですか？」

スズカ「…?」

赤城「こんにちは」

スペ「?!」

赤城「私は赤城と言います。そしてここにいるのが…」

吹雪「提督の妻です」

スズカ「…えつ？」

スペ「えつ？」

赤城「あなた達風に言えばトレーナーですね」

スペ「ええええーーーーー!!!」
スズカ「トレーナーさんつて奥さんいたんですね？」
赤城「正確には私が第1妻、つまり正妻です」
スペ「…えつ？第1？」
加賀「明石を除いてここに居るのが全員提督の妻よ」
スズカ「…（。△。）」
スペ（もう訳分からないよ…）
飛龍「全員で14人ね」
スズカ「…（。△。）」
スペ「スズカさん？」
赤城「…1人驚いてるけど続けます」
赤城「私たちは今戦争をしてます。それも日本や世界を賭けた戦い
です。最近では日本近海は完全に駆逐しましたがそれでもまだ終戦
には程遠いのです」
スペ「…何が言いたいんですか…」
赤城「そのため提督を返して欲しいのです。まだ私たちの戦いは続
きます。そのため指揮官がないと行動が出来ないです」
スペ（…気持ちちは分かる…トレーナーさんの奥さんでしかも戦争を
して命を失うかもしれないのに戦ってる…私たちの夢よりトレー
ナーさんの力が必要…）
スペ（だけど…）
スペ「あ…あげません…」
赤城「…？」
スペ「と…トレーナーさんはあげません！」
赤城「！」
スペ「スズカさんやお母ちゃんのためにも日本一のウマ娘になりました
いんです！だから…トレーナーさんはあげません!!」
スズカ（スペちゃん…）
スペ「そ…それと…スズカさんには何もしないでください！わ…私
が…」
翔鶴「…どうしますか…」

赤城「…加賀さん」

加賀「はい」スタスタ…

スペ「…」ギュッ…

加賀「これを」チャリ…↑鍵

スペ「…?」

スズカ「鍵?」

赤城「ここに住むための鍵ですよ」

スズカ「…住む…? どういうことですか?」

赤城「あなた達を人質とする代わりに命、そして衣食住を保証します」

赤城「…あなたのその気高き夢に敬意を評して」

スペ「…」

赤城「しばらくは学校には帰れません…ですか、ここで皆さんと生活してもらいます。私達にはどうしても提督が必要です」

赤城「ですがあなた達の事もよく分かります。ですから提督と直接相談して解決次第貴方たちを帰します」

スズカ「…分かりました」

スペ「スズカさん!」

スズカ「スペちゃん…ここは従いましょう…」

赤城「ありがとうございます。では吹雪さん、案内をお願いします」

吹雪「はい、分かりました」

スズカ（私達…どうなるの…）

↑… To be continued

#7 一搜索ー

ートレセン学園ー

スピカ部室へ恋の花火よよ～いドッカン！派手に上げろ純情！覚悟
決めて勝負しなきや！♪恋はダービー

ティオー「明日？やだね！今すぐ step by step！」タタタ…↑

ティオーステップ

マツクイーン「朝からうるさいですわよ！」※ちなみにマツクイー
ンだけ持つてない…。

ティオー「あれ？マツクイーン。カロリー制限しててイライラし
てる？」

マツクイーン「してませんわよ！」

ゴルシ「まあまた…マツクちゃん…そこまで怒らなくていいじやん
…」

マツクイーン「あなたもあなたですわよ！」

ゴルシ「今度奢つてやるから…な…」

マツクイーン「…仕方ないですわね…」

ダスカ（マツクイーン…ちよろいわね…）

ウオツカ（気が合うな…）

ゴルシ「おい、誰かスペとスズカ知らねえか？」

ティオー「あれ？スペちゃんとスズカなら昨日会ったよ？」

マツクイーン「おかしいですわね…いつもスズカさんは誰よりも早

く来て走つてますのに…」

ゴルシ「スペの補習を手伝つてんじやないのか？」

ダスカ「まあ…有り得そただけど…」

コンコン…

ティオー「は～い！」ガチャ…！

ルドルフ「やあ、ティオー」

ティオー「うわあ！カイチヨー！それど…」

グルーブ「なにか不満か？」

ティオー「エアグルーヴ…」

ルドルフ「ティオー・スペシャルウイーグとサイレンスズカが来てないか?」

ティオー「えつ? 来てないけど?」

ルドルフ「やはりか?」

マツクイーン「やはりとは?」

グルーブ「栗東寮長のフジキセキに聞いたのだが、昨日から帰っていないそうだ。しかも外泊届けも出てない」

グルーブ「だが、ひとつ気になるのだ。あの走りにしか興味がないスズカが、夜遊びをするのかと?」

ゴルシ「するんじやね?」

グルーブ「お前は黙つてくれ!」

ルドルフ「…ただ夜遊びならまだしも最悪の事態が考えられる…」

ウォツカ「…最悪の事態…?」

ルドルフ「…誘拐だ」↑正解

ティオー「誘拐? まっさか?」

ルドルフ「…確かにウマ娘の初速、加速度からしてまず走つて追いつくのは無理だ」※追いつけました。

グルーブ「だから仮説をたてた。まず、後ろから近づいてそのまま拘束するやり方:」

ルドルフ「…だが、これは耳がいいウマ娘では人間の足音にすぐ気づく可能性が高い。よつてこれは違うとした」

ダスカ「確かに…私達は耳が良くてトレーナーとかの足音もすぐわかるし…」

ウォツカ「なんだ? 分かるのか?」

ダスカ「?! た…たまたまよ!」

グルーブ「続けるぞ。あるいは食べ物で釣るとかな」

ゴルシ「いや、無理だろ。仮にスペが掛かつてもスズカがいるんだぞ?」

グルーブ「ああ、だからこれもなしになつた」

ルドルフ「1番可能性が高いのは…2人が歩いてる場所に車が来て複数人で車内へ押し込むというものだが…まずウマ娘は一般人より

パワーがある。だからこれもはつきりいって難しい…。まあ、そんなことは置いておこう」

グルーブ「兎に角、今日からトレーニングは中止して搜索を開始するぞ」

ルドルフ「そうサクッと見つかる訳では無いと思うがみんなで見つけよう」ククク：

グルーブ「…」←絶不調

ティオー「…分かったよ」

マツクイーン「私達も探ししましょう」

ゴルシ「よし！それじゃあこのゴルシちゃんレーダーを使うぞ

！」

ルドルフ「それではよろしく頼む。私たちでも搜索してみるつもりだ」

↑……To be continued

#8 一嫌悪一

一横須賀鎮守府一

スズカ「…」

スペ「…キヨロキヨロ…」

吹雪「では案内しますね」

スズカ「…吹雪さん：でしたつけ？あなたもトレーナーさんの…」

吹雪「はい、結婚してますよ。結構遅い方ですけど…」

スズカ「…あなたから見てトレーナーさんってどう映るの？」

吹雪「そうですね…司令官は優しくて私がここに初めて着任してからずつと優しく接してくれました」

吹雪「…私は浮気なんてしてて欲しくないです…」

スペ「…」

吹雪「…なんか薄暗くなつてごめんなさい。こつちです」

一宿舎5階一

吹雪「…この部屋です。トイレスは各階、お風呂は下の大浴場にあります。それと…この腕時計を」

スペ「…これは？」

吹雪「あまりお金を持つてないと思うのでお財布代わりとそれと…」

スズカ「…GPSという事ね」

吹雪「はい…」

スズカ「…ありがとう」スツ…

スペ「綺麗…」パチッ！↑腕時計装着

吹雪「中にこちらから10万円程使えるようにしてあります。そのお金はここでしか使えないのに注意してくださいね」

スズカ「はい」

吹雪「そろそろ食事の時間なので案内しますね」

一食堂一

ガヤガヤ…

スズカ「…ここが食堂？」

スペ「うわあ…」

吹雪「はい、注文すれば好きなものを食べられますよ」

? 「吹雪、その人達は誰?」

※安価を取ります。

誰? » 4 3

(单数でも複数人でも構いません)

叢雲「吹雪、その人たちは誰?」

深雪「人なのに耳としつぽか生えてるぞ?」

白雪「艦娘…じゃないですよね?」

スペ「え…ええと…」

スズカ「吹雪さん…この人達は?」

吹雪「あ、私の姉妹艦です。挨拶させますね」

白雪「こんにちは、特型駆逐艦2番艦の白雪です」

初雪「3番艦：初雪…」

深雪「深雪だよ! よろしくな!」

叢雲「5番艦の叢雲よ」

薄雲「6番艦の薄雲です」

磯波「9番艦の磯波です」

浦波「10番艦の浦波です」

綾波「11番艦の綾波です」

敷波「12番艦の敷波です。以後よろしく~」

天霧「15番艦の天霧だ」

狭霧「16番艦の狭霧です」

朧「17番艦の朧です」

曙「18番艦の曙よ」

漣「19番艦の漣です!」

潮「20番艦の…潮です」

暁「暁よ。一人前のレディーとして読んでよね」

響「響だ。よろしく頼む」(ベールヌイだが、響とする)

雷「雷よ。よろしくね!」

電「電なのです。よろしくなのです」

スペ「お…多すぎて頭がこんがらがります…」

スズカ「…これ…みんな姉妹なの？」

吹雪「そうですね。まだ見つかっていない子もいますが…」

曙「…あんた」

スズカ「えつ？私？」

曙「クソ提督を、返しなさいよ」

スペ「えつ？」

曙「ウマ娘とか競馬知らないけどね私達は戦争してるの。平和でノコノコしてかけっこしてあんた達じゃないのよ！だからクソ提督：いや司令官を返しなさいよ！」

スズカ「…ただの…かけっこ？」ピクツ：

スペ「ス…スズカさん？」

スズカ「…私は1つの戦いに命を懸けてる。私達は常に結果が求められ続け、ファンの皆さんとの期待を一身に背負って、血を吐くような練習をしてレースに挑んでる…。中には夢半ばで引退を余儀なくされる子もいる。その子達の思いも私たちが背負って走ってるの」↑曙睨み

スペ（ス…スズカさんが怒ってる所：初めて見た…）

スズカ「…私だつて一度怪我をしてもうダメだと思ったけど、今こうして走れてるのはファンの皆さんとスペちゃんがいてくれたからよ。軽々しくかけっこなんて言わないで！」

曙「…何よ。ただの泥棒猫のくせに…」スタスタ：

吹雪「だ…大丈夫ですか？」

スズカ「…ごめんなさい。ですがどうしても許せなくて」

潮「ごめんなさい…曙ちゃんはあんな子だけど…優しい子なので…」

スズカ「…」

スペ「は…早くご飯にしましよう！」

※もしよろしければ艦娘[♂]と共にウマ娘に対してもう思つてるか考えてくださいと嬉しいです（数値は後書きを参考にお願いします）

スペ「あの…すいません！にんじんハンバーグありますか？」

鳳翔「にんじん…?」（？▽？；）↑給仕係

スズカ「スペちゃん…ここはカフエテリアじゃないわ…」

スペ「あつ?!」

スズカ「すいません、この焼肉セットを2つお願ひします」

鳳翔「あ、分かりました。ご飯はどうします？」

ご飯のサイズ

小盛、並盛、大盛り、特盛、キング、赤城盛り

スペ「1番大きいのはどれですか？」

鳳翔「え…ええと…これです」（赤城盛り）

スペ「じゃあこれでお願いします！」

ザワツ…ザワツ…

電「あ…赤城盛りを食べるのです？」

雷「ええ…確かに聞いたわ…」

那智「…信じられんな…」

スペ「えつ？何かおかしなことを？」

吹雪「だ…大丈夫ですよ」（――；）

スズカ「私は普通でいいです」

ー5分後ー

吹雪「それじゃあ、私と食べましょか」

スペ「いいんですか？」

吹雪「はい、私もふたりと仲良くなりたいので」ニコツ

スズカ「…分かつたわ。それじゃあ一緒に食べましょ

ーテーブルー

3人「いただきます！」

スペ「…！美味しいです！軍の食事って不味いってネットで噂になつてましたけど…ここまで美味しいなんて…」

吹雪「…この野菜は自家製で無農薬で作っています。牛肉とかも提供しての農家が直接朝届けてくれるので新鮮なんですよ」

スズカ「…お魚とかもあるの？」

吹雪「基本はお肉じゃなくて魚の方が多いですね」

吹雪「他の鎮守府はどうかはわかりませんが、ちゃんと美味しい料

理を出してくれますよ」

スズカ「…吹雪さんとは仲良く出来そうね…さつきの曙光…は許せないけど…」

スズカ「…吹雪さん、よろしければ鎮守府の中を案内して頂けませんか？」

吹雪「はい、もちろんです」

? 「…吹雪、その子は?」

※安価を取ります。

話しかけてきたのは?」 56

(单数でも複数人でも構いません)

霞「…吹雪、誰よ。その部外者は」

満潮「…こんな所に穀潰しがいるなんて」

スズカ「…穀潰し…?」 ピクツ

スペ「!」

霞「それよりあのクズを返してよ。あ、あなたのところではトレーナーだつたわね。訂正するわ、クズトレーナーを早く返しなさい」

スズカ「…クズ?」 ピキピキ：

満潮「あんた達があいつを唆したからあのアホはノコノコついてつてんでしょう? 迷惑だから今後関わらないで」

スズカ「…アホ?」 ↑血管浮き出てる
スペ「あわわ…」 ブルブル：

霞「なんとか言つたらどうなの!」 ↑スズカを掴もうとした

スズカ「…チツ」 バシツ! ↑手をはたいた

霞「何よ?」

ドン! ↑机叩き

スズカ「…取り消してなさい。…トレーナーさんへの侮辱を取り消しなさい」

スペ(ひいい…!)スズカさんが舌打ちして本気で怒つてる… ブル
ブル：

スズカ「私達に親切にしてくれているトレーナーさんへのその侮辱…絶対に許しません」 ゴゴゴ…

霞「はあ？ だつたらなんなの？ クズにクズつて言つて何が悪いのよ」

満潮「そんなんにふざけたことしてるんなら同じ仲間同士イチャイチャしてれば？ ペチヤパイ女」

スズカ「ブチツ

その一言がスズカの逆鱗に触れた…。

スズカ「…」スツ↑拳振り上げ

スペ「ダメです！ スズカさん！ 手を出したら負けです！」ガシツ！
↑羽交い締め

霞「そう…やる気なのね？」ガチャ↑艦装展開

満潮「容赦しないわよ」↑同上

スペ「も…もう抑えきれな…」

バーン！ チヤリンチヤリン…↑薬莢転がり

スペ「ひやあ?!」ビクトッ！

スズカ「?!」ビクトッ

吹雪「…満潮ちゃん？ 霞ちゃん？ 懲罰房に入れられたいの？」↑空砲

霞「でも…！」

吹雪「私には駆逐艦の統率、懲罰権があること知ってるよね？ スズカさん達には手だし無用、これは私たちの中でもう決めた事。もし破るなら…閉じ込めていいんだよ？」

満潮「…くつ…」

霞「…ふん…好きにしなさいったら」スタスタ…

吹雪「…落ち着きましたか？」

スズカ「…ありがとう。少し頭に血が上つてしまつたわ…」シユン

⋮

スペ「…スズカさんがあんなに怒るなんて…」

スズカ「…スペちゃん、止めてくれてありがとう。でも…私はどうしても許せなかつた。トレーナーさんがあんなに頑張つてゐるのに侮辱され続けることがどうしても許せなかつたの…私達は仏様や神様じやない…。怒りたいことがあつたら怒つていいのよ」

吹雪「…あの2人は着任してからあんな言葉遣いを使いますが、同時に司令官を頼りに思つてます。私からも言っておきますね」

スズカ「…そう…（…あの曙と言い、侮辱するなんて…）」↑未だに

少し怒つてる

吹雪「あ…私はそろそろ会議があるので行きますね」

スペ「あ…ありがとうございます」

吹雪「他の子もどう思つてるか分からないので気をつけてください」

スズカ「…いい子ね」

スペ「はい、そろそろお風呂に入りましょうか」

スズカ「ええ」

↑…To be continued

#9 一目標ー

一嫁艦の部屋ー

吹雪「遅くなりました」

赤城「いえ、案内お疲れ様です。これでも食べますか?」→ケーキ

吹雪「あ、ありがとうございます」

加賀「さて…次の作戦は…」

瑞鶴「ねえ?また攫う?」

羽黒「ふえっ?!そんなことしていいんですか?」

翔鶴「流石に何人もはやりすぎじゃ…」

加賀「…翔鶴、分かるわ。でもあの子たちだけでは人質としては不十分。私たちの目的は提督を取り戻すことよ」

大和「でしたら…トレセン学園のトップを捕らえては?」

神通「…生徒会ですか?」

吹雪「今でもかなり衝突が起こつてるのに大丈夫ですかね…」

飛龍「なら同じチームの子は?」

蒼龍「トウカイティオー?」

青葉「チームスピカにはスズカさんとスペさん、トウカイティオー以外に、メジロマックイーン、ゴールドシップ、ダイワスカーレット、ウォッカが所属しますね…」

比叡「で…捕まえられそうな子は?」

衣笠「このゴールドシップなんですが…かなり情報が分からなくて…」

加古「…学年が分からなって…」

衣笠「色々未知数なんですよ…家族、体重、学年…かなり破天荒らしいです」

一トレセン学園ー

ゴルシ「へクチツ!誰かあたしの噂してるな?」

マツクイーン「気のせいですわよ」

一横須賀鎮守府ー

加賀「…兎に角、それ以外が良さそうね…」

赤城「…では攫う事は決定するとして…誰を攫いますか?」
※安価を取ります。

次のターゲットは?」 67

1 生徒会

2 ダスカ、ウオツカ

3 テイオー

4 その他(マックイーンや他の生徒)

加賀「…ティオーでいいのでは? 直接提督の本丸に近づけるだろうし」

赤城「…分かりました。ではトウカイティオーで決まりですね」

加賀「…それと瑞鶴、あなた…」

瑞鶴「…えつ?」

一風呂一

スペ「ふああ♪♪」

スズカ「…気持ちいいわね…」

スズカ(色々なことがあつたわね…)

スズカ(…あの3人は絶対…)

スペ「スズカさん、気持ちいいですね」

スズカ「ええ…(スペちゃんが無事で良かつたわ…)

一翌日一

ティオー「はちみーはちみーはちみー♪はちみーを舐め〜ると♪



マックイーン「…なんなんですのその歌…」

ティオー「えつ?はちみーの歌だけど知らないの?」

マックイーン「…今、カロリー制限してるのでやめて下さらない…」

ティオー「ええ…あ、マックイーン。なんかスペちゃん達を誘拐したらしい犯人の写真を見る?」

マックイーン「誰なんですか?」

ティオー「これ。なんかツインテールで、サングラスをかけててマスクをしてる見るからに怪しい女性」

マックイーン「…こんなのが街中にいたら1発で…」スツ…

瑞鶴「…」↑前方を歩いてる（しかもティオーが言つた姿で）
マックイーン「…いましたわ」

ティオー「…いたね」

ティオー「取り敢えず捕まえて学校に連れていく？」

マックイーン「ええ…洗いざらい吐いて貰いましょう」ダツ！

ティオー「よーし！マックイーンには負けないぞ！」ダツ！

瑞鶴「…？」クルツ：

マックイーン「見つけましたわよ！スズカさん達ををさらつたのは貴方ですわね！」

ティオー「さあ、大人しくお縄につけ～！なんてね！」

瑞鶴「げつ?! ヤバッ！」↑タービン×4

マックイーン「逃げましたわよ！」

ティオー「この無敵のティオー様からは逃れられないよ！」

チエイス開始！

↑… To be continued

#10 一餌兵ー

マツクイーン「スズカさんやスペシャルウイークさんはどこですか
！」ダツ！

瑞鶴「くつ…」

ティオー「捕まえてカイチヨーに褒めて貰うぞ～！」↑長距離A
マツクイーン「…捕まえたらルドルフ会長からなんでも叶えると言
われてますゆえ、お覚悟を！」

瑞鶴（…これで…いいんだよね？）

瑞鶴（なら…！）

マツクイーン「長距離は得意ですの！絶対に逃がしませんわよ！」

↑長距離A
—廃工場—

瑞鶴「…」ハア…ハア…！

ティオー「追いついたよ！」ハア…ハア…！

瑞鶴「うわあ⁈」ガシツ！

マツクイーン「良くやりましたわ、ティオー！」ハア…ハア…！

ティオー「さあ！素顔を見せてよね！」↑サングラス取り

瑞鶴「うわっ⁈」

マツクイーン「…良く一般人にしては私たちを追いつかせませんで
したね」

ティオー「僕もうクタクタ…早く連れて帰ろうよ～」

瑞鶴「…おかしいと思わなかつた？」

マツクイーン「…何がですか？」

瑞鶴「私がこんな所に逃げ込んだことがおかしく思わなかつた？」

ティオー「…どういう事？」

瑞鶴「…孫子曰く：餌兵に食いつくべからず…私は囮よ」

※孫子兵法九変編から引用。

—加賀との会話—

加賀「瑞鶴、あなた囮になりなさい」

瑞鶴「えつ⁈」

加賀「そして指定された場所まで逃げ切る。あとは捕獲係の仕事よ」

蒼龍「どういう事?」

加賀「きっと、スズカさん達を捕らえた時に誰か少なからず瑞鶴の姿を見てるはず。それを凹にして追いついたところを捕捉する」

古鷹「そんなに上手く行きますかね?」

加賀「ウマ娘はスタミナがあるわ。だけどそれも無限じゃない。へ口へ口にされたところを襲われたら…」

どうなるでしょうね?

一廃工場ー

マックイーン「…!」

アイオワ「ハーア! Y o u 達がアドミラルを誘惑した子ね」

サラトガ「少しお話しましようか」

アトランタ「もちろんここじゃないけどね」

ワシントン「お前と手を組むのは癪だが…やるしかないな」

サウスダコタ「…霧島から言われたのだ。しようがないだろ」

サラトガ「瑞鶴、Thank you. ジョン斯顿達は他のところにいるわ」

ティオー(これ…)

マックイーン(かなり不味いですわね…)

この時、ティオー達は初めて罠に嵌められたことを知った。そして自分が追う側から追われる側になる事を初めて認識した。誘引の計により戦局は一気に艦娘に変わったのだ。しかも2人ともほぼスマナを使い切つた状態だった。

マックイーン「に…逃げますわよ…!」

↑……To be continued

#11 一捕縛ー

サウスダコタ「無駄だ。お前達はチエスや将棋で言うところのCh
eckmateに嵌つたんだからな」

マックイーン（いくらなんでもタイミングが悪すぎますわ…）
なつたらバラバラに逃げて…
ジョン斯顿「待つてたわよ。さあ、こつちに来てもらいましょう
か」

マックイーン「くっ?!」ガシツ!

ティオー「いくら僕でもこれは無理だよー!」ガシツ!

アイオワ「捕まえたワ」ガチャ!

ティオー「うえつ?!手錠?!離して!」→手を後ろで拘束

マックイーン「くつ…こんなことして…あなた他たちの目的はなん
ですの…!」↑同上

サラトガ「私達は命令に従つてるだけなので。あ…これしてくれさ
いね」目隠し+猿轡

マックイーン「な…なにをす…むぐつ?!」→目隠し、猿轡セット

ティオー「や…やだや…む…!」↑同上

ブチッ!↑お守り

イントレピッド「捕まえたかしら?」

サム「じやあ連れていくか

マックイーン「む…!む…!!」

ティオー「ふ…!ふ…!」

一街中ー

キタブラ「この辺でティオーさんがなにか追いかけてたけど…」

サトダイ「マックイーンさんも女人…追いかけてたよね?」

キタ布拉「…なにか見つけたのかな?」

サトダイ「…分かんないけど…最近誘拐される事件があるらしいか
ら…」

キタ布拉「…あれば犯人だつたのかな?」

キタ布拉「…何か胸騒ぎがする…」ダツ!

サトダイ「えっ?! キタちゃん?!」

—5分後—

キタブラ「ティオーサーん! マツクイーンさーん!」

サトダイ「…! キタちゃん…これ!」↑お守り

キタブラ「これ…私がティオーサンに渡した…」

サトダイ「何でこんな所に…」

キタブラ「…まさか…」汗ダラダラ…

サトダイ「…キタちゃん…?」

キタブラ「…誘拐されたんだ…でなきやこんな廃工場にティオーザ
んのお守りが落ちてるわけが無いよ!」

サトダイ「そ…そんな訳…」

キタブラ「…いや…そんな…ティオーサン…」

サトダイ「…」

ー?ー

マツクイーン「むく!」

ティオー「フウ…! フウ…!」

ガチャ! ガチャ…!

明石「磔完了です」

神通「じやあ目隠しと猿轡を外してください」

ティオー「ブハッ?! このど…?! てかにこれ?! 捕まつてるんだけど
！」

マツクイーン「…あなた達の目的はなんですか…! 身代金が目的で
すの…!」

マツクイーン「それとあなた達は誰ですか…!」

神通「そんなに質問されても困ります…」

伊勢「じゃあ教えるよ。このは横須賀鎮守府。私は艦娘の伊勢、
こつちは神通」

神通「よろしくお願ひします」

伊勢「さて…じゃあこの人知ってるよね?」↑提督の写真

マツクイーン「…! レーナーさん!」

ティオー「なんでトレーナーの写真が!?」

伊勢「じゃあ今から質問するから正直に答えてよ? 答えなかつたら
容赦しないからね」

神通「既に自白剤は用意してますので」

ティオー「?! 注射?! いやだいやだいやだ〜!」^{↑医者が苦手}

マツクイーン「…」

伊勢「無理やりでも答えてもらうよ。質問は既に拷問に変わってる
んだからね」

↑……To be continued

#12 一拒否ー

伊勢 「じゃあ質問するよ？あまり手荒なことはしたくないからね」

神通 「提督の居場所はどこですか」

マックイーン 「…教えて」

ティオー 「ええつ?!マックイーン！」

マックイーン 「あなた達にトレーナーさんとのなんの関係があるかわかりませんが教える訳にはいきません」

神通 「関係ならありますよ」 → 戸籍

ティオー 「ん？」

神通 「提督は私達の夫ですよ」

マックイーン 「…えつ？」

ティオー 「ええつ?!トレーナー結婚してたの?!」

伊勢 「これでも関係がわかつたよね。じゃあ答えて」

マックイーン 「…私達にはトレーナーさんが必要なのです。だからいくらあなた達の要望でも教える訳には…！」

神通 「…では自白剤を用意しますね」

ティオー 「ちょっとマックイーン?!いやだ…！注射だけは嫌だ！」
！」ガタガタ…

伊勢 「いいの？打つたら人格変わるよ？」

マックイーン 「ええ構いませんわ！さあ、早くやつてくださいまし！」ブルブル…↑足が震える

神通 （…これ以上聞いても…）

伊勢 （出ないかもね。もしかしたら嘘つかれるかも）

マックイーン 「…どうしましたの」

明石 「どうしますか？一応拷問用のやつは用意しましたけど…」 → 鉛のスプリンクラー

※鉛のスプリンクラー：中に油や溶けた金属などを入れて受刑者にかける拷問。中でも溶けた銀が…

神通 「いいえ、結構です」

伊勢 「じゃあ…連れていくか」

ティオー「えつ?どこに?ムグツ?!」↑麻袋

マツクイーン「ティオー?!なぜゴールドシップさんのこと…

きやあ?!」↑麻袋

神通「じゃあ連行しますね」

一嫁艦の部屋

スペ「あの…ここに呼ばれたのって…」

赤城「すぐ分かりますよ」

ガチャヤ:

ティオー「うわつ?!」バサツ!

マツクイーン「きやあ?!」バサツ!

スペ「えつ?!」

スズカ「…ティオーさん…マツクイーンさん…」

ティオー「えつ?スズカ?」

マツクイーン「…」（。 。 ; ; ）キヨロキヨ

口

赤城「どうも」

ティオー「?!だ…誰?」

赤城「あなた達のトレーナーの正妻ですよ」

カクカクシカジカ…↑以下略

マツクイーン「…信じられませんわ…」

ティオー「なんでこんなに奥さんがいるんだよー!僕もトレーナーと結婚したかったのにー!」

マツクイーン「…ティオー?」

比叡「聞き捨てなりませんね!」ガタツ!

ティオー「ひい?!」

赤城「…まあ、それはともかくとして…私達に提督を返して欲しいのですが…おそらく答えは」

マツクイーン「お断りします。もう走れないかもしない私をトレーナーさんはずっと看病してくださいました。まだその恩を返せていません。私は春の天皇賞で勝たねばならないのです。メジロ家の栄光、チームのためにトレーナーさんが必要なのです」

ティオー「僕もトレーナーと離れたくない！」

スペ「…ティオーさん、マツクイーンさん…」

スズカ「…赤城さん、お願ひします。この子達には…」

赤城「吹雪さん、用意してますね？」

吹雪「はい、こちらの鍵を」

マツクイーン「…これは？」

赤城「…ここで住むための鍵です。スペシャルウイーグル達にも渡してあります。あなた達を拘束する代わりに生活の不自由はさせません」

マツクイーン「…戯言ですわね。帰らせていただきます」スタスタ

⋮

赤城「…いいのですか？メジロマツクイーンさん」

マツクイーン「…何がですの」

比叡「帰ると言つてもここは横須賀、しかも軍の基地です。無事に逃げられると思いますか？」

マツクイーン「…恫喝ですか。私には効きませんわ」

蒼龍「…そうか…残念だな。ここ、スイーツ食べ放題なんだけど」

マツクイーン「?! す…スイーツですって?!」

蒼龍「うおつ…凄い食いつき」

加賀「あなた達を攫うにあたつて色々調べさせていただきましたが、あなたはスイーツに目がないと。なんでも街中でスイーツを買う時が1番楽しそうだと書いてありましたが」

加賀「そこで用意したのが…」

モンブランパフェ「」

マツクイーン「…！」

飛龍「あなたの為に用意した新作パフェだよ」

蒼龍「私たちでも食べてない物なんだけど…食べる？」

マツクイーン「…え…そ…それは…」

スペ「うわあ…美味しそう…」

古鷹「えつと…これは間宮さんが選別した高級な栗しか使つてないモンブランパフェなんだけど…」チラツ…

マツクイーン「…」→すぐ欲しそうな目
ティオー「え…マツクイーンってカロリー制限してなかつたつけ
？」

吹雪「うちはデザート食べ放題ですからね。司令官が居ない内は少
しだけ気を休めてもいいんじやないですか？」

マツクイーン「し…仕方ないですわね…。今は従いますわ」

ティオー（ええ…）

艦娘（…チヨロい）

スペ「あ…あの…私の分もありますか？」

スズカ「ダメよ、スペちゃん…」

吹雪「あ…すぐ用意しますね」

ダダダ…！

瑞鳳「た…大変です！緊急事態です！」

加賀「…どうしたの？」

瑞鳳「その子達みたいな子が鎮守府内に入りました！」

↑…To be continued

#13 一八門ー

ー建物入口付近ー

ルドルフ「…ここか…ティオーのG P Sが示す場所は」

グルーヴ「しかし、まさか軍の敷地とは…」

ルドルフ「ああ…まずは建物の中に入らなければな」

グルーヴ「…虎穴に入らずんば虎子を得ず…ですか」

ルドルフ「ああ、行こう」

ー嫁艦の部屋ー

ティオー「あ！ カイチヨー！」

スペ「ルドルフ会長！」

スズカ「エアグルーヴまで…」

瑞鳳「皆は部屋に帰したよ」

赤城「…なるほど：明石さん、あれをお願いします」

明石「はい、建物に入った瞬間発動させますよ」

マックイーン「…あれ？」モグモグ…↑パフェ食べてる

タ張「…建物に入りましたね」

明石「八門金鎖の陣、始動！」ポチッ！

※八門金鎖の陣：鎮守府各地の防火扉を開閉させることによつて相手の行動を制限して逃げ場を無くす明石特性の仕掛け（詳しくは逃亡提督1部）。元ネタは三国志演義の曹仁が引いた陣、生門、景門、開門（陣を破れる入口）、傷門、驚門、休門（傷つく入口）、死門、杜門（全滅する入口）の八つの入口が鎮守府内の建物の入口に設定してあり、入つた瞬間にその者が無事に出れるか決まつてる。

※過去、泥棒に入られた際これを発動させ、無事捕縛したことがある（泥棒はその後…（想像に任せる））

赤城「さ…どう出ますかね？」

※安価を取ります。

結果は？》 116

- 1 ルドルフを捕縛
- 2 グルーヴを捕縛

3 無事に逃げられた…

4 両方捕縛

グルーブ「…会長は正面から、私は裏口から回ります」

ルドルフ「うむ、疾風迅雷…早く見つけ出そう」

グルーブ「はい」

ルドルフ「…ティオー、今行くぞ」ガチャヤ！

－エアグルーヴ side－

グルーブ「…」が裏口か。何があるかわからん、慎重に行こう」ガチャ…！

一八門金鎖の陣、始動－

－嫁艦 side－

赤城「どうですか？」

明石「ターゲットが中に入りましたね」

夕張「それぞれ正面の子が死門（必ず捕まる）、裏口の子が休門（帰れる確率50%）から侵入しました」

ティオー「?! カイチヨー！ 罷だよ！」

加賀「こちらの声は聞こえないわよ」

明石「ちなみに道中には色々な罠が仕掛けられてます。殺害する威力はありませんが、罠の踏んだら普通に怪我しますよ」

※こんな罠がいいなと思つたら…と思つたらコメント欄へ

瑞鳳「言われた通り呼んできたよ」ガチャヤ！

長門「来たぞ。侵入者らしいな」↑ながもんじやない

大和「長門さん、捕まえられますか？」

長門「…実力が未知数だからな…低速艦の私では逃げ切られるかも

しれん」

ティオー「カイチヨーはすぐ早いんだよ！ 君たちに捕まるものか

！」

大和「…なら私もいきましょう。裏口の方は…」

神通「私と姉さんが行きます」

川内「呼んだ？」↑壁がめくれた

スペ「うわあ?! どこに隠れてたんですか?!」

神通 「行きましょうか、姉さん」

川内 「了解！」

↑
⋮
To be continued

#14 一水計

ルドルフ s i d e -

ルドルフ（しかし…長い廊下が続くな…）まで誰とも会つてい

ルドルフ「ティオー達はここにはいなきそудな」
ルドルフ「2階へと捜査を広めてみよう」

エアグルーヴ s i d e -

グルーブ（スズカたちはどこにいるのだ…しかし…こう誰も会わな

いとなると本当に警備が杜撰なのか、罠に嵌つてるとか分からないな

…

エアグルーヴ（1度他の所を調べて見よう）

12階-

ルドルフ「早速調査開始だ」スタスター
ゴゴゴゴゴゴバタン…！↑階段閉鎖

エアグルーヴ s i d e -

エアグルーヴ「…宿舎まで来たが…人っ子一人いない…。なにか不

気味だ…」

エアグルーヴ「…慎重にいこう」スタスター

ゴゴゴゴゴゴバタン…！↑通路閉鎖

ルドルフ s i d e -

ルドルフ「…」スタスター

※安価を取ります。

罠発動、どんな罠？」 129

（殺害レベルはNGにします）

ルドルフ「…しかし長い廊下が続く…」スタスター
スツ…↑地面に穴あき

ルドルフ「…ティオーはどこ…？」ツルツ！

ルドルフ「あだつ?!」

ルドルフ「痛たた…なぜ落とし穴があるのだ？建物なのに…」

ルドルフ「…これがホントの穴があつたら入りたい…だな…」フフ

フ：

タライ（つまらん）ヒュー！

ルドルフ「いつ?!」ガーン…!

ルドルフ「ハレハレ…」↑星が回つてゐる

一嫁艦 s i d e l

ティオー「カイチヨー…」

スペ「罠だらけなんですね…」

明石「こんなのはまだまだですよ」

一女帝 s i d e l

グルーブ「…しかし誰も見当たらない…どういう事だ?」

※安価を取ります。

罠は?》 134

（死に闘する物は禁止します）

グルーヴ「…これはひよつとして…」ツルツ！

グルーヴ「な：なんだ?!」ツルツル…!

グルーヴ（床が異常な程に滑るぞ…?）

壁「

グルーヴ「?!と…止まれ!!」ツルツル！

ドシーン!!

グルーヴ「↑壁に衝突

一ルドルフ s i d e l

ルドルフ「…くつ…不覚…」

ルドルフ「ここは敵地…まだ罠があると考へた方が良さそудана

⋮

ルドルフ「…ならば早くティオーを見つけて…」カチツ！→スイツ

チ O N

ルドルフ「…まさか…」

※安価を取ります。

罠は?》 137

（なんでも構いません）

ダンダンダン…!

ルドルフ「…なんだ?」クルツ：
ダンダンダン!!↑床が抜けてる

ルドルフ「なんだと!」ダツ!

ルドルフ（こんなのからくり屋敷でも見ないぞ…）
ダンダンダン…!

ルドルフ「追いつかれ…！」スポーツ！↑床が抜けた
ルドルフ「な…なに?!うわああああああ?!」

ー1階ー

ルドルフ「うわあああああああ?!」
ドシーン!!↑床に激突

ルドルフ「」
スタスター：

長門「…いたな」
大和「連れていきましょう」

一嫁艦の部屋ー
ティオー「か…カイチヨー…！」
スペ「こ…これから何を…」

赤城「あなた達と同じことをします」
マックイーン「い…命は取らないのでしようね…！」

赤城「ええ、そこは命は保証しますよ」

赤城「ただし…落とし前はつけてもらいますよ」
ウマ娘「?!」ゾクツ…！
ーエアグルーヴ sideー

グルーヴ「…痛た…」
グルーヴ「な…なんなのだ、ここは…」カチツ…！

グルーヴ「?!」
ドドド…！

グルーヴ「な…なんだ…?」
水「…」↑大量の水
グルーヴ「なにつ?!う…うわああああ?!」
グルーヴ「なぜ水計を…わああああ?!」↑専用の排水溝へ

—嫁艦の部屋—

スズカ「エアグルーヴ……?!?!」

スズカ「あ……あの水はどこへ繋がってるの！エアグルーヴは無事なの？！」

明石「あの水は多摩川へ繋がってますよ。まあ、ちょっと特殊な水路ですが……」

スズカ「特殊な水路……？」

明石「まあ、下水道とはまた違った軍の水路ですよ」

明石「大丈夫ですよ。命は無事なので」

スズカ「そ……そうなんですか？」

明石「ええ、提督で試しましたし」

スペ（トレーナーさんに何を……）

—地下室—

ルドルフ「……くつ……」↑椅子に拘束

大和「さて……話を聞かせていただきますよ」

長門「根掘り葉掘り……な」

↑……To be continued

#15 一探索一

大和「名前を伺いましょうか」

ルドルフ「…シンボリルドルフだ」

大和「まさかトレセン学園の生徒会長が乗り込んでくるとは思いませんでしたよ」

長門「…どういう事だ？ 説明してくれ」

カクカクシカジカ…

長門「なるほど…なら本題は決まってるな。提督を返してもらおう」

ルドルフ「…なるほど…返せば私達を帰してくれるのか？」

大和「はい」

ルドルフ「…だが、お断りしよう」

長門「何…！」

ルドルフ「彼はトレセン学園の優秀なトレーナーだ。絶対に出来ないと言われたティオーの奇跡の復活、サイレンスズカの怪我の復活までのサポート、スペシャルウイークのジャパンカップ日本総大将数々とね…」

大和「…向こうでも随分活躍されてるみたいですね」

ルドルフ「…確かに私には権限があるが、うちもトレーナーが少ない状況…どうしても譲れないのさ」

大和「…交渉決裂ですね。では尋問しましようか。下手したら死ぬかもしだせませんが」

ルドルフ「…脅しか…だが、その程度では私は離さないぞ。それにエアグルーヴの無事が知れるまで、ティオー達が無事にトレセン学園に返すことが私の目的だ」

ルドルフ「…皇帝を無礼なよ」 ギロツ

長門「…貴様…」

ドドド…！」

ティオー「カイチヨー！」

ルドルフ「…ティオー！」

ティオー「か…カイチヨーには手出しさせないよ!」バツ!

ルドルフ「よせティオー!」

ティオー「カイチヨーはトレセン学園に必要なんだ!…こんな所で…

死なせてたまるか!」

大和「…どうしますか?」

長門「…こうしたらどうだ?」

※安価を取ります。

どうする?」 145

(なんでも構いません)

大和「…あの子たちのようにしては?」

長門「…そうだな」

ルドルフ「どうした」

長門「よし、お前の行き先が決まった。麻袋を」

大和「はい!」

ルドルフ「?!」

ティオー「カイチヨーに何するの!」

大和「あなた達と同じようにします」

一嫁艦の部屋ー

ルドルフ「…なるほど、だからトレーナー君を返して欲しいのか」↑
事情は聞いた

ルドルフ「だが、私は生憎『はい、そうですか』とは首を縊に触れない。こちらにはこちらの事情があるゆえな」

赤城「…なら、あなたを人質としましよう

赤城「サイレンススズカさん達のように命の保証はしますが、ここから出す訳には行きません」

ルドルフ「…そうか」

ティオー「カイチヨー!…こんなヤツらに従う義理なんて…」

ルドルフ「…分かつて。だが、彼女達が本気で我々を倒しに來たら皆同じ目に会うぞ」

ティオー「うつ…」

ルドルフ「…分かつた。エアグルーヴは無事か?」

明石「…おそらく無事だと思います」

ルドルフ「…分かつた、従おう。だが、心まで従つた訳では無い。文句があれば私は堂々と言う。それが連れ去られた生徒達の尊厳を守るためだ」

赤城「…わかりました」

—ウマ娘部屋退出後—

瑞鶴「いいんですか！あんなこと言われて」

加賀「…まだまだ反抗的なのは仕方ないわね。こちらに従順しようと
いうにはもう暴力を使うしかないわ」

羽黒「されど、それが良いかと言われると…」

ウーン：

吹雪「…この辺でやめておきませんか？」

神通「どういと？」

吹雪「無理やり拉致しても従いません。私だってそうです。ならこの辺でうち止めて…」

伊勢「向こうの出方を待つか…」

赤城「…そうですね。では、あとは提督に任せましょう。5人も人質を取られている状況でこちらに来るか、向こうに行くか…」

—トレセン学園—

多摩川まで流されたエアグルーヴは偶然川沿いを走っていたメジロドーベルに助けられ、這う這うの体でトレセン学園へと引き返すことになった。

—保健室—

グルーヴ「ぐ…不覚…」ゴホゴホッ！→長い間水に浸かったため風邪を引いた

ドーベル「だ…大丈夫ですか！」

マルゼン「だけと…ルドルフが捕まつたとなるとね…」

ブライアン「…あの皇帝殿がやすやす捕まり、女帝殿が風邪をひくとなると…」

ドタバタ…！

ウオツカ「副会長！」

ダスカ 「ティオーさん達は…！」

グルーヴ 「…すまぬ…助けられなかつた…それどころか会長を…」
ゴホゴホッ…！

提督 「…」

グルーヴ 「…貴様か…。この無様な私を笑え…！」

グルーヴ 「…何も出来ないこの私を…！」 グツ…！

提督 「…」

提督 「…スカーレット、ウオツカ。エアグルーヴを頼む」
ダスカ 「ちょ…?! あんたはどこに行くのよ！」

提督 「…用事が出来た」

ウオツカ 「探しに行くのか！ それなら…」

提督 「来るな！」

ウマ娘 「?!」

提督 「…お前らが関わつたら命を落とすかもしれんぞ」

グルーヴ 「…なに…」 ゴホッ…

提督 「ここからは俺に任せてくれ。頼む」 スタスター…

グルーヴ 「き…貴様…！」

ゴルシ 「持つてきたぜ…! そこで釣りあげた鯉！」 ビチビチ…！

グルーヴ 「なつ?! そんな物をここに持ち込むな！ しかも生きてるで
はないか！」

ゴルシ 「鯉は精がつくんだぜ？ なんなら調理してやるからさ」
グルーヴ 「いらん！ 誰かこいつを…クシユン…！」

ぎやあぎやあ…！

提督 「…あいつらか…」

提督 （まづ…あの男に聞いてみるか…）

一キタサンブラック、サトノダイヤモンドの部屋ー

キタブラ 「…」

サトダイ 「キタちゃんのせいじゃないよ…」

キタ布拉 「私がティオーさんを守つていれば…」

サトダイ 「…私だつてマックイーンさんを…」

キタブラ 「…ダイヤちゃん。行こう」

サトダイ「えつ…どこに?」

キタブラ「ティオ一さんを助けに行く」

サトダイ「ダメだよ! 場所も分からぬのに探すなんて…!」

サトダイ「まだサトノグループの情報を使つてもマックイーンさんの行方もしないのに…今探しても…」

キタブラ「でもどうしたら…」

サトダイ「…なら人を頼ろう」

キタ布拉「ひと…」

サトダイ「…の人たちに…早く行くよ」

キタ布拉「ま…待つて!」

↑… To be continued

#16 一大食一

—横須賀鎮守府—

ティオー「うーん…一応部屋は見たけどさ…」

マックイーン「綺麗でしたわね…」

ルドルフ「…本当に何を考えているんだ…」

スペ「あ、ここはご飯も美味しいんですよ」

マックイーン「…！ デザートはありますの！」

スズカ「はい、ありましたよ」

マックイーン「楽しみですわ！」 → 絶好調

ティオー（これ…また太るね…）

ルドルフ（ティオー…言つてやるな…）

スペ「…ん？これは？」

『鎮守府大食い大会！ 参加者受付中！』

スペ「大食い大会？」

スズカ「どうやら定期的に開いてるみたいね…」

ルドルフ「こつちにもあるのか…向こうでは終始オグリキヤップが

圧倒してたがな…」

—トレセン学園—

オグリ「ん？タマ、なにか呼んだか？」 → 大盛りご飯

タマ「何も呼んでへんで？」

オグリ「今誰かに呼ばれた気がした」

タマ「それ、ただの聞き間違えやろ」

—横須賀鎮守府—

ティオー「ねえ、スペちゃん参加してみない？ 景品もあるらしいしさ」

スペ「ええ…いいんですかね…」

マックイーン「一応ここに住ませて頂いてますし、あの人（赤城）からも差別はしないと言つてますので大丈夫かと」

スペ「…なら…」

—食堂—

青葉 「大食い大会、 参加受付中です！」

スペ 「あの…私もいいですか？」

青葉 「あ、 大丈夫ですよ。 赤城さんからそう言われてます」

スペ 「参加者は…」

「参加者」

赤城 （前回チャンピオン）

加賀

大和

長門

アイオワ

ビスマルク

スペ 「海外の人も？」

青葉 「はい、 日本だけじゃなくて海外の艦娘もいますよ。 あと…結構量がありますけど…」

スペ 「あ、 大丈夫です」

※馬は人間の3倍飯を食べる。 この事から戦場の輸送には馬車限界と言うものがある（馬車限界とは、 輸送部隊が自分達で飯を食い尽くしてしまう限界の距離のこと）。

「5分後」

青葉 「さあ、 始まりました！ 鎮守府大食い大会！ 出場者はこの人達です！」

赤城 「赤城です」 ニコツ

加賀 「加賀です」

大和 「大和です」 ニコツ

長門 「長門だ」

アイオワ 「アイオワデース！」

ビスマルク 「ビスマルクよ」

スペ 「す…スペシャルウイークです！」

青葉 「今回、 ウマ娘の参加と言う異色の大会となりました！ 今回のメニューは…妖精さん特製ラーメン、 赤城盛りです！ 人間でも食べれますから安心してください」

青葉「優勝者には間宮さんからスイーツ食べ放題券が与えられます！」

マツクイーン「す…スイーツ食べ放題ですって！」

ティオー「スペちゃん頑張れ！」

青葉「それでは始めましょう！勝負開始！」

『いただきま…す！』

※安価を取ります。

勝敗は？』 160

（1番初めに食べ終わつた艦娘、ウマ娘を書いてください）

赤城（いつも食べているペースで食べれば大丈夫です）ズズズ…！

加賀（ひとつ気になるのが…）

大和（あの子ですね…）

スペ「うわああ…いただきます！」ズルズル…

スペ「ん♪♪豚骨の味が染みていて、それが固めの麺に絡まつて絶妙な味を出してます…このチャーシューもとても味がしみっていて美味しいです♪♪」↑得意な事、臨場感のある食リポ

ティオー「スペちゃん！これテレビの食リポじやないよ～！」

長門（あの食リポするぐらいの余裕…）ズズズ…

アイオワ（底がしれないワネ…）

ビスマルク（ウマ娘かなんだか分かんないけど…）の勝負貫つたわ！）ズズズ…！

スペ「♪♪ クルツ！

赤城（！…天地返し！麺が伸びないようにする為のテクニックですか…！）※うまよん参考

赤城（私も負けてられませんね…！）ズズズ…

－30分後－

加賀「ぐつ…麺が…」

長門（これは低下水率の麺…時間がながければ長くなるほど麺が伸びる…）

大和「麺が重い…」

青葉「おおつと！ここでペースが落ちてきたか?!」

アイオワ（アカギはいいとして…）

ビスマルク（あの子はなんなのよ…）

スペ「♪♪」ズルズル…！↑ボテ腹（食いしん坊）

赤城（あんなお腹でよく食べられますね…！妊婦位ありますよ…！）

赤城（クツ…また慢心してしまいましたか…）

青葉「おおつと…」でスペシャルウイークが追い上げをみせた!!

ラストスパート！

ティオー「あと少しだよ！」

スズカ「スペちゃん頑張つて！」

マックイーン「凄いですわね…」

スペ「…ふう…」馳走様でした！（全身全靈）

赤城「えつ?!」↑あと少し

加賀「まだあるのに…」↑赤城より少し多い

長門「くつ…」↑あと4分の1以下

アイオワ「…完敗ネ…」↑長門より少し少ない

ビスマルク「…負けたわ…」↑長門より少し多い

大和「…流石ですね…」↑赤城と同じ

青葉「優勝者は…！スペシャルウイークさんです！」

スペ「へへへ…勝っちゃいました…」↑ボテ腹

スズカ「スペちゃんすごいお腹…」

ティオー「やったね！」

ルドルフ「流石だな、スペシャルウイーク」

マックイーン「見てるだけでお腹が脹れましたわ…」

赤城「…スペシャルウイークさん、優勝おめでとうございます！」

スペ「ありがとうございます！」

赤城「流石ウマ娘ですね」ニコツ

※安価を取ります。

感情の変化をお願いします》 170

（感情が決まってない艦娘は皆さんのご想像で設定してもらつても構いません。嫁艦の目安も出しておきます。感情の変化の上下、または

変動なしをお願いします

赤城「もし、今度よろしければ食事巡りしませんか?」 温和

スペ「はい!」

アイオワ「Y o u 、 淫いわね!」

スペ「あ…ありがとうございます」

アイオワ「私はI o w a C l a s s n a m e s h i p I o w

a。A m e r i c a から來た艦娘よ。よろしくね」 温和

スペ（アメリカ：タイキ先輩やエルちゃんみたいな人かな…）

アイオワ「これからもよろしくね♪」

大和「…完敗です…」

大和「…私はやはりあなた達を見くびつてたようですね…その真剣

な姿に私は考えを改めました」

大和「…今までごめんなさい…。もし…良ければ今度お食事に誘いますので良ければ来てください」 普通→温和

スペ「はい！もちろんです！」

大和「…！」 パアア…！

加賀「…やるわね…」 普通

長門「次はこうは行かないぞ…」 普通

ビスマルク「…」 普通

一大会終了！

スペ「なんか色々な人と仲良くなれました」

スズカ「…そうね」

スズカ「スペちゃん、私少し外に散歩に行つてくるわ」

スペ「はい、気をつけてくださいね」

一外

スズカ「…綺麗な空…」

スズカ「…！」

曙「…あ…」

霞「…あなた…」

満潮「…」

スズカ「…」

スツ：

スズカ「…」

曙「…待ちなさいよ」

スズカ「…何？」

霞「…あんた達のこと、私たちは認めてないから」

スズカ「…そう」

満潮「あんた、走りが早いそうね」

スズカ「ええ、あなた達よりは」

曙「そんなに言うなら勝負しましよう。距離は1600m」

スズカ「…」

霞「私達が選んでくる艦娘に勝つ、簡単でしょ」

スズカ「…分かったわ。その挑戦、受けるわ」

曙「勝った方が負けた方になんでも命令を聞かせるつてどうかしら」

スズカ「…ええ」

満潮「せいぜい吠えずらかないでよね」

スズカ「…」

一東京、とあるバ——

カラソカラソ：

情報屋「…よお、久しぶりだな」

提督「…まずは1杯奢る…からだろ」

情報屋「わかってるな」ククク…

提督「こいつに響21年、ロツクで

トクトクトク…

情報屋「…で、話つて？」カラソ：

提督「この5人の行方を探して欲しい」↑スペなど5人のウマ娘

情報屋「…ウマ娘か…全員有名だな。あんたの担当じやねえ奴もいるが」

提督「…急いでくれ。出来るか」スツ…→金

情報屋「ああ、任しておいてくれ。ご馳走様」

提督「…さて…俺もやるか」グビツ…

↑
· · ·
T
O

b
e

c
o
n
t
i
n
u
e
d

#17 一競走一

一翌日一

スズカ「…」↑勝負服

曙「…待たせたわね」

スズカ「…準備は大丈夫よ」

霞「相手を紹介するわよ」

タシユケント「Причет嚮導駆逐艦、タシユケントだよ」

島風「島風です！かけっこしたいの？」

満潮「あと私達も走るわよ」

曙「さあ…始めましょか」

吹雪「…スズカさん、ごめんなさい…」迷惑をかけてしまって…」

スズカ「…吹雪さん、このような舞台を設けてくれてありがとうございます」

スズカ「…始めましょか」

※安価を取ります。

勝敗は?» 176

1 スズカの勝ち

2 艦娘の誰かの勝ち（名前をお願いします）

※ちなみに1600mは競馬のマイル距離に当たり、スズカの得意な距離です。

曙「ふん…すぐに負かせてあげる」

スズカ「…」↑目を閉じた

霞「…」

タシユケント「さあ…やるからには本気を出すよ」

吹雪「いくよ…」↑流石にゲートはないし、ピストルはやばいので音声でスタートすることに

Lady: ピー！

スズカ「！」ダツ！

曙「負けないわよ！」

霞「あいつ…飛ばしてない？」

タシユケント「スナミナ切れになつても知らないよ！」

島風「早い！でも負けないよ！」ダツ！

満潮「作戦かそれとも何も考へないか分からないけど…勝たせてもらうわ！」ダツ！

1500m地点ー

スズカ「…」ダツ！

曙（あの走りも後半になれば絶対に落ちる…）

タシユケント（ならそこを狙う！）

順位（↑1位）

スズカ、タシユケント、島風、曙、霞、満潮

11000m地点ー

スズカ「…」ハア…ハア…

満潮「少し落ちてきたわね…」

島風「フフフ…さつさと抜いて上げるんだから！」

霞「ふふ…終わりよ」

順位

先程と同じ

11200m付近ー

スズカ「…」

タシユケント（もう少しで追い付く…）

スズカ（私の走りを…トレーナーさんは信じてくれた…怪我をしてもサポートしてくれた…なら…）

スズカ（私の走りをただするだけ…この勝負…負けたくない！）

スズカ（潮風…自分の鼓動…相手の呼吸…全て分かる…）

スズカ（先頭の景色は…）

スズカ「譲りたくない…！」ダツ！→先頭の景色は譲らない

タシユケント「えつ?!」

タシユケント（加速した…！負けてたまるか…！）

スズカ「はあああ！」ダダダ！

タシユケント「うおおお！」ダダダ！

吹雪 「さ…サイレンススズカさんの勝利です！」

吹雪（これが…異次元の逃亡者…）

スズカ「…」

↑勝利ポーズ
スズカ（気持ちいい…吹き抜ける風…陽の光…全部…私のモノ…）

タシユケント「…負けた…」ハア…ハア…

曙「嘘でしょ…」

霞「…追いつけなかつた…」

島風「は…早い…」

ザツザツ…

スズカ「…約束は覚えてるわね」

曙「…好きにしなさいよ。命令した事は何でもするわよ」

霞「…くつ…」

満潮「…」

※安価を取ります。

命令は?」× 180

(なんでも構いません)

スズカ「…じゃあ…その口癖を治しましようか」

霞「…口癖…？」

スズカ「トレーナーさんのこと罵倒する様な口癖を治しましょ
う。吹雪さん、もし治らなかつたら注意してあげてくださいね」

吹雪「分かりました」

曙「…分かつたわよ」

満潮「…ふん…」

霞「なんでクズにクズつて…」

吹雪「霞ちゃん？」

霞「くつ…」

スズカ「…これで少しほトレーナーさんに対する悪口が無くなれば

いいけど…」

吹雪「私の方でも注意するので大丈夫ですよ」

スズカ「ありがとうございます」

スズカ（そういえば…タイキとかはどう過ごしてるのかしら…）

一トレセン学園ー

ゴルシ「…なあ、つまんねえ」

ウォツカ「俺に言うのかよ…」

ダスカ「…広くなつたわね…」

ウォツカ「あいつどうしてるんだ？」

ダスカ「さあ、あいつのことだから何もしてないんじゃないかしら」

ー?ー

提督「…分かつたか？」

情報屋「ああ、見つけた。だが…」

提督「構わん。話してくれ」

情報屋「…あなたの所だ」

提督「…やはりな。十中八九そうだと思つた」

情報屋「結構苦労したぜ。妨害電波が飛んでてな」スツ：

提督「…ありがとう」スツ：

情報屋「じや…」

提督「…あいつら…。仕方ねえ…作戦でも考えるか」スタスタ…

↑……To be continued

第2章　一搜索一

#18　一加入一

トレスセン学園ー

グルーブ「…」ゴホゴホ…

グルーブ「くつ…女帝である私が寝込むとは…」

グルーブ（何とかブライアンに仕事を任せたが…）

マルゼン『ねえ、ブライアン見てないかしら？』

グルーブ（サボつてどこかに行く始末…！）

グルーブ（あいつは会長達のことを任せろと言っていたが一体…）

ドタバタ…！

ダスカ「大変です！カワカミプリンセスさんが校舎に大穴を開けました！」

マルゼン「さつきライスちゃんがお釜をひっくり返しちゃつたわ！」

ドーベル「ブルボンさんが火災報知器を触つたら鳴り響いて学校中が混乱します！」

ファルコ「バクシンオーちゃんがなにか騒いでたけど…」

グルーブ（頼む…これ以上仕事を増やさないでくれ…）←絶不調

グルーブ「会長…早く帰つてきてください…」シクシク：（同情するぞ…by作者）

（出して欲しいウマ娘がいたらコメント欄でどうぞ！）

ー食堂ー

オグリ「…」パクパク…

山盛りの皿「

タマ「…なあ、ひとつええか？」

オグリ「…ゴクン…なんだタマ？」

タマ「なんでそんなに食うねん！もう食料庫の食材が無くなつたん

やで！」

ー食料庫ー

「ガラーン…

—食堂—

オグリ「…済まない、会長が誘拐されたと聞いて不安でお腹が空いて…」

タマ「どうなつとるねん、あなたの腹は！」

クリーク「あらあら～いっぱい食べてえらいえらい～」

タマ「クリーク！こいつ食料庫の飯全て食いおつてんで！」

クリーク「あら～…いっぱい食べる子は良く育つからね～」

イナリ「…どうするんですか…これ…」

ユキノ「どうするにも…食料がすっからかんだべ…」

タマ「…うち、食材買つてくるわ…。エアグルーヴに申し訳ないわ

…」ハア…

ースピカ部室—

ゴルシ「よ～し！これから山に宝探しに行くぞ～！」

ダスカ「…ねえ、あいつどこに行つたのかしら？」

ウオツカ「…分からねえ、社宅には戻つてるらしいが…」

ゴルシ「なんだなんだ？あいつなら学園の外に行つたぞ

ダスカ「もう少し情報が欲しいわね…」

コンコン…

ウオツカ「…ん？誰だ？」ガチャ…

キタブラ「…あの」

サトダイ「マツクイーンさんたちの捜索に私達も協力してもいいですか？」

ウオツカ「ん…でもトレーナーに任せろって言われてるしな…」

キタ布拉「…私達、ティオーサン達が追いかけている所を見たんですけど。犯人らしき女性を…」

ダスカ「！ 詳しく教えて！」

サトダイ「はい」

—事情説明—

キタ布拉「…あの後ティオーサンを追いかけて行つたらティオーサンのお守りが…」↑ティオーの御守り（キタサンブラック作）

サトダイ「おそらくマックイーンさんもいたので誰かに連れ去られ
たんだと思います……！私達があの時……」

ダスカ「……あなた達の責任じゃないわ」

キタブラ「だから……私達もティオーさん達を探したいんです！お願
いします！」

サトダイ「お願ひします！」

ウォツカ「……どうするんだ？」

ゴルシ「良くね？人足りないし」

ダスカ「……ちょっと……」

ゴルシ「ティオーと言うお宝はかなり危険に守られてるぞ。それで
もやるか？」

キタブラ「はい！」

サトダイ「なんだつてやります！」

ゴルシ「よし！ならまずはうちのトレーナーを尾けてくれ
キタサンブラックとサトノダイヤmondが仲間に入つた！」

キタブラ「……えつ？」

—翌日—

提督「……行くか」

サトダイ「……見つけたよ」

ゴルシ『そのままバレないようにつけてくれよな』

キタブラ「……わかつてます」スタスター：

尾行開始！

↑……To be continued

#19 一監視一

提督「…」スタスタ：

キタブラ「追いかけるよ」スタスタ：

サトダイ「見失わないように…」スタスタ：

提督「…」スタスタ↑左折

キタブラ「…！曲がったよ」

サトダイ「急いで追いかけなきや…！」タタタ：

キタ布拉「ええと…確かに辺に…あいた?!」ゴチン

サトダイ「大丈夫?…つて…」

提督「…君達、何してる？」

サトダイ「え…ええとそれはこっちに用事があるからです！」

提督「この先ホテル街だけど？」

キタ布拉「え…そ…それは…」

提督「…そのイヤホンを貸してくれ」

キタ布拉「えっ…これは駄目…あっ！」→イヤホン取られた

提督「…ゴルシだろ、こんな事するのは。分かってるぞ」

ゴルシ『バレちまつたか。なあ、そろそろ教えてくれよ』

提督「ダメだ。これは命に関わるかもしれないことだ。これ以上探らぬ方が身のためだ。もう俺の捜査に関わるな」

提督「という事だから、お前たちは帰れ」

キタ布拉「…だけど…」

提督「駄目だ！」

サトダイ「はい…」

スタスタ：

提督「…時間食つたな…早く行こう」

一トレセン学園」

ゴルシ「やつぱり失敗したか…」

キタ布拉「すいません…」

ウオツカ「あいつ、勘だけは鋭いんだよな」

ダスカ「で…どうするの?」

ゴルシ「…こうなつたらこれしかないだろ！」

サトダイ「いいアイデアがあるんですか！」

ゴルシ「ああ！」

※安価を取ります。

アイデアは?」 195

(尾行以外でお願いします)

ゴルシ「たつた一つだけ策はある！それはよ～…」ゴソゴソ…→ス

マホ

ウオツカ「それは…？」

ゴルシ「じゃーん！どこでもマツクちゃん！」

ダスカ「…それ、ただのスマホじや…」

ゴルシ「おう、あたしのスマホ」

キタブラ「それがなにか…」

ゴルシ「いや～地球の化学つて進んでるな～。ゴルシ星ほどではな
いけどな」

サトダイ「一体なんですか？」

ゴルシ「お前ら、LINE登録してるか？」

ダスカ「チームのやつにあつたはずよ」

ゴルシ「おう、じゃサクサクっと登録しちまうぜ」

→2分後→

ゴルシ「LINE登録したら、このアプリを開くと…」

ゴルシ「みんなの位置が1発で分かんだよ！」(実際にあるアプリで
もできます)

ウオツカ「うおお！すげえ！」

ダスカ「で、トレーナーは？」

ゴルシ「ここだな。で、マックちゃんが…ん？」

ゴルシ「…なんか神奈川の辺にいることは分かるんだが…詳細な場
所が分からんないな…」※鎮守府設置の妨害電波のため

キタ布拉「ならティオーさん達も！」

ゴルシ「そこにいる可能性が高いな」

ゴルシ「でよ…どうする？これからマツクちゃんのとこに行くか、

トレーナーの所にカチコミ行くか…どっちがいい？」
※安価を取ります。

どつちにする?」 195

1 提督の元へ

2 マックイーンたちの元へ

キタブラ「それならティオーさん達のところに行きましょう！」

サトダイ「きっと怖い思いをしてると思います！」

ダスカ「…そうね、犯人ボコボコにして助けましようか」

ウオツカ「トレーナーに相談しねえのか？」

ダスカ「あいつに相談したら反対するわよ。だから黙つていくわ

よ」

ゴルシ「よし！なら明日から神奈川へ行くぞ！」

提督 s i d e l

提督「…消えたか？」

提督（まだ居た…）

艦娘「…」↑尾行中

艦娘「…」

提督（…急につけ始めてきたか。赤城達の仕業だな）

提督（…仕方ない。予定変更だ）

提督「…」スタスター

艦娘「…」スタスター

提督「…」ダツ！

艦娘「！」ダダダ！

提督「…」↑曲がり角を曲がった

角「」

艦娘「巻かれた…」

艦娘「探すぞ！」

提督 s i d e l

提督「…いないな」

提督「…さて…情報を貰いに行こう…」スタスター

↑
· · ·
T
O
b
e
c
o
n
t
i
n
u
e
d

#20 一茶会一

一横須賀鎮守府一

ティオー「はちみくはちみくはちみく」

ティオー（結局部屋も綺麗だし、ご飯も美味しいし…そこまで悪い氣はしないけど…）

ティオー（トレーナーは助けに来てくれるかな？白馬の王子みたいに…！）

ティオー「なんかスペちゃんとは大つきい長髪の人（大和）に誘われてるし、スズカは外走つてるし、マツクイーンはどこか行つたし…力イチヨーもなんか艦娘と話してるようだし何しようかな～」

? 「あ…あの…」

ティオー「ん？」

※安価を取ります。

艦娘は誰?」 199

（単数、複数でも構いません。白露型駆逐艦に限ります）

海風 「あの…トウカイティオーさんですか？」 温和

山風 「…」 疑念

江風 「うおお！かつけえ！」 温和

ティオー「本当?!」

江風 「おう！こここの白い毛とかな！」 キラキラ：

ティオー「ニシシシ…！僕をもつと褒めるがいいぞよ♪」

山風 （…パパ（提督）を奪つた人…許さない…）ゴゴゴ…：

海風 「あの…もしよろしければお茶しませんか？私達の姉妹と一緒に」

ティオー「いいの？」

海風 「はい、私も仲良くなりたいですし」

ティオー「じゃあお邪魔しようかな♪」

海風 「はい、こちらです」

一白露型の部屋一

ティオー「お邪魔します」

白露「おかえり……ええとその子つて……」普通

時雨「トウカイティオー……だつけ?」疑念

村雨「…」疑念

夕立「ポーカイ?」普通

春雨「ええと……お茶は足りますかね?」普通

五月雨「あ……あの!……こんにちは。私、五月雨つて言います!……よしくお願い……うわあつ?!」ガシャーン! 温和

涼風「おいおい……大丈夫か?」普通

ティオー「あれ?……歓迎されてない感じ?」

海風「だ……大丈夫ですよ……。席に座つてください」

15分後――

春雨「今日はケーキを焼いてみました」→チョコレートケーキ

白露「うわあ!……美味しそう!……私がいつちばーんに食べるよ」

村雨「ダメよ。ちゃんと分けないと」

ティオー「……いつちばーんつて……スカレットみたいだな……」

山風「……美味しい……」モグモグ……

五月雨「あ……あの……!……ティオーさんて……」

※安価を取ります。

話の話題は?」207

(なんでも構いません)

五月雨「なんか前世の記憶とか持つてたりしませんか?……私達みたいに」

ティオー「……記憶?」ウーン……

ティオー「……ごめん、思い浮かばないかな?」(あくまで魂を受け継ぐので記憶は受け継がない……と思つてます。ゲームで歴史が変えられてしまうため)

五月雨「……そうですか……」

ティオー「その……記憶ってどんなの?」

海風「はい……いわゆる『戦争』の記憶です。昔の船員、戦う仲間、そして……沈んでく瞬間……これらを私たちは今でも持つてます」

ティオー「……なんかごめん」

ティオー「そ…そ…うだ！なにか楽しいお話しようよ！」

時雨「…楽しい…ね…」

夕立「なら…なんで提督さんを好きになつたっぽい？」

ティオー「それはね…僕の怪我を治してくれてもう一度走らせてく
れたからだよ」

村雨「走らせててくれた？」

ティオー「うん、僕達ウマ娘にとつて骨折は命に関わる怪我…僕は
これまで3回も骨折をして三冠ウマ娘に離れなかつた…」

白露「…」

ティオー「医者からももう復帰は難しいと言われた。同じころ、
マツクイーンやスズカも怪我をしてて前のトレーナーは心労の為に
やめてしまつた…」

ティオー「僕たちに言わたることは『走れないウマ娘』『スピカの時
代は終わつた』…そんな言葉だつた…」

江風「…酷すぎるぜ」

ティオー「…だけどある日…トレーナーがやつてきた」

↑… To be continued

#21 理由

—2ヶ月前、スピカ部室—

ティオー「…」↑骨折

マツクイーン「…」↑靭帯炎

スズカ「…」↑骨折

ゴルシ「…」ガチャガチャ…↑ルービックキューブ

ダスカ「…どうするのよこれ…」

ウオツカ「…チーム全体が暗いぜ…」

スペ「スズカさん…大丈夫ですか…」

スズカ「…ええ…でも…もう走れない…」

マツクイーン「…主治医でも直せないとなると…」

ティオー「…もう…走れない…のかな…」

スタスタ…

ゴルシ「…ん？」

ガチャ！

提督「…ここがチームスピカの部室か」

僕達は驚いた。訳の分からぬ男の人が何かを持ってきて部屋に入ってきたからだ。

ゴルシ「おおん？なんだてめえ？」

提督「理事長に頼まれてここに来たトレーナーだ」

ウオツカ「少なくとも俺は今まで見た事ねえぞ」

提督「ああ、今日来たからな」

ダスカ「き…今日?!」

今日来たばかりのトレーナーにチームを任せること学校を疑つたよ。

提督「…なるほど…3人が怪我か…」

ゴルシ「ああん？お前舐めてんの？」

提督「舐めてはない」

スペ「スズカさん達はどんなに辛い思いでこの学校に…」

スズカ「…スペちゃん、ダメよ」

スペ「でも…」

提督「話は聞いた。骨折が2人、靭帯炎が1人。それもかなり走るのが難しいらしいと」

ダスカ「それが何なのよ！」

提督「…もう一度、走りたいか？」

スズカ「…！」

マツクイーン「走りたいですわ！」

ティオー「僕だって走りたい！」

提督「…気合いは十分、あとは体だな」→バケツ

スペ「あ…あなんですかそれ…」

提督「お前らを治す薬」

ウオツカ「そんなので傷が治るのかよ」

提督「分からん。だが、やらない事には変わりはない。全員、患部を見せてくれ」

—5分後—

提督（艦娘に使うものだが…多少薄めてある。これをぶっかける訳にはいかないが、タオルに当てて塗り込むだけでも効果はあるはずだ）

提督（なんせ欠損した腕が戻るんだからな…。聞いたところではこれを使って拷問する狂気のやつもいるらしい）

ティオー「…どうしたの？」

提督「ああ、すぐやるよ」

ティオー「…冷た」

提督「…塗り塗り…」

—5分後—

提督「…そろそろかな。立つてみてくれ」

ゴルシ「おめえ馬鹿じやねえのか！」

ウオツカ「ただでさえ骨折してるのに…！」

提督「いいから」

ティオー「う…うん…」スツ…

ティオー「…！ 痛くない…！それに…普通に歩ける…！」タタタ

⋮

提督（成功のようだな）

マツクイーン「ど…どうなつてますの?!」

ティオー「やつた…もう1回ステップが踏めるよ!」タツタツタツ
⋮!

ダスカ「えつ?!えつ?!」

提督「少し特殊な薬を塗りこんだ。一応治つてはいるが動かさない
ようにな」

マツクイーン「わ…私にもお願ひします！」

スズカ「…お願ひします」

「10分後」

マツクイーン「し…信じられませんわ…」ポロポロ…

スズカ「また…走れるのね…」

ウオツカ「あんたは一体…」

提督「…新しいトレーナーだよ」

それが僕とトレーナーの出会いだつたんだ。
—鎮守府—

ティオー「どうかな?」

時雨（バケツつて…）

村雨（高速修復材の事ね…でも在庫は確かにそのままだつたはずだ
けど…）

海風（でも本人が証言してゐるのを聞く限り間違いなく高速修復材…
でもどうやつて手に入れたの?）

ティオー「あれ? どうしたの?」

時雨「な…なんでもないよ」

ティオー「でねでね…」

白露「…質問があるんだけど…」

※安価を取ります。

何を質問する?」 210

（なんでも構いません）

白露「提督はなんでそつちに行つたの?」

ティオー「え？僕知らないよ。そんな事聞いたことないし」「

時雨「だよね」

村雨（…怪我を治しただけでここまで懐くかな？）

時雨（いや…それは絶対にないね）

夕立（ぽい？）

ティオー「でねでね♪」

海風（ここまで懐くのも凄いですよね…）

村雨（おそらくにかやつてる事は間違いないわね…）

ティオー「ん？どうしたの？」

白露「な…なんでもないよ」

ティオー「…じやあさ…僕から質問させてよ」

※安価を取ります。

質問は？』 2 1 3

（これで最後にしようと思います）

ティオー「…なんで君たちはそんなにトレーナーを必要とするの

？』

白露「…教えてあげる」

村雨「私達艦娘は戦うことが存在意義よ」

ティオー「戦うことが意義？」

時雨「君たちが走るのが存在意義のように僕達は戦うことで存在しての価値がある」

白露「でもね、戦争が終わってもまだ戦いは続くかもしれない」

ティオー「戦いが…続く？」

夕立「いつかはわからないけど今度は味方同士と戦うことになるぽい』

ティオー「味方同士？」

春雨「そうです私達日本の艦娘達と今と仲良くしている海外艦娘と国との戦いがあるかもしれません」

江風「それがうちら、戦うことしか評価得られないたよ」

五月雨「でもそれでもいいです」

ティオー「それでもいい？」

山風「私達が活動して君たちお馬さん平和でレースしてくれれば私達はそれでも嬉しい」

時雨「…僕達はいつ死ぬかも分からぬ…冷たい海の中に1人静かに沈んでいく…それがどれだけ怖く、寂しいものか…想像出来る?」

ティオー「…」

海風「ですからいつか沈んでもおかしくないよう日常生活を楽しんでるです」

ティオー（…）の子達は確かに命を張つてる…僕と比べられないくらいに…だけど僕は…）

ティオー「…君たちがトレーナーが必要なことはわかつたよ。だけど…」

ティオー「僕だつてカイチヨーに追いつきたい。三冠ウマ娘も無敗のウマ娘も出来なかつたけど…でも僕はいつかあの場所に着きたい。その為にトレーナーが必要なんだ！」

時雨「…やつぱり君たちとは相容れないね」

ティオー「…」

時雨「でも、君達の覚悟はわかつたよ」

ティオー「…お茶、ありがとうね」スタスター：バタン

白露「…ねえ、この事赤城さんたちに相談した方がいいかな？」

村雨「ええ、しましようか」

海風「…ティオーさん」

—提督 side —

提督「…さて…どうやつてあいつらを誘い出すかだが…」

提督（こっちが向かっても八門金鎖の罠がある。無理だな）

提督（…孫子曰く『故に其の道を迂にして、これを誘うに利を以てし、人に後れて発して人に先んじて至る。これ迂直の計を知る者なり』）

提督（あいつらを誘い出せればな…だが協力者が必要だ）
提督（…ゴルシ達に協力してもらえばあるいは…）

↑……To be continued

#22 一出発

—甘味処、間宮—

ショーウィンドウ「

マツクイーン「…」ジー…

マツクイーン（こここのスイーツ美味しそうですわね…学園でも見たことがないスイーツが並んでますわ…少しなら食べても…けど…食べたら…）（・――・）

マツクイーン（しかしここで逃しては…）ウーン…

? 「…誰かいるね」

? 2 「ウマ娘の…マツクイーンだっけ?」

? 「話しかけてみない?」

※安価を取ります。

誰?」> 216

(2人です)

マツクイーン「…決めましたわ。ここは…」

鈴谷「マツクつちじyan。チイーツス！」

マツクイーン「?! なんなんですか！あなた達は！」バツ！

最上「ダメだよ鈴谷…そんな呼び方しちゃ…」

マツクイーン「あ…あなた方はなんですの…」

鈴谷「私、最上型重巡3番艦鈴谷、よろしくね」

最上「同じく1番艦の最上さ」

マツクイーン「…」↑警戒

鈴谷「大丈夫だつて…取つて食つたりしないからさ」

最上「いや…それ凄く危ない説明なんだけど…」

マツクイーン「…」

最上「あ、そういうえばマツクイーンさんつき、聞いたんだけどスイーツが好きなんだつて？」

マツクイーン「なつ…?!」

鈴谷「へえ、まあ、確かにショーウィンドウずっと見てたぐらいだしね」

マツクイーン「み…見てましたの?!忘れてくださいまし!」

最上「ははは…めんめん…。お詫びに良ければお茶を…」馳走したいんだけどどうかな?ちょうど君たちが好きそうなスイーツを作つてね、ぜひ食べて欲しいんだけど…」

マツクイーン「す…スイーツですつて!」

鈴谷「うお、凄い食いつき…」

マツクイーン「是非案内してくださいまし!」

鈴谷（…この子…もしかしてウマ娘の中で一番ちよろいんじゃ…）
最上（言っちゃダメだよ…）

—最上型の部屋—

鈴谷「たつだいまー」ガチャ!

熊野「おかえりなさいまし…あら?」

三隈「あらあら…あなたはウマ娘の…メグロマツクイーンでしたかしら?」

マツクイーン「メジロマツクイーンですわ! 1文字違いますわよ！」

三隈「冗談ですか」

鈴谷「でさ…作つたやつ切り分けてくれない?」

熊野「もう切つてありますわ」

三隈「お茶も用意してありますわ」→ティーポット

マツクイーン「…これは?」

鈴谷「人参のパウンドケーキだけど…」

マツクイーン（毒とか入つてませんわよね…）

鈴谷「じやあいただきます!」パクツ!

マツクイーン「…」パクツ…

マツクイーン「…!」

マツクイーン「お…美味しいですわ!」パクパク!

最上「良かつた~」

マツクイーン「これ、どうやつて作つてらつしやるか教えてくださいまし!」パクパクですわ!

三隈「ええとですね…まずは…」

—説明中—

マックイーン「これ…お砂糖が入つていらっしゃらないんですね
⋮」

鈴谷「完熟したバナナ入れたからね。糖度高いし代用できるよ」
マックイーン「なるほど…今度、使用人に作らせてみますわ」
最上「じゃあさ…少しお話してもいいかな?」

マックイーン「もちろんですわ」

※安価を取ります。

話題は?」 224

(原作でもマックイーンがチョロいのはお察しの通り⋮)

最上「ウマ娘つて、前世の記憶とかあるの?」

マックイーン「前世の記憶…そんなものは聞いたことありませんわ
ね⋮」※あくまで魂を受け継いでるだけなので

三隈「そちらの学校ではどのような生活を?」

マックイーン「そうですわね…勉強はもちろん、レースに出るた
めのトレーニング、休みの日にはお出かけとかもしますわ」

鈴谷「お出かけ…って提督と一緒に?」

マックイーン「ええ、例えば…」

※安価を取ります。

どこに行つた?」 230

(どこでも大丈夫です)

マックイーン「スイーツ巡りをしたり、野球観戦をしたり…」

鈴谷「野球観戦?」

マックイーン「実は…ユタカが好きで…」

熊野「野球観戦ですの…面白そうですね」

マックイーン「興味がありますの?」

熊野「ぜひ見てみたいですね!」

マックイーン「なら今度一緒に…」

三隈「あの…あなた達のチームってどんな人がいますの?」

マックイーン「そうですね…スペシャルウイークさん、サイレン
ススズカさん、ティオー、ウォツカさん、ダイワスカーレットさん達

もなかなか個性的なチームなのですが、特に1番個性的なのはゴールドシップさんですね…」

最上（ゴールドシップ…赤城さんに言われたウマ娘の事か…）
赤城『何かウマ娘のことについて情報を聞き出してください。その中でもゴールドシップ…このウマ娘について詳しく聞いてください』
赤城『どうやらなかなか癖の強いウマ娘らしいので情報を集めたいのです』

最上（まあ…流石というか、慢心してない赤城さんだね）
マツクイーン「なんというか…掴みどころがないというか…鰻やへビみたいな性格ですわ…。ことある事にちょっとかい出してきて…」

鈴谷（だけどすごい喋るね…）

マツクイーン「そばにいると思えばいなく、近くにいないと思えば近くにいる油断ならない方ですわ」

三隈（忍者ですか…）

マツクイーン「それで…」

この後、マツクイーンによるゴールドシップの説明はまだまだ続いていくのであつた…。

一トレセン学園、正門ー

ゴルシ「よーし、準備は出来たな？」

ダスカ「勿論よ。着替えや準備はバッチリよ」

ウォッカ「それじゃあスペ先輩達を探しに行こうか」

キタブラ「ティオーさん、必ず助けてます」

サトダイ「マツクイーンさん…」

ゴルシ「よーしてなわけで…出発しんこ…」

? 「どこに行くのですか?」

ゴルシ「んあ?なんだおめえら?」

↑……To be continued

#23 一同行一

ブルボン「…何をしてるんですか」

ライス「ま…マックイーンさん達を助けるつて…」

ブルボン「なるほど、副会長から止めるように言われていますのであなた達を止めに来ました」

ゴルシ「止めるだ?このゴルシ様を止められると思つてんのか?止めるなら力づくで止めてみろ」

ブルボン「ステータス『戦闘モード』に移行、あなた達を止めます」

ライス「け…喧嘩はダメ…!」

ダスカ「ゴルシさんもダメですよ!」

サトダイ「…マックイーンさんたちは今でも怖い思いをしてると思います。だから私たちが危険を冒しても助けに行きたいと思つてるんです!」

キタブラ「ティオーさん達を助けに行かないと誰に行かないと誰が助けないといけないんです!」のままだとティオーさん達は…」

ブルボン「…どうしても行くのですか?」

ウオツカ「当たり前だ!俺らを止められると思うなよ!」

ライス「ど…どうしよう…」

ブルボン「…分かりました。そこまでの覚悟なら私も着いていきましょう」

ゴルシ「おう!あたしの奥義を…えつ?」

ブルボン「副会長から言伝を預かつております」

ブルボン「お前達を止めてもどうせ行くのである。どうしても行くならば、場所をおしえてやろう。横須賀だ。だが、会長たちが捕まっているところは罠がある、くれぐれも気をつけに行け」と

キタブラ「罠?」

ブルボン「私達が止めても、どうしても行くと言ふなら私達が同行しようと」

ライス「ら…ライスも…」

ゴルシ「なんだ…お前達も行くのか」

ブルボン「ええ、私も同行しましよう」

ゴルシ「よーし！ならメンバーは揃つたな！それではそろそろ…出发進行～！」

—横須賀鎮守府—

スペ「スズカさん！赤城さん達が、お茶会に誘つてくれました！」

スズカ「あら、それは良かつたわね」ニコツ

スペ「なんかウマ娘全員誘われてるらしいですけど…スズカさんは聞いてないのですか？」

スズカ「私は聞いてないわね…」

スペ「明日、ここに来て欲しいと言う事らしいです」↑埠頭

スズカ「…なら、私も行こうかしら…（何があつてもスペちゃんを守らないと…）

—翌日、埠頭—

ルドルフ「しかし…なぜ呼び出したが気になるな…」

ティオー「まあまあ、誘われてるんだし乗ろうよ！」

マックイーン「それにしても皆さんいませんわね…」

スペ「吹雪さん達がここで待つてると…」

吹雪「皆さん～！ここです！」↑船

スズカ「船？」

吹雪「今日は船でお茶会をするので乗つてください」

※こここの艦娘の設定：食事と補給は別（食事は艦娘の腹を満たす、補給は装備を治す）、駆逐艦、軽巡はお酒が飲めない（原作で飲めても）、艦娘は人を載せれない代わりに妖精さんを載せてる。船などの乗り物には乗れる（身長は普通の人と同じくらい）

スペ「うわあ～！船でのお茶会なんて楽しみです！」

スズカ「スペちゃん?!」

ティオー「僕も行く♪」

マックイーン「ティオー？待ちなさい！」

ルドルフ（…何か裏がありそうだな…）スタスタ…：

—提督 side —

提督「…よし、作戦が出来た。早速ゴルシ達に…」

—1時間後—

提督「…居ない…なぜだ？部室に行つてみよう」

—部室—

提督「ここでもないのか…ん？」

『ようトレーナー！あたしは大冒険にいつてくるぜ！じゃあな!! by
ゴルシちゃん』

提督「…まさか…」

提督「いやそんな訳ねえ…あいつらには場所すら掴んでないはず…
だがもしかしたら…」

提督「…外してくれよ…！」バン！

↑…To be continued

#24 一船遊

一船の上

赤城「皆さん、良くいらっしゃいました。皆さんと仲を深めたいと思
い、ここに招待しました」

ルドルフ「：親睦会の申し込み、感謝する」

赤城「間宮さんと鳳翔さん、護衛の艦娘も乗つてるので安心してく
ださい」

マックイーン「スイーツ！スイーツはありますの⁈」

赤城「ありますよ、でもまずはお腹を満たしてからデザートにしま
しょうか」↑料理

スペ「うわあ…！美味しそうです！」

赤城「ぜひ味わって食べてくださいね」

一鎮守府を出航して20分ほど

赤城「加賀さん、様子はどうですか？」

加賀「今のところはいなないわね」

赤城「そうですか、いつでも戦闘準備を怠らないでくださいね」

加賀「…赤城さんこそ慢心しないでくださいね」

一食堂

スペ「この船つてなんの船なのでしょうか？」

吹雪「これは司令官が、作戦の指揮を取るための船です。大きな作
戦の時に乗るんですよ」

ティオー「トレーナーの服があるの？」

吹雪「ありますよ。これです」↑軍服

ティオー「着てもいい⁈」

吹雪「大丈夫だと思いますよ」

ティオー「やつた♪」

マックイーン「…そういえばトレーナーさんは軍人でしたのかよね…」

何か武勇伝とかありますのか？」

※安価を取ります。

提督の武勇伝は？」 244

(なんでも構いません)

吹雪「武勇伝…ですか…そうですね…私達が敵に捕まつた時に単身でマシンガンをもつて敵基地を壊滅させた事がありますよ」

—数年前—

吹雪「うう…」

レ級「さあ、お前達、情報を吐け」

赤城「誰があなた達なんかに…」

加賀「話しません…」

レ級「あそ…うなら死んで…」ドタドタ…!

バタン!

提督「よお、深海棲艦共。今日がお前らの命日だ」→マシンガン(対深海棲艦用弾薬)

レ級「な…何?!」

提督「お前らの提督は死にました。お前らは調子に乗りすぎた。命乞いをして無駄だ」↑首

提督「地獄で俺の奴らに手を出したことを後悔してくださいね」ガチャ:

レ級「野郎…ぶつ殺してや…」

提督「若いのに可哀想だな。命を散らして」ドガガガガガガガガ…!!

レ級「ぎやああああ?!」→ミンチ

艦娘「ブルブル…」

戦艦棲姫「や…やだ…助けて…」

提督「ダメだ、お前らは調子に乗りすぎた」ガチャ!

ドガガガガガガガガ…!! おかーさーん!!

—現在—

吹雪「…正直怖かつたですよ…」

スペ「想望しただけで…」ブルブル…

吹雪「あとは指名手配の軍人を袈裟斬りにしたとか…襲いかかってきた敵を輪切りにしたりとか…兎に角逆らつたら怖いと思いました…」(――;)

—回想—

提督「深海棲艦のイカ飯だ」ズバツ！↑輪切り

空母棲姫「があああ！」

提督「よくもうちの艦娘傷つけたな…お前は切腹だ！」ズバツ！

重巡棲姫「うがあああ?!」ズバツ！

赤城（どちらかと言えば腹割きの刑では…）（――；

ー現在ー

スズカ「…嘘でしょ…」ブルブル：

ティオー「マツクイーンのせいで怖くなっちゃったじやん！」→軍
服着用

マツクイーン「わ…私のせいではありませんわ！」ブルブル：
ルドルフ（…ティオー：君はとんでもないトレーナーが着いたな
…）（？▽？；）

吹雪「あ、でも普段は優しいのでそこは勘違いしないでくださいね」
ー5分後ー

赤城「皆さん…どうしました？」

ティオー「あはは…この部屋寒いね…」

加賀「…冷房は入れてないけれど」

スペ「あはは…」

赤城「さて…皆さんをここに誘つたのには理由があります」

赤城「その前に1つ、有名な逸話を話しましようか」

赤城「戦国時代、ある武将が裏切りの可能性がある武将を誘つて舟
遊びをしました。しかし…不思議なことに翌日、2人は水死体で発見
されました」

ルドルフ（…宇佐美定満の話か）

マツクイーン（！この状況…話にそつくりですわ…）

ティオー「で…何その話？」

赤城「この状況にしてると思いませんか？私達は今あなた達を殺す
かもしれない…そう考えられませんか？」

スペ「で…でも命は保証すると…」

赤城「ええ、私はここまで卑劣なやり方はしません。ですが、私達
じやなければ？」

ルドルフ「…どういうことだ？」

赤城「左を見てください」

スペ「左?」クルツ：

ティオー「…何あれ?」

深海棲艦「…」

赤城「深海棲艦です」

マックイーン「なんでそんなに落ち着いていらっしゃられるの?!」

赤城「私達の戦闘を少しだけ知つてもらおうと思い、ここに誘いましたので」

ルドルフ「…お茶会は方便か…」

赤城「私も策士なので」フフ：

赤城「安心してください。全力で守りますので」→艦装展開

ルドルフ「…弓?」

赤城「さあ、行きましょうか」

一開戦! -

ゴルシ side -

ダスカ「よし! あたしの勝ちね!」

ウォッカ「?! もう1回だ!」

ライス「ブルボンさん。お菓子…どうですか」

ブルボン「いただきます」

キタブラ「皆さんで電車旅なんて楽しいです!」

サトダイ「ゴルシさんりその大きな荷物はなんですか?」

ゴルシ「ん? 向こうに着いてからのお楽しみだ」

ゴールドシップ一行も横須賀に向かっている…。

↑… To be continued

#25 一海戦一

(敵編成は1—3ボスです)

赤城 「皆さん、戦闘準備を」

吹雪 「はい！」

長門 「…ふん」 ↑艦装展開

加賀 「はい」 ↑艦装展開

古鷹 「陣形は？」

赤城 「輪形陣でお願いします」ダツ！↑船から飛び降り

ティオー 「ええつ?!船から飛び降りた?!」

鳳翔 「大丈夫ですよ」

赤城 「着水次第陣形を整えてください。まずは…」スツ：

赤城 「この私が合戦の火蓋を切ります」バシユツ！ ブーン！

スペ 「や…矢がなにかに変わりました⁈」

スズカ 「…飛行機っぽいもの？」

ルドルフ 「…我々にはよく分からぬんな…」

ドドーーン!!ドドーーン!!

ティオー 「ひやあ?!すごい音?!」

スペ 「耳が…」キーン！

吹雪 「酸素魚雷、一斉発射よ！」バシユツ！ ドドーン！

神通 「…遅いですね」ドーン！

イ級 「…」↑轟沈

タ級 「が…ああ…」↑轟沈

ヘ級 「…」↑轟沈

イ級 「…」↑轟沈

イ級 「…」↑轟沈

ティオー 「す…すごい…」

スペ 「敵を圧倒してる…」

チ級 「…せめてあいつらを道連れ…ぎやああああ⁈」バシユツ！

ドーン！

飛龍 「?! そつちに魚雷が⁈」

ティオー「…? なにか来たよ?」

マツクイーン「あればなんですか?」

鳳翔「! 魚雷です! 今すぐ回避行動を…」

明石「は…はい!」

鳳翔（この速さじや間に合わないわ…）

ルドルフ「全員! 何かに捕まれ!」

スペ「はい!」↑スズカに抱きつき

スズカ「スペちゃん?!」↑手すり

ティオー「うわあ?!」↑ルドルフに抱きつき

マツクイーン「はい!」↑ティオーに抱きつき

ルドルフ「違う、そうじゃない」↑手すり

スペ「うわあ…こつちに来ます…!」

スズカ（ぶつかる…!）

ドーン!

曙「…チツ」↑微ダメージ

潮「だ…大丈夫?」

曙「かすり傷よ」

スズカ「…」

曙「…」フン：

スペ「た…助かりました?」

スズカ「そうみたい…あと…スペちゃん…離れて…」 //

スペ「ああ?!ごめんなさい!」

ルドルフ「…ティオー、そろそろ…」

ティオー「あ、ごめんねカイチヨー…マツクイーン?」

マツクイーン「?! バツ!」

赤城「…大きな被害は無かつたようですね」

加賀「…これで少しは交渉の余地になつたかしら?」

赤城「分かりません。取り敢えず帰りましょうか」

—1 時間後、埠頭—

赤城「お疲れ様でした」

ルドルフ「貴様…もし私達が死んだらどうなるか分かつていたのか

?」

赤城「それに関連しては謝ります、申し訳ありません。しかし、こうでもしなければ信用して貰えないと思ったのです」

マックイーン「信用?」

赤城「なぜ私達が命懸けで戦うのか、なぜ提督が必要なのかです。あの深海棲艦ははぐれです」

ティオー「…よくわかんない」

加賀「簡単にいえばまたま日本近海に迷い込んできた、または簡単が撃破されて落ちのびてきただ物のことよ」

長門「だが、こんな奴もいる」→戦艦棲姫の写真

スペ「な…なんですかこれ…」

赤城「さつきのよりずつと強い深海棲艦ですよ。中にはこれで沈んだ艦娘もいます。うちちは轟沈した艦娘はいませんが…」

瑞鶴「捕まつたらまだ助かるけど、沈んだらこいつらのようになるのよ」

スズカ「…」

赤城「だから私たちは是が非でも提督が必要なのです。あの程度ならば私達は対処はできます。しかしこの様な敵が居ることも事実なのですよ」

赤城「下手すれば私達がボイコット、離反したら…どうなるでしょうね?」

ルドルフ「…脅しか」

赤城「私達は少なくとも今は提督を返してくれる、ただそれだけが希望です。だからあなた達に直接見せる事で戦うことの危険性、そして提督の必要性を説いたのです」

赤城「…提督を返していただけませんか?」

ルドルフ「…残念だがそれは無理だ」

ティオー「僕だってトレーナーと離れたくない!」

赤城「…そうですか。今日はありがとうございました」スタスタ…

艦娘「…」スタスタ…

ルドルフ「…やはり彼女達とは溝が深いようだな」

吹雪 「…すいません…本当に…」

スペ 「吹雪さんは悪くないですよ」

吹雪 「…怪我はありませんでしたか？」

マツクイーン 「怪我はありませんわ」

吹雪 「そうですか…私ももう少し掛け合つてみます。そろそろ会議があるので…では…」 スタスタ…：

スズカ 「…大丈夫？」

曙 「…この位平氣よ」

スズカ 「…ありがとうございます」

曙 「別にあんたの為じやないし、じゃ」 スタスタ…：

スズカ 「…」

—横須賀市—

ゴルシ 「よーし！ ついたな！」

ブルボン 「列車移動完了、現在横須賀市に到着」

サトダイ 「あの…その大きな荷物は…」

ゴルシ 「まあ、後で使うからよ…まずは情報集めだな」

—提督 side —

提督 「やはり横須賀に行つたか

情報屋 「ああ、今朝部下がお前の担当バガ新幹線の切符を買つてた。
恐らく…」

提督 （早まつた事を…だから任せておけと言つたのだ） くつ…：

情報屋 「…どうする？ 助けに行くか？」

提督 「…お前も知つてるだろ。あそこに入つた侵入者は誰一人生き
て帰らなかつたことを。おそらく俺が潜り込んでも捕まる」

情報屋 「ならどうする」

提督 「…この2人の居場所を教えてくれ」 ↑艦娘2人

情報屋 「あいよ。わかつたら連絡する」

提督 「…無事だといいが…」

↑…To be continued

#26 一斤候ー

ーその後…ー

ライス「こ…この人達知りませんか?」→マックイーンの写真

男「いや…知らないね…」

ブルボン「オペレーション『不明』次を探しましょう」

ダスカ「この人を見かけませんでしたか?」→スペ、スズカの写真

女「あ、あなたダイワスカーレットちゃんでしょ!いつも応援して
るわ」

ダスカ「ふふ、ありがとうございます♪」

女「でもね…この子達は見てないわごめんなさいね」

ダスカ「いえ、情報ありがとうございます♪」

ウオツカ「無駄足か…」

ダスカ「なにやつてんのよ。早く行くわよ」

キタブラ「このティオーさん達をみてませんか?」

サトダイ「少しの情報でもいいですの!」

男「知ってるか?」

男「いや…他を当たってくれ」

キタブラ「…見つからない…」

サトダイ「み…見つけるよ!」

チヤラ男「ねえ、そこのお姉さん」

ゴルシ「ん?」

チヤラ男2「俺たちと一緒に遊ばない?」

ゴルシ「…悪いな。今アサリとハマグリでオセロやってるんだ。後
にしてくれ」

チヤラ男「そんなつまらない事より俺達と遊ば…」ドガツ!

チヤラ男「ふげええ?!」→蹴飛ばされた

ゴルシ「おめえらのせいで棋譜が分からなくなつたじやねえか!あ
たしに2度と近寄るな!」

チヤラ男2「す…すいませんでした!」

ゴルシ「…やべ、情報聞き出すの忘れてた」

キラツ…！

ゴルシ「ん？なんだこれ？」スツ：

—2時間後、喫茶店—

店員「いらっしゃいませ。ご注文は？」

ゴルシ「あたしはアイスコーヒーな。後この店のおすすめ」

店員「では当店名物のカレーはどうでしょうか？」

ゴルシ「じゃあそれにするか」

ライス「ら…ライスはこのパンケーキをください」

ダスカ「このパフェをください」

ウオツカ「このピザトーストをくれ」

ブルボン「これを」↑ナポリタン

キタブラ「これください！」↑オムライス

サトダイ「じゃあ同じ物を」

店員「かしこまりました。少々お待ちください」

ダスカ「ようやく休憩ね…」

ゴルシ「おいおい…まだ気は抜くなよ。ここは敵地だぞ。話を聞
かれてることも前提にして会話するぞ」

カラソカラソ…

? 「…」↑艦娘

? 2 「…」↑艦娘

? 3 「…」↑艦娘

ライス「うわあ…綺麗な人…」

キタブラ「大人の女性ですね」

店員「お待たせしました」

—5分後—

ゴルシ「くう…キンキンに冷てるぜ。で…どうだつた？」

ブルボン「2時間の間に50人に調査、全員が知らないと」

ライス「こつちも…」

ダスカ「…誘拐されたのなら誰かが見てるはずなのに…」

ウオツカ「…下手したらここにいないのか？」

キタブラ「という事は…移送されたとか？」

ウオツカ「…もしくは…」

サトダイ「そ…そんな…」

ライス「どうしよう…」

サトダイ「…情報屋使いましょうか？」

キタブラ「…情報屋？」

艦娘「…」↑素知らぬ顔で聞いてる

ゴルシ「そんな金ねえよ。第一、情報屋に頼つても偽情報でぼつた
くられる可能性もあるからな。腕の立つ情報屋でも無い限り普通の
人は下手に手を出さない方がいい」

ライス「…じゃあどうすれば…」

ゴルシ「…おい、コレ見てみろよ」↑スマホ

ライス「…マツクイーンさんのブログ？」

ゴルシ「つい最近更新されてる。しかもこの近くでだ」

ダスカ「生きてはいるようですね」

ゴルシ「ああ、だが何処にいるかは分からずじまいだ」

ダスカ「…一人一人聞くのは骨が折れそうね…」

ウオツカ「誰も見てないとなるとな…」

ゴルシ「…あれを見てみる」

ダスカ「…お祭り？」

ゴルシ「ああ、近くの神社で祭りをするそうだ。で…」

ライス「そこで何か聞き出すんだね！」

ゴルシ「ああ、人の集まるところには情報が集まる！ならマツク
ちゃん達の情報も」

ダスカ「出やすいってわけね」

ゴルシ「よーし！そういうことなら早速行くぞー！」
ー近くの席ー

加賀「…」↑斥候（？）

瑞鶴「…ねえ、あれって…」↑斥候（？？3）

翔鶴「…ウマ娘ね」↑斥候（？？2）

加賀「あの顔…ゴーランドシップとダイワスカーレット、ウオツカ…

あとは見ない顔ね…」

瑞鶴「…お祭りに行くらしいけど…」

加賀「ならそれを利用させて貰いましょう。早速赤城さんに報告です」

一 横須賀鎮守府

赤城「…ウマ娘が横須賀に入ってる?」

瑞鶴「そう、ゴールドシップとかね」

加賀「…7人を確認して、少なくともスピカのメンバーではないウマ娘が4人

翔鶴「こちらがその写真です」

青葉「早速調べて見ますね」カタカタ…

衣笠「…出た。キタサンブラック、サトノダイヤモンド、ライスシャワー、ミホノブルボンの4人ですね。他のメンバーはスピカのメンバーで間違いないです」

飛龍「で…どうするよ?もうこれ以上騒ぎ起こしたらまずくない?」

羽黒「司令官さんがどうしてるかもまだ分かりませんし…」

大和「私個人的にはしばらく様子見の方がいいかと…」

比叡「ですが、人質が多い事に越したことはありませんよ」

蒼龍「…あの子達、私たちより多くご飯吃るんだよ?おかげで食料が足りなくたり出してる。一応、買つたりしてるからそこまで影響はないけど…」

加賀「…そういうえば、この子達は今日のお祭りに行くとか言つてしまつたが…」

吹雪「お祭りで攫うのですか?!流石にやりすぎかと…」

神通「…これは少しばかり考えなければなりそうですね」

赤城「…では、私達がお祭りにいきましょうか」

伊勢「…それは?」

赤城「いわゆる偵察です。お祭りに行くということはこっちにはまだ気づいていない可能性があります」

赤城「であるならば、ここで騒ぎは起こさず様子を見るに收まり相手の行動がわかり次第行動しましよう。侵入してきた場合はもちろん

ん、横須賀から出た場合はそこで攫わずに無事に返しましよう」

古鷹「リスクが有りそうですね……ここに来たということは何かしらの目星がついてるからかと…」

赤城「でもわざわざ軍の施設に入りますか?ここには妨害電波を流し、G P Sなどは表示されないようになります。目星は着いた所で見つけられなければ帰るしかありませんので」

加賀「分かりました。それにしましょう」

赤城「ではその方針で」

↑……To be continued

#27 一大祭ー

ーその夜、お祭りー

ゴルシ「へい、いらつしやい！ゴルシちゃん特製焼きそばはこちら
だよー！」ジュー…！（許可証はとつた）

ダスカ「…いつの間に…」↑売り役

ウォツカ「しかしすごい勢いで売れていきますね…」↑売り役

ゴルシ「おうよ！ゴルシちゃん得意ソースを練り込んであるからな
！」

ライス「…」↑お客

ブルボン「…」↑お客

キタブラ「いらっしゃいませ～」

サトダイ「美味しいですよ～！」

ゴルシ『ライス達はお客様に紛れて怪しい者が居ないかチェックだ。
あたし、ウォツカ、スカーレットは店員、ブラックとダイヤモンドは
呼び子だ』

キタブラ『でもそんな物がどこに？』

ゴルシ『これよ！』

ライス『ええ?!屋台のセット持ち歩いてたの?!』

ゴルシ『おう！これで怪しいヤツを探す、あたし達が儲かる！一石
二鳥だ！』

ゴルシ（しかし怪しいヤツはいないな…）

ダスカ「…見つけた？」

ウォツカ「いや全然…」

赤城「あら…美味しそうですね」↑浴衣姿

加賀「…焼きそばですか」↑浴衣姿

ゴルシ「おう、ゴルシちゃん特製焼きそばだぜ。1つ564円だ」

赤城（…耳を隠してますがゴールドシップですね）

加賀（まさか店を出してるとは思いませんでしたけど…）

ゴルシ「で…焼きそば何個欲しいんだ？」

赤城「では10個で」

加賀「私は15個で」

ゴルシ「あいよ、ちょい待ち」

ー3分後ー

ゴルシ「あいよ、焼きそば25個14100円だ」

赤城「これで足りますよね」↑2万円

ゴルシ「おう：お釣りは…」

加賀「お釣りは結構よ。頑張ってるご褒美」

ゴルシ「そうかよ…ありがとよ」

赤城「では…他のお店も回りましょうか」

加賀「ええ…」

加賀（ここにいるのは5人：あと2人見つけましょう）

赤城（ええ）

ゴルシ「…？」クンクン…

赤城「…どうしました？」

ゴルシ「いや、なんでもねえ」

赤城「そうですか、では」スタッタ…

ゴルシ「…ブラツク：あいつらについていけ」

キタブラ「えつ？あの二人に？」

サトダイ「何かありました？」

ゴルシ「マックイーンの匂いがした」

ウオツカ「分かるんですか？」

ゴルシ「ああ…なんか…じいちゃんの畠の匂いがした」※原作でも

こんな感じです。

ダスカ（どんな匂いですか…）

ゴルシ「…いいか、こつそりついていけ。女は勘が鋭いからな…」

キタブラ「は…はい！」スタスタ…

サトダイ「私も行きます！」

ーお祭りー

飛龍「…ウマ娘を確認、ライスシャワーとミホノブルボンだね。まさか客に紛れてるとはね…」

ライス「はうつ?! キーン!

飛龍「…ウマ娘を確認、ライスシャワーとミホノブルボンだね。まさか客に紛れてるとはね…」

ライス「はうつ?! キーン!

ブルボン「大丈夫ですか？ライスさん」

ライス「いたた！」→かき氷

蒼龍「…これで全員かな？」

神通「…そのようですね」

瑞鶴『ねえ！2人消えた！』

伊勢『キタサンブラックとサトノダイヤモンドのふたりが消えた！』

！』

蒼龍「えっ?!見失ったの?!」

吹雪「探しますか？」

翔鶴「ええ、探しめしよう。人混みに気をつけてね」

→鎮守府への道→

キタブラ「…人が少なくなってきた…」

サトダイ「…あれは何？」→鎮守府

赤城「…誰かいますね」

キタブラ「?!」

赤城「誰か…見てるな！」→DIO様ポーズ

キタ布拉「…バレましたか…」

サトダイ「…ま…マツクイーンさんはどこにいますか?!」

赤城「…マツクイーン…誰ですか？」

キタブラ（この人達がティオーさん達を攫つたのか分からぬ…だけどゴルシさんの信じるならこの人達は被疑者だ…どうする？）

キタブラ（この人達がティオーさん達と関わってたという証拠を…どう見つけだす…！）

→提督 s i d e →

お兄様「ライス～！ライス～！」

黒沼「…ブルボン、どこだ」

提督「どうしたんですか？」

お兄様「あ！スピカのトレーナー！今朝からライスとブルボンさんがいないので捜索してるのでです！」

黒沼「何か見たとかはないか？」

提督「いや…2人とも夜に遊ぶことが想像できませんでした…」

お兄様 「まさか誘拐とかでしようか…」

提督 (...まさか...)

↑...
To be continued

#28 一露見一

キタブラ（こうなつたら…）

キタブラ「ティオーサ～ン！ マックイーンさ～ン！ 皆さ～ン！ 何処にいるんですか！」

赤城「!」

サトダイ「マックイーンさ～ン！」

加賀「こらあなた達…近所迷惑でしょ」

キタブラ（しめた…動搖して…）

キタブラ「ティオーサ～ン！」

一鎮守府

『マックイーンさ～ン！ 皆さ～ン！』

スズカ「…なにか聞こえる？」 → ランニング中

スズカ「…門の方から？」

キタブラ「…！ スズカさん！」

サトダイ「ティオーサン達もここにいるですね！」

スズカ「え…ええ…」

キタブラ「やつぱりあなた達が…」

赤城「…バレましたか…なら…」 → 艦装展開

加賀「やるしかないですね」 → 艦装展開

キタブラ「えつ？」

サトダイ「に…逃げないと…！」

赤城「逃がしませんよ。強硬手段です。さあ…大人しく捕まつて下さい」

※安価を取ります。

結果は? 266

- 1 キタブラ確保
- 2 サトダイ確保
- 3 両方確保
- 4 逃げられた

赤城「あなた達には申し訳ありませんが…捕まつてもらいましょう

！」ダツ！

キタブラ「?! 速い?!」

サトダイ「キタちゃん！早く逃げないと！」

加賀「…」ダツ！

キタ布拉「！ 分かれ道だ！」

サトダイ「キタちゃんが右！私が左に行つてどつちかが逃げられる
ようにしよう！」

キタ布拉「…！うん！」ダツ！↑右

サトダイ「後で会おうね！」ダツ！↑左

赤城「…加賀さんは左をお願いします」

加賀「分かりました」

—キタ布拉 side—

キタ布拉「はあ…はあ…まだ追つてくる…」

赤城「…粘りますね…」はあ…

キタ布拉「…こを右に…！」

キタ布拉「い…行き止まり…！」↑三方が堀の袋小路

赤城「さあ…追い詰めましたよ」

キタ布拉「こ…こうなつたらやるしかない！やああ！」ブン！↑殴り

キタ布拉（ウマ娘なら人間には負けな…）

赤城「…パシッ！↑拳受止め

キタ布拉「?!」

赤城「…軽いパンチですね…まるでピッチャーフライを取るよう
に」グググ：

キタ布拉「あ…が…」

赤城「さあ、終わりにしましよう！」ブン！↑背負い投げ

キタ布拉「う…うわああ?!が…?!」バタツ！

キタ布拉「…」↑気絶

赤城「さて…連れていきましょう」

—サトダイ side—

サトダイ「はあ…はあ…」

加賀「…」

『うわああ?!』

サトダイ「！ キタちゃん?!」

加賀「…どうやら捕まえたようね」

サトダイ（ごめんね…キタちゃん！）

サトダイ「?!」↑行き止まり

加賀「…」

サトダイ「い…いや…」ブルブル：

加賀「…貴方は逃がしてあげる。その代わり、他の子に伝えなさい」

サトダイ「…」ブルブル：

加賀「キタサンブラックは捕まえた。スペシャルウイーク達も捕まっている。返して欲しければ力ずくで取り返すかスピカのトランナーを引渡しなさい」

加賀「…それを伝えるなら逃がすわ」

サトダイ「…」コクコク！

加賀「…場所は横須賀鎮守府よ」スタスター：

サトダイ「…」ヘナヘナ：

—ゴルシ side —

ゴルシ「…ん？ 戻つてきた？」

サトダイ「…」

ウオツカ「おい、ブラックは？」

サトダイ「う…うえええ…」

ダスカ「?! どうしたの?!」

サトダイ「キタちゃんが…キタちゃんが…！」

—5分後—

ライス「ええ?! ゆ…誘拐されちゃつたの?!」

ウオツカ「でも見てないんだろ、その時を」

サトダイ「キタちゃんの叫び声が確かに聞こえたんです…それに今も戻つてないので…」

ゴルシ「鎮守府って言つてたか? なぜあたし達のトレーナーを要求するんだ?」

ブルボン「しかし、新たな情報も確認。スペシャルウイークさんは生きてます」

ゴルシ「…ならどうする?」

※安価を取ります。

どうする?》 279

1 鎮守府へ突入

2 撤退

3 その他

ウォツカ「…なあ、ここで引き下がつたらスペ先輩達はどうなるんです…今生きていても明日どうなつてるか分からぬ…なら危険を承知でも行くべきです」

ダスカ「ええ、キタちゃんのことも心配だしね」

サトダイ「皆さん…」

ライス「…怖いけど…ライスも行くよ」

ブルボン「はい、皆さんをつれて帰りましょう」

ゴルシ「…でもよ…夜は暗い。それに万が一何があるとやばいから明日、忍び込もうぜ」

ブルボン「…了解、わかりました」

ウォツカ「…分かつた」

↑……To be continued

一一番外編、横須賀の夜ー

ゴルシ「よし：明日助けに行くぞ」

ライス「…でも…明日つて：明日までどうしよう…」

ブルボン「確かに…私達はここに宿泊する予定をしていませんでした」

ウォツカ「…今からでもホテルを探すか？」

ダスカ「部屋が空いてる保証なんて無いわよ…。それに…そもそも私たちが泊まれるかも…」

ゴルシ「…最悪野宿だな。寝袋でも…」

サトダイ「…皆さん、少し待ってください」ピッピッピ…ブルル：

サトダイ「…はい、私です。今からでも大丈夫ですか？」

サトダイ「…分かりました」ピッ：

ライス「…？誰に連絡したの？」

サトダイ「皆さん、今日泊まるホテルが確保出来ました。ここから少し歩きますが大丈夫ですか？」

ダスカ「本当！」

サトダイ「はい、行きましょう！」

—高級ホテル—

ブルボン「…こは…」

サトダイ「サトノグルー卜が経営してるホテルです。丁度お部屋が空いてたので泊まりましよう！」

ライス「ええ！でもお金…」

サトダイ「大丈夫ですよ。優待券で無料ですから」→人数分

ゴルシ「うおお！僕倖だぜ！」

ースイートルーム—

案内人「どうぞごゆつくり」バタン…

ライス「うわあ…きれい…」

ブルボン「相模湾ですね」

ウォツカ「へえ…東京とはまた違うな…」

ダスカ「…この街を少し探索するのもありかもね」

ゴルシ「おいおい、ここは敵地だぜ。やめとけそんなの」

ダスカ「分かってるわよ」

サトダイ「皆さん、このホテルには大浴場があります。そちらで今日の疲れを取つてください」

サトダイ「もしよろしければ個室の方にも露天風呂があるとの事です。そちらも使ってください」

ライス「露天風呂…」

ブルボン「ライスさん、一緒に入りませんか？」

ライス「で…でもいいの？ライスと入ると…」

ブルボン「構いません」

ライス「…うん！」

ゴルシ「…おい、本当なら…んじゃないところ泊まれねえだろ。いくらするんだ？」

サトダイ「…1泊…」ゴニヨゴニヨ…

ゴルシ「…まじか…」

ー翌朝、朝食ー

ダスカ「朝食バイキングね…どちらから食べるか迷っちゃうわね」

ライス「…これ好きなだけ食べていいの？」

サトダイ「はい、好きなだけどうぞ。おかわりも自由です」

ウオツカ「なら…俺はまずは…」

ダスカ「ちょっと?! 食べすぎて動けなくならないでよ！」

ゴルシ「よし…あたしも食べるか」

サトダイ（…キタちゃんはどうしてるのかな?）

ーその頃、鎮守府ー

キタブラ「あまり美味しくないって聞いたことがありますけど美味しいですね！」ガツガツ！

スペ「はい！何回でもおかわりできちゃいます！」ガツガツ！

スズカ「…スペちゃんといっぱい食べるわね」フフフ…

長門「…赤城と同じか？あの量は？」

陸奥「…ウマ娘つて私達の想像以上に食べるのね…」

大淀「…一応兵糧はまだありますがこのペースだとかなり計算を見

積もらないといけませんね…」

—ゴルシ s i d e —

『行つてらっしゃいませ～』

ゴルシ「さて…行くか…。あたしらの戦場へ」

ブルボン「はい、行きましょう」

ライス「みんなを助けるために…」

サトダイ「キタちゃん…」

ウオツカ「スペ先輩…必ず助けてます」

ダスカ「さあ…行くわよ！」

#29 — 潜入 —

— 鎮守府、地下室 —

キタブラ「むく！むく！」ジタバタ…↑拘束、猿轡

赤城「少し大人しくしてくださいね」カチヤカチヤ…

明石「えつ…やるんですか？」

赤城「はい、お願ひします」

キタブラ「フハツ?!こ…ここは…」

赤城「あなたたちが見た大きな建物の中よ。私は赤城、ティオーザん達のトレーナー…いえ、ここ)の提督の妻です」

キタブラ「?!

赤城「…何故ここを突き止めたか…ある程度分かります。あのウマ娘がここから脱出してしまったのでしょうかね…（エアグルーヴ）」

キタ布拉「…ティオーザん達は無事なんですか？」

赤城「こちらで私達と生活してます。もちろん私達の目的も。ですが…」

赤城「私達は彼女達の生殺与奪をいつでも出来る…無論そんなことはしません」

キタブラ「…あなた達の目的は…」

赤城「提督を返す、ただそれだけです」

赤城「それをすれば直ちに皆さんを学校に返します」

キタ布拉「…ティオーザんは断つたんですよね」

明石「はい」

キタ布拉「なら、私はティオーザんの意志を尊重します」

赤城「…そうですか…」

ドタドタ…！」

ティオー「キタちゃん！」

キタ布拉「ティオーザん！無事だつたんですね！」

ティオー「き…キタちゃんに何するの！」

赤城「…」

※安価を取ります。

どうする?」 285

(なんでも構いません)

赤城「分かりました、ならティオーさん達と同じようにしましよう」

キタブラ「…同じ様に?」

ティオー「ここに住むつて事だよね?」

赤城「はい」

キタブラ「…ティオーさんはそれでいいんですか?」

ティオー「うん、じゃないと…どうなるか分からないしね」

赤城「では、案内をお願いします」

ティオー「はーい」

キタ布拉「…」

一少し後

加賀「…赤城さん、ダイヤモンドの方は逃がしたわ。恐らくですが

明日…」

赤城「ええ、皆さんに伝えてください。戦闘態勢に入れるよう準備をと」

加賀「了解しました」

赤城「…さて…あの子達は…提督はどうのように出てくるのでしょうか」

一翌日

ゴルシ「…いよいよだな…」

ウオツカ「ああ…」

ダスカ「…いよいよね」

ライス「うう…少し怖いな…」

ブルボン「…大丈夫です。私が着いてます」

サトダイ（キタちゃん…）

鎮守府「ゴゴゴ…」

ゴルシ「…ここに来るまでにどれだけの笑い…別れ、涙があつたか

…」

ブルボン「…そんなものありましたか?」

ゴルシ「まあそれはともかく…いいか、まづここに乗り込んだら

別々に行動するぞ、万が一誰か捕まつても誰かが生き残れるようだ。それと…ここに乗り込んだら他の人を見捨ててでもここに帰つてくる事、分かつたな

ライス 「う…うん！」

ゴルシ 「こここの恐らくどこかに居るはずだ」

ゴルシ 「それじやあよ…」 バサツ！

ゴルシ 「ド派手に行くぞ！」 ↑勝負服

サトダイ 「キタちゃんは…私が助ける！」 ↑勝負服

ライス 「こ…こわいけど…ライスも頑張る！」 ↑勝負服

(全員勝負服に着替えました)

↑… To be continued

#30 一正門ー

ー鎮守府正門ー

ゴルシ「…あそこが正門か…」

ダスカ「…誰かいますよ？」

ゴルシ「恐らく見張りだな」

ー艦娘 sideー

長良「…ここに来るのかな？」

五十鈴「来るんじゃない？仲間が攫われて助けないとか薄情だし

ね」

名取「でも…わざわざここに来るかな？」

由良「…の鎮守府はかなり防犯に厳しいから入る場所は限定され
てるからね」

鬼怒「取り敢えずここを守るよ」

ーウマ娘 sideー

ウォツカ「どうします？どこから侵入しますか？」

ゴルシ「この基地を見た限り潜入は難そそうだ」

ブルボン「何故ですか？」

ゴルシ「あの堀、かなり厚そうだ。それにかなり高い。堀の上には
有刺鉄線だ」

サトダイ「登ろうとしたら…」

ダスカ「服が破れちゃうじゃない」

ゴルシ「その前に見つかる可能性もあるしな」

ウォツカ「ということは正面からですね」

ゴルシ「…そうするしかねえな」

ゴルシ（ま、少し試したいものもあるしな）

ー鎮守府正門ー

長良「…！」

五十鈴「來たわね…」

ダスカ「あんた達、スペ先輩達を返しなさい」

由良「もし返さないって言つたら？」

ウオツカ「その時は押し通るぜ！」

名取「こ…ここは関係者以外立ち入り禁止です！」

鬼怒「ま、その前にここは通らせないよ」

ブルボン「…ステータス『交渉決裂』、戦闘準備に移ります」

阿武隈「こ…ここは通さないんだから！」↑銃（ライフル）向け※

艦装は全員つけてない

ライス「ど…どうしよう…」

ゴルシ「おいおい、そんな奴らに話しようって言つても無駄だせ」

長良（あの子が…）

五十鈴（ゴールドシップ…）

ウオツカ「ならどうすれば…」

ゴルシ「こいつの出番だぜ」→吹雪型の艦装（砲台のみ）

五十鈴「?!なんであんたが艦装持つてるのよ！」

ゴルシ「なんか岸に流れ着いてたぜ。ふくん…これ艦装つて言うのか」※この艦装は先日近くで他の鎮守府の艦娘が大破した時に落とした物（その子は大破で済んだ）。それが岸に流されてきた

ブルボン「…なにか危ない事が予想されます」

阿武隈（ちよつと?!どうするのよ?!)

長良（どうするもあれに弾が入つていたら…）

ゴルシ「…こう使うのか？」ガチャ!

由良「あ…あれつて…」

鬼怒「実弾入りだ！みんなしゃがん…」

ゴルシ「ゴルシちゃん砲発射！」カチッ！

ドーン!!

ゴルシ「うわあ！」ズガガ！↑吹つ飛んだ

長良「うわあ?!」ズドーン！↑門半壊

五十鈴「いたた…みんな無事?!」

由良「な…何とか…」

鬼怒「な…なんて事を…」

ゴルシ「いてて…艦装壊れちつたぜ」

サトダイ「だ…大丈夫ですか?!」

ゴルシ「ああ、大した事ねえ」

ダスカ「でも今がチャンスです」

ウォツカ「今のうちに突撃しましよう！」ダツ！

長良「?!待つて！」

由良「入られた！」

五十鈴「くつ…！早く応援を呼ぶわよ！」

—ウマ娘 side—

ドガーン！

マックイーン「な…なんですか？！」

ティオー「な…なにか爆発したの？！」

スペ「ひやああ？！」

スズカ「…外から…？」

ルドルフ「皆、落ち着こう。どうやらここには被害はないらしい。しばらく様子を見よう」

—艦娘 side—

赤城「?！」

加賀「何事！」

葛城「せ…正門が破壊されてます！」

飛龍「どういう事?!」プルル…！

五十鈴『赤城さん！ウマ娘が侵入しました！あと…なんか艦装で正門が破壊されました！』

赤城「艦装…？どうやら話を聞かなければならないようですね…」

神通「…その前に侵入者を捕まえましょう」

赤城「そうですね。全艦娘に捜索に当たるように連絡を！」

—茂み—

居ない…どこだ？あっちを探そう！

ゴルシ「ふう…今の所見つかってないぜ」

ウォツカ「…あの見張りが退いてくれたら中に入れそうなんですかね…」

ゴルシ「…ならよ…」↑石
ブン！

ドボン！

レーべ 「…? なにか音がした?」

マツクス 「向こうを探してみましよう」 スタスタ：

ゴルシ 「今だぜ！」 ダツ！

ライス 「み…見つかりませんように…」

—正面口—

ゴルシ 「…開けるぞ」 ガチャ…

ブルボン 「…長い廊下ですね…」

ダスカ 「…誰か来るわよ？」

ドドド…ダービー弟のように

スタッ！

? 「…ようこそ、ウマ娘横須賀ツアード御一行様」

? 2 「私達が相手になるように言われてます」

↑ … To be continued

#30 番外編、別ルート

ゴルシ「…さて…着いたな」

目の前にそびえ立つのは仲間を捕らえている巨大な要塞兼監獄、この中にウマ娘が居る…。

ダスカ「で…どう侵入するのよ」

ウォツカ「そりや正面突破だろ?」

ブルボン「それはあまりに危険です。建物内の敵人数未知数、下手をすれば見つかります」

そう、ここは軍の要塞兼基地である。中には武装した艦娘がいることは明白である。もしそれを堂々と入つて行こうものなら即逮捕、下手をすればその場で射殺である。まさにミイラ取りがミイラになる…である。

サトダイ「では…どこかから忍び込むのはどうでしよう?」

ライス「え…ええと…どこから忍び込めばいいのかな…」

ゴルシ「…正面はダメだな。堀が高すぎる。上には有刺鉄線だ」
軍の基地はスペイ、敵の侵入を警戒して壁は高くなっている。しかもコンクリート式である。穴を開けることは不可能、仮にハシゴを掛けて登ろうものなら上有る有刺鉄線で傷だらけ、服はビリビリになるであろう。

ライス「じゃ…じゃあ…変装するとかは?」

ゴルシ「…それもかなり危ないぞ」

ウマ娘には人間、もとい艦娘にもないふたつの特徴がある。馬耳と尻尾である。これを上手く隠さなければ1発でアウツ! 仮に建物内部に上手く潜入出来ても露見されれば捕まる事間違いなしである。

ダスカ「…八方塞がりね…」

前提条件であるスペシャルウイーク達の場所、艦娘達の場所、そして誰もいなくなつた緊急時の脱出口などゴルシ達には足りていなかつた。将棋で言うならば王将を追い詰めているのに攻め切れていない状態である。

ウォツカ「ゴルシ先輩…どうしますか!」

ここでゴルシが取れる方法は3つ

①正面突破

②手薄な場所から侵入

③潜入

ゴルシ（どれがいいんだ…）

ゴルシが選んだ作戦は…（ここから2パターンになります）

①②の場合

ゴルシ「…まあ、もう少しこの周辺回って見ねえか？」
ダスカ「えっ？」

ゴルシ「敵情偵察つて奴だ。ここじゃなくてももう少し隙がある場所が1箇所ぐらいある筈だ」

サトダイ「分かりました。少し歩き回ってみましょう」

そうして歩くこと30分…一筋の光が見えることになる。それは茂みに隠れている場所で見つかった。

ウオツカ「…ダメだ：見つからねえ…」

ダスカ「もう正面突破しかないのかしら…」

ライス「…あっ?!」↑転げた

ブルボン「大丈夫ですか、ライスさん」

ライス「痛た…だ…大丈夫だよ…あれ…」

ブルボン「どうしました?」

ライス「…あそこ…穴あいてないかな?」

ブルボン「…えっ？」

ダスカ「本当ですか！」

ダスカ「本當ですか！」

そこを探つてみると、なるほど金網が開けられており、人1人がくぐれる穴があつた。ここは卯月達駆逐艦や海防艦達が秘密裏に作つていた抜け道であつた。

ゴルシ「でかしたぜ！これで気づかれずに中に入れるな！」

ブルボン「ライスさん、お見事です」

ライス「あ…ありがとう」へへへ…

ウオツカ「おい、早く行けよ！」

ダスカ「ちよつと！押さないで！」

サトダイ「い……意外と狭いですね…」

一鎮守府内」

ゴルシ「…入口はどこだ…」

ウォツカ「…！ 見張りだ」

秋月「…」

ゴルシ「…隠れるぞ」

ガサガサ…

秋月「…？ なんでしようか…」

ブルボン『対象者接近中…指示をお願いします』※『』は小声

ライス『ど…どうしよう…』

ゴルシ『…あいつから聞き出してみるぞ』

ウオツカ『どうやつてですか…』

秋月「誰かいるんですか？」

ダスカ「に…にやあ…」

ダスカ（ちよつと！こんなので上手くいく訳…）

秋月「…野良猫でしたか、びっくりしました…むぐつ?!」

ゴルシ「よし…捕まえた…」ズリズリ…

秋月「む…むぐう?!」

一茂みー

秋月「あ…あなたたちは誰なんですか…」^{ここ}は軍…」→繩で拘束
ガチャ…

ゴルシ「おい、今から言うことに答えてもらうぜ」↑吹雪型の艦装

秋月（ぎ…艦装…！）※鎮守府内では演習場を除いて艦装着用禁止

ゴルシ「なあ、マックイーン達はどこだ」

秋月「！ お…教える訳には行きません…」

ゴルシ「じやあ入口は？」

秋月「…侵入者に教える義務は…」

ブルボン「ダメですね、情報は聞き出せる状態ではありません」

ゴルシ「なら…少しすまんな！」ギュッ…! →締め落とし

秋月「ぐ…ぐぐあ…」バタツ…

ゴルシ「ここに放つていくぞ」

秋月 「」↑繩は外した

ゴルシ 「…しゃあねえ…次だ…」

「その後…」

佐渡 「し…知らねえぜ。教えて欲しけりやあたしを倒してから…うぐつ?!」バタツ…

親潮 「だ…誰ですか…あなた達に教える事は…?! く…黒潮…さ…」バタツ

数人の艦娘を締め上げたが中々離す艦娘が居ないまま時間が過ぎた。

伊58 「な…何するでち! 離すで…?! 口一ちゃん…逃げるで…」バタツ…

呂500 「で…でつち…」

ゴルシ 「安心しろ、気絶してるだけだ。それより入口の場所教えてくれ」

呂500 「コクコク!」

その後…口一ちゃんから情報を聞き出すと…

ゴルシ 「ありがとな…それじやあ…ごめんな」 ドツ! ↑手刀

呂500 「?!」バタツ…

ゴルシ 「…よし…情報も聞き出したし早く行く…」ウウウウウ!!!

ライス 「な…何?!」

『緊急事態発生! 緊急事態発生! 鎮守府内に侵入者が入った可能性あり! 各員警戒体制に入り見つけ次第捕縛せよ!』

ゴルシ 「…隠しておいた奴らが見つかったか…おい、早く入口に行くぞ!」

サトダイ 「は…はい!」

↑…②パターン終了、本編へ

③パターンー

ゴルシ 「…何とか潜入出来ないか?」

ダスカ 「でもどうやつて…」

トラック 「…」↑鎮守府へ物資輸送用

ゴルシ 「…閃いた…天啓がな…!」

—鎮守府正門—

五十鈴「…！」

トラック「…」

長良「輸送用 トラックだね」

名取「と…止まつてください」

運転手「ん、あ、これ許可証」

鬼怒「うん、行つていいよ」

プロロ口…

—倉庫—

運転手「…よし、これで終わりだな」

運転手「早く帰つて酒でも…」

ガタガタ…

運転手「?」

ドラム缶「」

運転手「…気にし過ぎか…」

バタン…

ゴルシ「…うへえ…疲れたぜ…」パカッ！

ダスカ「ゴルシさん、さすがですね。 トラックの荷台にある商品の中

に潜り込むとは

ウオツカ「でもこれからどうしますか？」

サトダイ「それなら…これとかはどうでしようか？」

ゴルシ「…お！ナイスアイデア！」

ライス「ば…バレてないかな？」→整備員の格好※倉庫からぱくつ

た

ブルボン「大丈夫です。耳と尻尾は隠せてます」

ウォツカ「うおお…緊張するぜ…」

ゴルシ「このまま入口に入るぜ」

?「あ！そこは入っちゃダメですよ！」

ゴルシ「?!」

明石「そつちは溶鉱炉です！艦娘と一緒に入らないと…ん？」

夕張「どうしました明石さん？」

明石「…こんな子いたかな？」

夕張「でも作業服着てますよ？」

明石「…うん…私はこここの組員任せられてるけど…こんな人達いた覚えないんだよね…」

明石「…」じー…

ダスカ「…」汗ダラダラ…

明石「…ちよつといい？帽子取つてみて」

ウオツカ「?! な…なんでだ?!」

明石「今朝通達が来てね…ウマ娘がこの街にいるらしいから侵入しきたら捕まえて欲しいって…」

夕張「…まさか…」

明石「ちよつとごめんね！」パツ！

サトダイ「?!」ピコン！↑ウマ耳

夕張「?! ウマ娘?!」

ゴルシ「まずい！逃げるぞ！」ダツ！

ダスカ「こうなつたら逃げるが勝ちよ！」ダツ！

明石「?! あの子達速つ？！待ちなさい！は…早く連絡しないと…」

夕張「ちよ…ちよつと…！待ちなさい!!ま…待つて…！」

ゴルシ「こうなつたらバラバラに逃げるぜ！」

ブルボン「集合場所は？」

ゴルシ「建物の正面口だ！」

—20分後—

ゴルシ「…おまえら…無事か…」

ダスカ「はい…途中でゴム弾みたいな物撃たれまくりましたが全部躲きました…」

ライス「だ…脱落者はいないようだね…」

サトダイ「でも警戒態勢になりましたね…」

ゴルシ「…おい、隙を見てあの中に入るぞ」

ウオツカ「でもどうやつて…」

ゴルシ「音を出して誘導するぞ…アルフォート、これ投げろ」

ブルボン「…分かりました」

ライス（ぶ…ブルボンさんのことだよね…）

ブン！

ドボーン！

黒潮「…！向こうからおとがしたで！」

陽炎「行くわよ！浜風、浦風はここを守つてなさい！」

浜風「は々 …はい！」

浦風「うちに任しどき！」

ゴルシ「今だ…！」ダツ！

浜風「?! し…侵入者がこつちに?!」

浦風「さっきのは囮やつたんか…痛いけどちいと眠つてな！」ガ

チヤ：

ゴルシ「うおお！」ガシツ！ドガツ！↑銃を掴んで顔面に当てた

浜風「きやあ？」

浦風「浜風…?!」

ダスカ「そのまま大人しく寝てなさい…！」グググ…↑締め落とし

浦風「は…はなしな…」バタツ…

陽炎「?! 浦風！浜風！」

不知火「妹に何した！」ダツ！

ゴルシ「やべえ！逃げるぞ！」

ブルボン「早く中に！」バタン！

サトダイ「ろ…ロープで固定します！」ぎゅつ！

ウオツカ「押さえる！」

『開けんかい！』『開けなさい！』『応援を呼んできます！』

ゴルシ「ここに長居は無用だ！早く散らばるぞ！」

ウマ娘「はい！」

一パターン③終了、本編へ戻るー

#31 一奸計一

摩耶「…ようこそウマ娘横須賀ツアーデ一行様」

天龍「ここからは俺たちが：つてやつてられるか！」

ゴルシ「ああ？ なんだてめえらは？」

摩耶「あたしは摩耶様だ。お前らには2つの選択肢を与えてやるよ」

サトダイ「…2つ？」

天龍「俺達と戦い、ウマ娘をさがすか、そのまま引き返すかだ」

ダスカ「そんなもの即答よ。あんた達を潰して前に進む、それだけよ」

天龍「そとかよ、なら…」チャキッ！

天龍「ここでくたばるんだな！」シユラツ！↑拔刀

摩耶「行くぜ！」ガチャ！↑艦装展開

ウォツカ「おい！ 武器持つてるなんて聞いてないぞ！」

ブルボン「…皆さん、ここは私に任せて行つてください」

ライス「ブルボンさん?!」

ブルボン「ここで時間を潰して全員捕まるよりはマシです」

ダスカ「分かつたわ！」スタタタ…！

天龍「ほう…」

ブルボン「…こういう事は得意ではありませんが、ここは突破させていただきます」

摩耶「…来いよ」クイクイ…

ブルボン「…ステータス『緊張』を確認」

ブルボン「…参ります」

※安価を取ります。

ウマ娘の勝敗は？」 303

1 圧勝

2 辛勝

3 逃亡

4 敗北：（捕虜）

天龍「行くぜ！」ブン！

ブルボン「ふつ…」

天龍「真つ二つになりな！」

ブルボン「危ないです」サツ！

天龍「からの…下から真つ二つにしてやるぜ！」

ブルボン「なつ?!」

天龍「オラッ！」

ブルボン「があ?!」↑脛直撃（峰打ち）

天龍「生かして連れてくるようにと言われたからよくながら…」

摩耶「後ろががら空きだぜ！」

ブルボン「！」サツ！

摩耶「オラッ！ドカッ！」↑穴

ブルボン（ステータス『危険』を感知、これ以上の負傷は命に関わると判断）

天龍「止めだ！」

ブルボン「くつ…！」↑灯籠

天龍「無駄だ！もう遅い！」

ブルボン「く…うう！」↑坂路で鍛えた為パワーがある（トレーナーは堂島の龍似）

ブルボン「はあ！」ブン！↑灯籠投げ

天龍「危なっ?!」ガキッ！

ブルボン「…！」ダツ！↑灯籠の影から走り込み

天龍「な…なにつ?!（灯籠を避けたとおもつたら…防ぎきれねえ…！」

ブルボン「はあ！」ドガッ！↑鳩尾

天龍「ぐああ⁈」

摩耶「！　てめえ！」

ブルボン「グ…！」ダツ！

摩耶「もう許さねえ！」

ブルボン（…これなら！）

ブルボン「…」スツ！↑ジャンプ

摩耶 「何?!」

ブルボン 「はあ！」 ドガツ！↑ゴルシキック

摩耶 「ぐわああああ?!」 バタツ！

ブルボン （…ステータス『左足の負傷』を確認、息切れのため、暫し休息が必要）

ブルボン （…痛み分けです） ドタツ↑座り込み

一東口一

ゴルシ 「…バラバラに潜入するようになつたが… 一人もいねえな…」 ※まだ八門金鎖の陣は作動していない

ダスカ 「どうしました？ 早く行きましょう」

ウオツカ 「俺が先に行きますよ」 ダツ！

後ろで見ていたダスカ、ウオツカは気づかない。しかし…ゴルシに電流走る。

ゴルシ（やべえ…ここ、罠の匂いがブンブンするぜ… 一人も居ないのはそういうことか…!）

ゴルシ 「おい！ お前ら…」

ダスカ 「はい？」 カチツ！

ウオツカ 「何か言いました？」 カチツ！

※安価を取ります。

罠作動、何が起こつた?» 310

（ダスカとウオツカに1人ずつ作動します、ちなみに館内にはダミーのウマ娘人形が部屋中にあります（中に爆弾（怪我をする程度））
一嫁艦の部屋）

スズカ 「…なんですか？」

ルドルフ 「ん？ 先程から騒がしいようだが…」

ティオ一 「ねえ、要件は？」

加賀 「…あちらのモニターをみなさい」
マックイーン 「！ ゴールドシップさん?!」

スペ 「スカーレットちゃんまで！」

加賀 「…一時的ではありますがあなた達を閉じ込めさせて頂くわ」
ガチャ：

キタブラ「ダイヤちゃんは無事…のようだね」

蒼龍「…どうやら正面が突破されたようだね」

加賀「…あそこは時間稼ぎよ。まだ八門金鎖が発動してないしどこまで出来るかね。明石、あれは？」

明石「はい、この館内に配置済みです」

加賀「…そう」

赤城「さて…どうなりますかね…」

一東口ー

スペ「…！」

ゴルシ「！ スペ?!」

ダスカ「スペ先輩！ 無事だつたんですね！」

ウオツカ「他の人は？」

スペ「…私だけ何とか…」

ウオツカ「そうか…とりあえず他の奴も探さないといけませんね」

ゴルシ（おいおい…）いつ本当にスペか？ 1人だけつて…かなり無理があるぞ…）

ゴルシ（それに…何かやべえ臭いが漂つてやがる。第六感つてやつか…）

スペ「…私…皆さんにあえて嬉しいです」

スペ？ 「皆さんを捕まえられましたからね」

ダスカ「えつ？ 何を言うんですか？」

ウオツカ「まるで俺達がターゲットみたいな…」

ゴルシ（…この鼻をつんざくような臭い…それにこの硫黄特有の臭いは…つて事はコイツは…！）

スペ？ 「さよなら」カチツ！

ゴルシ「こいつスペじゃないぞ！ 早く逃げ…」

ドドーーン!! バリーン！

一提督 s i d e ー

提督「…」カキカキ…

パキツ! ↑万年筆が壊れた

提督「…馬鹿な…最近買つたばかりだぞ」

提督（何か凶兆なのか…）

提督（まさかアイツらの身に何かあつたのか?!）

↑
T o b e c o n t i n u e d

#32 一劣勢一

カチツ！ドドーン!!バリーン！

ゴルシ「ぐわあ?!」↑小破！（受け身を取った）
ダスカ「うわああ?!」↑中破！
ウオツカ「があああ?!」↑中破！
スペ（ダミー）「↑粉々

ゴルシ「くつ…味な事をしやがる…穢土転生かよ…」

※穢土転生：NARUTOの忍術、卑劣様考案。本来は制度の低い敵の穢土転生→敵が仲間と感動の再会→爆発なのである意味本来の使い方。

ダスカ「ぐつ…なんて事するのよ…」↑怪我+勝負服破損

ウォツカ「怪我しちまつた…」↑同上

ゴルシ「自爆とは…スペじゃないだけまだマシか…」

ダスカ「…ぐつ…さつさと探すわよ」

一嫁艦の部屋ー

スペ「ゴルシさん?!」

マツクイーン「なんなんですか?!あの人形は！」

明石「あなた達にそつくりの容姿をしたAI搭載の自爆人形です。あなた達の形をした人形がそれぞれ10体ほどいます。中には少し特性を持つた人形もいますが」

ルドルフ「…悪趣味だな」

明石「まあ、疑心暗鬼になるのは間違いないですね」
一西口ー

ライス「こ…こはいないよね?」

ライス「…怖いけど…マツクイーンさん達を助けるためだもんね。ライス頑張れ！おー！」

?（ダミー）「…」

ライス「！」

※安価を取ります。

誰のダミー人形？》 314

(スズカ、スペ、ティオー、マツクイーン、ルドルフから選んでください)

※特性についてはなんでも大丈夫です。

マツクイーン（ダミー）「…」

ライス「! マツクイーンさん?」

マツクイーン「…ライスさん」

ライス「よ…良かつた…無事だつたんだね」

マツクイーン「…」

ライス「? どうしたの?」

マツクイーン「…ふふ…」

マツクイーン「捕まえました」

ライス「えつ…」

カチッ！ドドーン!!

ライス「ふえつ?! 何これ?!」 ↑とりもち

ライス「と…取れない…だ…誰か助けて～！」 ビヨーン…:

一西口一

サトダイ「…お邪魔します…」

サトダイ「…キタちゃんはどこにいるんだろう…」

サトダイ「…慎重に行かなきや…」

サトダイ「…誰もいないけど…気のせいかな?」 カチッ！
※安価を取ります。

罠作動、何が起こつた? >> 319

(なんでもいいです)

サトダイ「えつ…なに?」 スポツ!

サトダイ「えつ…きやああああああ?!」

サトダイ（お…落とし穴?!)

一地下一

サトダイ「うわあ?!」

サトダイ「いたた…ここは?」

叢雲「…あら、ゴールドシップじゃないのね」

サトダイ「?」

叢雲「悪いけど身柄を拘束させてもらうわよ」ガチャ!
サトダイ「?! は・はなし・ムグツ?!」

叢雲「…さて…4階に連れていかないと…」（4階が嫁艦の部屋）
サトダイ「む・む・！」

—サトノダイヤモンド確保—

—正面口—

ブルボン「…痛みの引きを確認、これより突入します」

—嫁艦の部屋—

加古「入つたな」

明石「では…八門金鎖の陣作動！」

明石「さて…どうなる事やら…」

—東口—

ゴルシ「…これで分かつた…この建物の中は罠だらけだ」

ダスカ「ええ…これからは慎重に…」

スズカ（ダミー）「…ねえ」

ウオツカ「…?!スズカさん?!」

スズカ「…こっちを見て?」ダツ!

ダスカ「ひい?!こっちに来てる?!」

ゴルシ「おい、逃げるぞ!」

スズカ「…逃がさない」ダツ!

↑…To be continued

#33 一忍者一

※スズカ型爆弾：シアーハートアタックのように執拗に追いかけ
てくる（相手が見えなくなると追跡をやめる）

ゴルシ「スズカの人形：異常に足が早いぞ！」

スズカ「…こつちを見てつて言つてるでしょ…」

ダスカ「ぜ…全速力で逃げるわよ！」

ゴルシ（1度ならいい…！だけどよ…）

ダスカ（だけどあんな爆発を何度も喰らつたら…）

ウオツカ（俺たちはきつと…）

3人（痛みのショックで死んでしまう！）

ゴルシ「…！あそこを曲がつて部屋に入るぞ！」

ウオツカ「おう！」ガラツ！バタン！

ダスカ（お願い…来ないで…）

スタスター…！スタスター…↑引き返した

一大広間ー

ウオツカ「た…」

ダスカ、ウオツカ「…助かつた…」ヘナヘナ…

ゴルシ「…おい、早くここを脱出するぞ」

ウオツカ「おう…つて开かねえ?!」ガチャガチャ！

ダスカ「んな馬鹿な?!ほんとだわ?!」

?「…誰か入ってきたようだね」ビュンビュン！

カツ！↑苦無

ゴルシ「?!」サツ！

ゴルシ（おい：誰もいないぞ…なんでだ？）

?「…姿を見せてあげる」スツ…↑光化学迷彩

川内「…ようこそ、鎮守府へ。そして捕まつてもらうよ」↑苦無

ゴルシ「…スペ達を返すまで帰らねえ」

川内「…そうか…なら…」スツ…↑消えた

ダスカ「?!」

川内『降参するか捕まえるまでここにいてもらうよ』

※安価を取ります。

ウマ娘の勝敗は?」 331

- 1 全員生還
- 2 1人、2人捕虜
- 3 全員捕虜
- 4 その他

(光化学迷彩：明石の製品、一時的に姿を消すが音は消せない、持続が2分、エネルギーを使うなど欠点も多い)

※イメージはジヨジヨ5部、リゾットの砂鉄迷彩の劣化版

ゴルシ「…お前ら、円陣だ」

ダスカ「ええ…」

ウォツカ「…やるしかないよな…」

川内「…円陣、守りを置いた戦い方。だけど…」スツ：

川内「守つてばかりじゃ勝てないよ！」ブン！

ウォツカ「左！」サツ！カツ！

ダスカ「ひつ?!」サツ！

ゴルシ「…奴はどこだ？」

川内「後ろ」↑苦無

ゴルシ「あぶね！」

川内『どうやらダミ一人形で体力を消耗してるみたいだね』

ウォツカ「てめえらか、あの人物を作ったのは」

川内『私はつくつてないんだけどね…あ…』

ゴルシ「…?」

川内「…ま、大人しく捕まつてよね」↑姿を現した

ゴルシ「…お前、姿を消せるらしいが時間は持たないようだな。
持つて2分か？」

川内「…当たり。だけど私の姿が表したからつて言つて勝てるかは
…」

ゴルシ「やつて見なきやわかんねえだろうがよ！」ブン！

川内「惜しい」パシツ

ゴルシ「何?!」

川内「じゃあね」ゲシツ！

ゴルシ「がつ？」

ダスカ、ウォツカ「ゴルシさん！」

川内「…」スツ：

ダスカ「?! また姿が…」

ゴルシ「いや…既に手は打つた…」カチャ…↑苦無拾い
ウォツカ「に…逃げましょよ！」

ゴルシ「…仮に…あいつを探せるとしたら？」

ダスカ「えつ？」

ゴルシ「…」ビューン…! ↑苦無を回した

ゴルシ「…そこだ！」ブン！

川内「?! うわあ?!」↑苦無が壁に刺さった（川内の服も共に）

ウォツカ「なんで分かっただんですか？」

ゴルシ「…磁石だ。服に強力な磁石を取り付けておいたのさ。ゴル

シちゃん七つ道具のひとつだ！」

ダスカ「鉄は磁力に引き寄せられる…流石です！」

川内「ぐつ…これ…取れない…」グイグイ…

ゴルシ「さて…形勢逆転だな。マツクイーン達はどこにいる？」↑

川内を固定

川内「…教えない」

ゴルシ「そうかよ…なら…」スツ：

川内「えつ？」

ダスカ「くすぐりの刑よ！」※やり過ぎると呼吸困難になる拷問で
す。

川内「えつ?! ちよつ…まつ?!」

びやははははははははは？!

—10分後—

川内「…」ぐでえ…

ゴルシ「ダメだ、こいつ話さねえ」

ウォツカ「こいつから鍵奪つて外に出ましょ

ダスカ「そうね…時間取つたわね…」

廊下

ゴルシ「ふう…早く探し…」

スズカ（爆弾）「…」

ダスカ「またスズカさんの人形?!」ダツ!

ウオツカ「早く逃げるぞ!!」ダツ!

スズカ「…逃さない…」

↑
To be continued

#34 一対峙一

→2階、西口→

ライス「な…何とかお餅がとれた…」

ライス「…早くマツクイーンさん達を…」カチツ！

ライス「ま…またなにか踏んだ…なにが…?!」スポツ！

ライス「ひやあああ?!」

→1階→

ライス「ひあつ?!」

ライス「痛た…ここは?」

? 「あら、侵入者ですか?」

ライス「?!」

神風「可愛らしい子ですが…生憎捕まえて欲しいと言われてるの
で」↑薙刀

ライス（な…薙刀持つてる?!）

神風「さあ、捕まつて貰いましょう」

春風「ええ」

朝風「神風型の本領発揮発揮よ」

ライス「ひつ…ひい…」

※安価を取ります。

勝敗は?» 349

（神風型は全員薙刀持ち）

1 勝てた

2 逃げれた

3 捕縛：

ライス（こ…怖い…でも…）

ライス（ライスだつて…ライスだつて…）

ライス「マツクイーンさん達を助け出すんだ！やあー!!」

神風「降参しないのね。なら…」

ライス「やああ…がつ?!」

神風「制圧させていただくわ」↑柄で腹突き

ライス「あ……ああ……」カチャヤ：

春風「動かない方がいいですよ？」

朝風「……早く捕まえるわよ」カチャカチャ：

ライス（うつ……ライスやつぱりダメな子なんだ……）めんね……マック

イーンさん……バタツ：

神風「……さあ、2人目確保ね」

－ライスシャワー、確保－

－正面口－

ブルボン「……何もありませんね……」

ブルボン（この近くにウマ娘の反応無し、2階に……）カチツ！

ブルボン（……？）

ゴゴゴ……！↑大量の水

ブルボン「?!」

ブルボン（ステータス、『理解不能理解不能……』なぜ大量の水がこの
室内に……）

ザバーン！

ブルボン「くっ?!」↑専用の排水溝

ブルボン（ステータス：『無念』ライスさん……ごめんなさい……）ゴ

ゴゴ：

－ブルボン、リタイア！－

－2階－

ゴルシ「……よし、探すぞ」

ダスカ「早くみんなと合流しなきや」※他の子が全滅したのを知ら
ない

ウオツカ「……あっち探ししましょう」スタスター：

ゴゴゴ……↑階段閉鎖

その後、ゴルシ達は……

－2階－

ゴルシ「なんなんだよあれは！」

烈風「……ダダダ！」

ダスカ「何か撃つてきてるし！」

ウォツカ「とにかく逃げるぞ！」

一数分後――

ゴルシ「…巻いたか？」

ダスカ「そうみたい…」

ウォツカ「くそつ…早く探すぞ…」

ゴゴゴ…

ゴルシ「…？」スツ…

棘付き壁「ズリズリ…

ゴルシ「?!逃げるぞ！」

ダスカ「何が…?!きやああああ…?!」

ウォツカ「うわああ…?!」ダツ！

ウォツカ「なんだよここ…?!」

ダスカ「ひいい…!物凄い勢いで迫ってきてる…！」

ゴルシ「！ そこを曲がれば階段だ！」

ダスカ「うわあ…?!」

ウォツカ「うおつ…?!」

ゴルシ「うおりやああ…!!」ダツ！

ドーン！

ダスカ「…もし追いつかれていたら…」

ウォツカ「まな板になつてたな」

ダスカ「なんですつて…?!」

ゴルシ「…おい…三階に行くぞ…」

――3階――

ゴルシ「はあ…はあ…巻いたか？」

ダスカ「そう…みたい…」

ウォツカ「なんなんだよ…室内に飛行機飛んでるなんて聞いてねえ

…」ゼエゼエ…

ゴルシ「…マックイーンの匂いがする」

ウォツカ「本当ですか？」

ゴルシ「…この部屋からだ」

ダスカ「罠…ですかね？」

ゴルシ「ああ…かもな」

ゴルシ「探つてみる」ピタツ：

ウォツカ「何してゐんですか？」

ゴルシ「温度差で室内の様子を読取る…」

ウォツカ「そんなこと出来るんですか？」

ゴルシ「出来るぜ」ピタツ：

ゴルシ「…温度差で室内の様子を読取る…暖炉に火が点つてゐる」

※点つてません

ゴルシ「照明器具が壁に4つ…」※ありません

ゴルシ「天井に2つ…」※ありません

ゴルシ「机の上に2つ…いや3つ」※言い直してもありません

ゴルシ「部屋のそばに人間が4人立つてゐる」※たつてません

ゴルシ「身長は右から178、174、181、188…暖炉のそ

ばに1人…183cm…」※どれもウマ娘の身長と合いません。

ゴルシ「全部で5名全員女！」バン！

スペ（爆弾）「…」

スズカ（爆弾）「…」

ルドルフ（爆弾）「…」

ティオ一（爆弾）「…」

マツクイーン（爆弾）「…」

3人「

ゴルシ「に…逃げるんだよ!!」ダツ！

ダスカ「なんなんですかあれー!!」

スズカ「逃がさない…」

ティオ一「はちみくはちみくはちみく」

ルドルフ「逃がさないぞ…」

スペ「待つてください！」

マツクイーン「パクパクですわ！」

ウォツカ「ひいい!!」ダダダ!!

ー?ー

ゴルシ「こここの部屋に逃げ込むぞ！」

ウォツカ「ああ！」

ダスカ「もうイヤ〜!!」

バタン！

ゴルシ「…一体なんなんだあいつらは…」

ダスカ「しばらくここでやりすゞ）…」

『侵入者発見、防犯システム作動』

ウォツカ「?!なんだ?!」

ベチャツ！

ダスカ「なんの音…？」

力エル ゲコツ

ダスカ「い：いやああああああああああああ⁈」

クガエル、アマガエル）が降つてくる

ゴルシ「こいつら毒持つてやがる！何かで体をまもれ!!」

※ヒキガエルやアマガエルは皮膚から毒を分泌しており、手で触る
分にはそこまで毒性は無いがその手で目などを触ると炎症、最悪失明
を起こす。ヤドクガエルは種にもよるが強力な毒を持つ種は1匹で
10人の人間を殺す毒を持つとされる。但し防犯システム用の
ものは飼育してたため無毒（飼育用は正しく育てれば無毒になるが素
手で触るのはNG）である。おそらくジョジョ6部ストーンオーシャ
ンのウェザーリポートが降らせたヤドクガエルの雨は強力な毒を
持つたヤドクガエルである（人間を殺せるヤドクガエルは3種類しか
いない）。あくまで防犯システムは驚かし、場所を特定するものな
ので殺すことは目的にしていない。

ダスカ「なんなのよここ！いやあああああ⁈」

ウォツカ「どんだけ飼ってるんだよ！力エル!!」

ゴルシ「ここもダメだ!!廊下に出るぞ!!
ガチャ！」

ティオ一（爆弾）「みーつけた」

ダスカ「ひいい⁈」

ウォツカ「また追いかけっこかよ!!」

ゴルシ「お前ら！足が棒になるまで逃げるんだよー！」

—10分後…—

ゴルシ「ティオーの人形がしつこいぜ?!」

ダスカ「もう嫌〜！」

ティオー(ダミー)「ハチミーハチミー♪」→蜂蜜をぶつ掛けてくる

ウオツカ「うおお?!」

カチツ！ドーン！ぎやあああああ？!

ゴール目前に着いた時には…

一三階、階段ー

ゴルシ「…疲れたぜ…」↑中破

ダスカ「なんのこ…」↑大破、蜂蜜まみれ

ウオツカ「うへえ…ベトベト…」↑同上

疲労困憊、満身創痍になっていた。

ゴルシ「でもよ…もうすぐだとと思うぜ。あたしのレーダーが強くなってる」

ウオツカ「…！あそこに誰かいるぜ！」

赤城「…ゴゴゴ…↑階段のてっぺんにいる

ゴルシ「野郎：DIO！」

赤城「私は吸血鬼じゃないですよ」

↑…To be continued

#355 一撤退ー

パチパチ：

赤城「…よく来ましたね。ウマ娘の皆さん」

ゴルシ「ん？お前、祭りの時に焼きそば買った奴だろ」

赤城「覚えてくれてたんですね」

ゴルシ「おい！スペたちはどこだ?!」

赤城「この階段を上がつて突き当たりです。ですが…」

加賀「あなた達はそこには行けないわよ」

ウオツカ「何だと?!」

赤城「…なら、まずはその階段を上がつてください。ここまで来れたのならスペシャルウイークさん達を返しましょう」

ゴルシ「上等だ！やつてやるぜ！」

ダスカ「いい気にならないでよね！」

ウオツカ「このくらいの階段位！」

ダダダ…！

赤城「…」

ゴルシ「よし…もうすこ…」ガタン！↑階段が坂に

ゴルシ「うお?!うわああああ?!」ツルツル！

ダスカ「きやあああ?!」ズササササ？!

ウオツカ「うわああああ?!」ドガドガ！

ドシーン！

赤城「どうしましたか？あ、あなた達にいいお知らせと悪いお知らせがありますがどちらから聞きたいですか？」

※安価を取ります。

どちらから聞く？》 357

1 いい方

ウオツカ「クソツ…舐めあがつて」

ダスカ「いいから…」

ゴルシ「…待て、悪い方から聞く」

ダスカ「ゴルシさん?」

赤城「なるほど…ではどうぞ」

サトダイ「ゴールドシツプさん…」↑繩で縛られ

ライス「捕まっちゃいました…」↑繩で縛られ

赤城「あなた達以外は全滅させて頂きました」

ダスカ「ダイヤちゃん!」

ウオツカ「ブルボンさんはどうした!」

赤城「…今頃水に流れて居ると思いますよ」

ゴルシ「…まじかよ」

赤城「そして2つ目…あなた達の逃げ道は塞ぎました」

ダスカ「なんですって?!」

赤城「もう、ここからは逃げられませんよ」

ウオツカ「じやあいい事は?」

加賀「ここを登れば私達は手出しをしないわ」

ゴルシ（やべえ…最悪の状況だ…逃げ道を塞がれ、ライス達が捕

まつたとなるとかなり不味い。四面楚歌だぞ…）

ゴルシ（こうなると選択肢は4つだ）

1 スーパー天才ゴルシちゃんが圧倒的閃きで窮地を脱する

2 ハリウッド映画のように誰かが助けに来てくれる（ちなみに提督はこの時まだ、府中市内）

3 全滅覚悟で突貫

4 解決策なんてない。現実は非情である。

ゴルシ（出来れば2だが…トレーナーが来るのは思えねえ、ほかの奴も来れないのなら2はダメ…3も厳しい。となると…1か4か?）
(この間2秒)

ゴルシ（やべえ、こうなると…逃げる？逃げても死ぬ可能性高いぞ
ここ…となると…4か?）

ゴルシ（やべえ…4は不幸なんだぜ…いや、なにかまだあるはずだ）
※安価を取ります。

どうする?」> 361

(上の選択肢1～4でお願いします (何をするかもお願いします)

ゴルシ（そういうや…あいつ（川内）からなにか奪つたような…）↑
バツクに手を入れ

バシュツ！↑床に矢が刺さり

赤城「なにかしようとしてませんが…させませんよ」

ゴルシ（ちくしょう…あ、これなら…）↑ギュツ：

ダスカ「どうするんですか！」

赤城「あなた達のトレーナーを返してくれるなら皆さんを返しますよ。あなた達も無事に返します」

ゴルシ「…返してくれるのか？皆を…トレーナーを返せば…」

赤城「はい」

ゴルシ「だが断るぜ。このゴルシ様が1番好きなことはな…」チ
ラツ

ウオツカ「…！」

ダスカ「…！」

ゴルシ「自分が強いと思つてる奴にNOと言つてやる事なんだぜ

！」ブン！

ボムツ！↑煙玉

赤城「?!」

ゴルシ「これがあたし達の逃走経路だ！」ダツ！

ウオツカ「やつたぜ！」

ダスカ「でもどうするんですか！」

ゴルシ「そこの部屋に逃げ込むぞ！」バタン！

一廊下

飛龍「この部屋に入つたよ！」

霞「出てきなさい！」ドンドン！

睦月「侵入者はここなのね！」ドンドン！

夕張「早く開けるわよ！」

一部屋内

ウオツカ「くつ！早く脱出しないとやべえ！」↑ドア抑え

ゴルシ「ならゴルシちゃん7つ道具の1つ、錨の登場だぜ」ガチャヤ

…↑窓にかけ

ゴルシ「早く降りろ」

ダスカ「助かつたわ…」スルスル：

ウォツカ「助かる…」スルスル：

ドーン！

飛龍「?! 2人がいない?!」

蒼龍「窓のあれ…」

ゴルシ「よお、じゃあな！」スツ！↑飛び降りた

霞「?! こには三階よ?!」サツ！

ガラーン：

飛龍「…あそこだ」

ゴルシ「やべつ！」スツ↑2階に避難

ゴルシ「危ねえ…」スタツ！↑地上に降りた

ゴルシ「あばよ！」ダツ：

霞「待ちなさい！」ガチャ：

飛龍「…待つて…このまま逃がそう。どうせ逃げ場がないしね」

霞「…分かつたわよ」

蒼龍「いいの？」

飛龍「逃げられると思う？」

蒼龍「うーん…」

飛龍（しかしあの追い詰められた状況から機転をきかせて逃げると
は…）

飛龍（…興味を持ってきたね…あのゴールドシップって子）

↑ To be continued

#36 一逃走一

一屋外一

ゴルシ（だけどよ……）のままだとやべえな……落ち着け……素数を数えて落ち着くんだ

ゴルシ（2……3……5……7……11……13……17……19……21……違った

⋮23⋮ん?）

ウオツカ「どうしました?」

ゴルシ「あれで脱出しねえか?」

車「」

ダスカ「運転出来ますか?」

ゴルシ「マリカやつてれば余裕余裕」バキッ！ガチャヤ⋮

ウオツカ（鍵壊したぞ⋮）

※この時点でのウマ娘の罪状⋮住居侵入、器物破損、窃盗など⋮

※この時点での艦娘の罪状⋮逮捕、監禁、誘拐、傷害、暴行など⋮

一正門一

妙高「侵入者はここから出る可能性が高いです。裏門、その他の警備も怠らずにお願いします」

艦娘「はい！」

神通「…さて…袋のネズミですが…」ビービー⋮!

那智『おい、奴ら車を盗んだぞ！』

妙高「…分かりました。なら出口はひとつ、ここです。皆さん。何としてでも守りますよ！」

一正門近く一

ゴルシ「やべえ…めっちゃ守り固めてるぞ」↑運転手

ダスカ「な…なんか武装してますけど…」

ウオツカ「どうするんですか！」

ゴルシ「…突つ込むぞ」

ダスカ「正気ですか?!」

ウオツカ「まだ殺人者にはなりたくないですよ?!」

ゴルシ「構うもんか、あいつらは泥人形、木偶の坊、カーネルサン

ダースだ

ダスカ「えつ?!」

ゴルシ「やるしかねえ！お前ら腹くくれ！」グツ！

一正門一

夕雲「…にか来てませんか？」

陽炎「んな馬鹿な…えつ?!」

ブロロ…!!

ゴルシ『どけ！どかねえと怪我するぞ！』ビビビビビー！
ダスカ『ひいい?!』

ウオツカ『お…おい！マジでどけって！』

鳥海「あ…あんなの計算外です！」

長門「こうなつたら止めるぞ！」↑艦装用意

陸奥「仕方ないわね…」↑同上

アイオワ「ヤマト、A r e y o u r e a d y?」↑同上

大和「勿論です」↑同上

瑞鶴「ちつ！」↑同上

翔鶴「え…や…やるの？」↑同上

大鳳「ここは通さないわ」↑同上

※安価を取ります。

この後…> 368

1 車を止めた

2 何とか脱出

3 その他

ゴルシ（ちつ…！こうなつたら突っ切るしかねえ！）ブロロ…

長門「来るぞ！いつでも制圧出来るようにしておけ！」

ゴルシ「うおお！どけー!!」

その時、奇跡か…それとも偶然か…。突如、鎮守府内の水道管が老朽化の為破裂、漏れ出了た水がゴルシ達の車の下の地面の一部を押し上げ、登り坂にした！

長門「何?!」

ゴルシ「このまま突っ切るぜ！」ブーン！

ダスカ「ひいい！」→ウォツカに抱きつき

ウォツカ「うわあああ?!」→ダスカに抱きつき

神通「?!このままだと…」

ガタン！→道路に着地

ゴルシ「おっしゃー！天がゴルシ様たちを見捨てなかつたぜ！」ブ

ロロ…！

足柄「あの子達、車盗んで逃げたわよ！」

神通「あの車にはGPSが着いてます。追いかけますよ」

一車内ー

ウォツカ「や…やつたぜ！」

ダスカ「何とか逃げ出せたわね：何抱きついでんのよ！」パツ！

ウォツカ「お前だつて！」パツ！

ゴルシ「…」

ウォツカ「ゴルシさん、このまま帰るんですか？」

ゴルシ「んな訛ないだろ…。おそらくこの車、尾けられてるぞ。それ

に帰るとしてサツに見つかったら私ら無免許運転で捕まるぞ」

ゴルシ「だからこれはどこかで捨てる。だけどよ…そんな事許して

くれるかね…」

ダスカ「…えつ？」チラツ！

艦載機「…」→空を覆い尽くすような量

ゴルシ「まずはあれを吹つ切るしかねえな！」ブロロ…

ウォツカ「また追いかけっこですか?!」

↑…To be continued

#37 一包団一

—ゴルシ side—

ウオツカ「…あいつら追つてきてるな?」

ダスカ「ええ…空を覆い尽くす飛行機でね…」

ゴルシ「おいおい…下手に騒ぐなよ。私ら盗難車で無免許運転してんだから。サツに目一付けられたらお終いだ」

ダスカ「分かつてますよ」

ゴルシ「そういやよ…ひとつ思つたんだが…」

ダスカ「なにがです?」

ゴルシ「フェブラリースが2月に行われるってことは分かる。すげえよく分かる。Februaryは英語で2月だからよ…」

ゴルシ「だが!なんで皐月賞は4月にあるってどういうことだ…」

「…?皐月は5月だろうがよ…!4月は卯月だろうが…!」

ドガッ!

ゴルシ「舐めあがつて!!今からでも卯月賞に変更しあがれこのチクショー!!」

ウオツカ「今思い出したんですか?!運転に集中して下さい!!」

ゴルシ「どういう事だよ!どういう事だよッ!クソツ!4月なのに

皐月賞つてどういう事だッ!ナメやがつて クソツ!クソツ!!」ドガッ!ドガッ!ドゴッ!↑車破損

ダスカ「ゴルシ先輩!車が壊れちゃつてます!!」

ゴルシ「クソツクソツクソツ!!!クソツ…」

ダスカ「ど…どうしました?」

ゴルシ「ふ…スツキリしたぜ」

ウオツカ「えつ…」

ゴルシ「あたしょく激昂しやすい性格だからよ…こうやつてるんだぜ」

ウオツカ「は…はあ…」

ゴルシ「…あ…」

ウオツカ「どうしました?」

ゴルシ「…こいつ…ガス欠だ」→メーターがEギリギリ
ダスカ「どうするんですか！」

ゴルシ「仕方ねえ！この車乗り捨てて徒步で駅に向かうぞ！」

—鎮守府、ウマ娘sideー

赤城「ここです」ガチャ：

マツクイーン「…！ ライスさん、ダイヤさん…」

ライス「…ごめんなさい…助けられなくて…」うええ…

サトダイ「マツクイーンさん…」

マツクイーン「…あなた達が無事で良かつたですわ…」

キタブラ「…ダイヤちゃん…」

サトダイ「キタちゃん…無事だつたんだね」

ライス「…なんでマツクイーンさん達はこの人達に…」

マツクイーン「…実は…」

—省略—

ライス「…そうだつたんだね…」

赤城「…申し訳ありませんが、あなた達をここから出す訳にはいかないのです。あなた達は人質としてここに住んでもらいます。衣食住は保証します。暫く帰れませんが…」

ライス「…」

サトダイ「…」

ティオー「…ゴルシ達は？」

飛龍「どうやら車を盗んで逃げたみたい」

赤城「瑞鳳さん、テレビの電源を入れてください」

瑞鳳「はい」カチッ

ルドルフ「…何だこれは？」

加賀「彩雲のカメラ映像よ」

祥鳳「どうやら駅に向かつてるらしいですね」

吹雪「…でも駅から少し離れてませんか？」

赤城「…どこかで車を乗り捨てる気ですね」ビー！ビー！

神通『赤城さん、見つけました。どうやら林に入ったようですね』

加賀「どうやら森に車を捨てるようね」

赤城「…車の位置を特定次第、捕捉してください」

神通『分かりました』

赤城「…さて…それでは私達は食事をしましようか」

ライス「えつ…」

スペ（ゴルシさん…）

—鎮守府北東、森—

ゴルシ「よし、ここならあれは追つてこないな」バタン！

ダスカ「まさかガス欠とはね…」

ウォツカ「…駅はどつちだ？」

ゴルシ「向こうだ。行くぜ」

—5分後—

神通「…見つけました。足跡からここから北に向かつたようですね」

長門「どうする？」

神通「森を囲いましょう。その際、東側は開けておくように」

長門「承知した。配置につけ」

—ゴルシ side —

ゴルシ「…なんだか騒がしいぞ？」

『足跡からこっちに来たみたい』『探せ』

ダスカ「尾けられたみたい」

ゴルシ「…待て…前方からも音がする」

ガサ： ガサガサ：

ウォツカ「…西からもしますよ」

ゴルシ「…囮まれたか？」ガサガサ：

ゴルシ「…あの穴に隠れるぞ」↑洞穴

—5分後—

神通「…この辺まで足跡がついてますが…」

ゴルシ（やべえ…気づかれる）

ダスカ（早くどこかに行つて…！）

ウォツカ（気づくな…！）

神通「…なにか目線を感じるような…」

ゴルシ（?!）

—提督 S i d e —

提督「…」

艦娘「…」

艦娘2「…」

提督「…」ピタッ：

提督「…なぜ俺に着いてくる」

艦娘「…気づいてたんですね」

艦娘2「赤城さんを裏切つておいてよく平氣で街を歩けるな！」

提督「それには訳がある。話をしよう」

艦娘2「問答無用だぜ！覚悟しやがれ！」ダダダ…！

提督「…ちつ…」↑構え

↑……To be continued

—番外編、ウマ娘逮捕編（bat end 編）—

ウオツカ「ゴルシさん、このまま帰るんですか？」

ゴルシ「んな訳ないだろ…。おそらくこの車、尾けられてるぞ。それに帰るとしてサツに見つかつたら私ら無免許運転で捕まるぞ」
ウウウ～!!

ゴルシ「んあ？」

パトカー「そこの車！止まりなさい!!」

ゴルシ「やべえ！サツだ！」

—その夜—

提督「…さて…今日のニュースは…」ピッ！

『速報です。無免許運転でウマ娘3人を逮捕です』

提督「へ？」

『警察によりますと、トレセン学園に所属する学生3人が無免許運転で現行犯逮捕されました。3人は容疑を否認しており、『出せ！これから出さないとゴルシちゃんキックを食らわせるぞ！』と捜査員を脅しており…』ピッ…

提督「…まじかよ…」

その後、警察に引取りに行つたが、ゴルシ達はトレセン学園を退学させられた：（B A D E N D）

#38 一追撃ー

神通「…不知火さん、あそこの調査をお願いします」↑洞穴指さし

不知火「分かりました」スタスタ：

ダスカ（ち…近づいてきますよ…）

ゴルシ（こうなつたら強行手段だ。あいつに見つかったら一目散に

全員逃げるぞ）

ウオツカ（その後は…）

ゴルシ（全速力で駆にいけ。誰か来なくとも電車に乗れ。誰かが生き残れるようにだ）

2人（了解です）

不知火「…？」チラツ

ゴルシ「…」

不知火「！ 発見しまし…うわっ！」ドン！→ゴルシに押された

ゴルシ「行け！ 散開しろ！」

神通「！ 逃しませんよ」

→ゴルシ side-1

ゴルシ「ちくしょ…完全に裏目に出た！」

瑞鶴「止まりなさい！」

ゴルシ「止まれと言つて止まる奴がいるか！」

瑞鶴「あつたまきた！ これでも喰らいなさい！」グググ…バシュツ

！

ゴルシ「うおっ?! あぶね！」パシツ！

瑞鶴「?! 矢を取つた?!」

ゴルシ「あばよ！」ポイツ！

瑞鶴「くつ！ あいつをなんとしてでも捕まえるわよ！」

→ダスカ side-1

ダスカ「くつ…なんのよあいつら…」

ダスカ（あいつら…しつこい）

長門「見つけたぞ！」

ダスカ「?! どうしてバレたの?!」

長門「そのツインテールがバレバレだ！」

ダスカ「！」

長門「鎮守府に不法侵入した事を後悔しろ！」

ダスカ「捕まつて…たまるもんですか！」

—ウオツカ s i d e —

ウオツカ「くそつ…足元が凸凹してて走りにくい…！」

ウオツカ「…ゴルシ先輩達は無事か…」

ウオツカ「…なんで俺達が逃げ回る羽目になるんだ。このまま逃げ回つて『お願ひ神様助けてください！』ってなんで逃げなきや行けねえんだ！」

ウオツカ（必ずどこかに隙がある。そこを突くんだ。例えるならそういう…ボクシングで相手のパンチをかわした隙を狙つて一撃叩き込むようだ！）

ウオツカ（探せ…探さないと俺らが全滅だ！どこだ…どこだ…！）
ウオツカ「…！東側だけ包囲が浅い…あそこから逃げるチャンスだ」

ダスカ「はあ…はあ…あんだ…」

ウオツカ「うお?!お前ツインテール解いたのかよ！」

ダスカ「…目立つてしようがないから解いたわよ…」

ウオツカ「…おい、東側が開いてるのが見えるか？あそこから突破するぞ」

ダスカ「…それがもし罠だつたら？」

ウオツカ「そん時は考える！今は突破するぞ！」
—森、東側—

夕雲「…来ないわね…」

秋雲「…ん？なにか突っ込んでくるよ？」

親潮「あ…あれは…」

ダスカ「うおお！そこどきなさい！」ドドド！

ウオツカ「どけ！轢かれても知らねえぞ！」ドドド！

霞「ちつ！止まりなさい！」

ダスカ「どきなさい！」

ドガーン！

霞「うわあ?!」

夕雲「きやあ?!」

親潮「?! 突破されました！」

ウオツカ「やつたぜ！」

ダスカ「このまま駅に行くわよ！」

一艦娘 sideー

五十鈴「2人に逃げられた?! 何やつてるの?!」

長門「失敗したか…だが、まだ1人残ってるはずだ」

大井「…あの白毛のウマ娘をとつ捕まえるわよ」

北上「おおゝ、大井つちやる気だね！」

ゴルシ sideー

ゴルシ「…包囲が狭まってきたな…そろそろ覚悟決めるか…」ピロ
ン：

ゴルシ「…あいつらは無事に逃げ切ったようだし、あたしも最後の抵抗と行こうか」

ゴルシ「…疲労が溜まつてきやがつた…」ふつ：

瑞鶴「！ 見つけたわよ！ 今度こそ覚悟しなさい！」

ゴルシ「やべ！」

瑞鶴「今度こそ逃がさないんだから！」ダツ！

ー20分後、駅ー

ダスカ「はあ…はあ…」ゼエゼエ…

ウオツカ「…ゴルシさんは?」ゼエゼエ…

ダスカ「…見てないわ」ゼエゼエ…

ウオツカ「…戻りに…」ガシツ！

ダスカ「…行くわよ。ゴルシさんに言われたでしょ。来なくとも電車に乗れと」

ウオツカ「…クソつ…クソオオ!!」

ーその頃ー

電「み…見つけたのです」

叢雲「さあ、観念なさい」

不知火「不覚を取りましたが、今度こそお終いです」

ズラア…↑艦娘だらけ

ゴルシ「…そろそろ年貢の納め時か…」↑木に寄りかかってる

ゴルシ（あいつらは無事か？）

神通「…」同行願います

ゴルシ「…ちくしょう…」

長門「おい、縄だ」ギュツ・ギュツ！

ゴルシ「おい、きつく締めるなよ。息が出来ねえ」

長門「お前を縛るにはこの位がいいらしい、ほら歩け」

ゴルシ（すまねえ…）スタスター：

こうしてウマ娘の奪還作戦はゴルシを始め、ライス、キタサンブラック、サトノダイヤモンドが捕縛、ブルボンがリタイアという失敗に終わった。

—提督 s i d e —

提督「…」

艦娘「

艦娘2「

提督「…疲れた…さて…こいつらを連れ帰るとしようか…」

提督「…話聞かせてもらうぞ」

↑… To be continued

第3章　一反撃一

#39　一狼煙一

一鎮守府、嫁艦の部屋ー

赤城「…ようやく会えましたね」

ゴルシ「あんたには会いたかなかつたがな。縄解けゴラツ！ゴルシ

ちゃん保護法で訴えるぞ！」

加賀「…そんな法律は無いわよ」

マツクイーン「…ゴールドシップさん…」

ゴルシ「よお、マツクちゃん」

マツクイーン「…その方は厳重に縛つて置くべきですわ」

ゴルシ「マツクイーン?!」

赤城「さて…あなたをこれからどうしましようか…」

※安価を取ります。

どうする?> 381

(なんでも構いません)

赤城「そろそろ提督を返してください」

ゴルシ「ああん、あたし知らねえぞ。あいつどこか行くし、トレー
ナーの心なんか読めねえつーの。読心術なんか持つてねえよ」

赤城「…本当ですか？」

ゴルシ「知らんもんだから返せるわけないだろ。そろそろ縄解け

！」

赤城「…仕方ありませんね」しゆるしゆる…

ゴルシ「…ああ…私はハムか！こんなか弱い乙女にぐるぐる巻きに
仕上がって…」

赤城「…あなたは結構暴れん坊と聞いたので少し強く縛らせていた
だきました」

ゴルシ「だとしてもきつく締めすぎだ！」

蒼龍「じゃあでは案内するね」

ゴルシ「だから聞けって！」

一府中市

ダスカ「…はあ…はあ…」

ウオツカ「…」

ダスカ「…！」

提督「よお」

ダスカ「あんた…」

提督「お前達、俺は手を出すなと言つたぞ」

ダスカ「ぐつ…」

ウオツカ「だからつてよ…！見捨てるなんて出来るかよ！」

提督「お前達のせいで担当トレーナーが探し回つてるぞ」

ダスカ「うつ…」

提督「…そう言えば、お前達が横須賀に行つてる間、少しゴタゴタ

があつてな。そこを開けてみろ」→ロツカー

ウオツカ「…なんだよいいことつて…」

ギイイ：バタン！

?「む＼！む＼！」ジタバタ…↑拘束

ダスカ「えつ?!」

提督「さつき捕まえた」

※安価を取ります。

誰?》 389

(嫁艦娘以外でお願いします)

萩風「む＼！」

嵐「ぶ＼！」

ダスカ「…誰この子達？」

提督「俺の部下。つけられていたのを返り討ちにした」

ウオツカ「…はあ…」

提督「…苦しそうだし口は外すか」ペリペリ…

萩風「ぱつ…！司令?!」

嵐「おい！これ外せつて！赤城さんを裏切った裏切者！」

ダスカ「はあ?!あんた達がスペ先輩達を攫つたからでしょ！」

ウオツカ「そうだよ！スペ先輩達を返せ！」

萩風「あ…嵐落ち着いて…。あの…司令…」これはどう言う…」

提督「…まあ、お前達もその格好じやどうしようもないしな。外してやろう」

—2分後—

萩風「…」

嵐「おい、裏切り者。なんで赤城さん達を見捨ててこつちに来たんだよ」

提督「…おれはあいつらを見捨ててはないと。それにお前らは勘違いしてるらしい」

萩風「…勘違い…？」

提督「じゃあ教えてやろう。俺がここにいる理由を」

—30分後—

萩風「そ…そんな…」

嵐「嘘だろ…」

ダスカ「…そんな理由が…」

ウオツカ「…」

提督「さて、次はお前達を攫つた理由だ。俺の目的は人質交換、そのためにお前らを攫つた」

ダスカ「人質交換？」

提督「こいつらの狙い目は俺。要是俺一人とウマ娘全員を交換する形での交渉。そもそも人質がある時点で赤城たちの方が断然有利。ならば対等な交渉には少なくともこちらにも人質が必要。少なくともあと2人。1人は嫁が望ましい」

ダスカ「…あんた結婚してるようだけど…」

提督「嫁14人もいるからな」

ウオツカ「多すぎだろ！」

提督「それとお前達は艦娘とウマ娘のと中立をさせるために連れてきた。そうしなければ俺の話を信じる者はいないからな」

萩風「…分かりました」

提督「やられたままじやかつて悪いだろ。ここから反撃の狼煙をあげようじゃないか」

ダスカ「もちろんよ」

ウオツカ「ああ！」

提督「…さて、こいつらをどうするかだが…お前ら、きめていいぞ」

ダスカ「えつ？」

提督「罰を与えるも良し、親切にするも良し。俺は手を出さん」

ウオツカ「…」

↑…
To be continued

#40 一部屋ー

ダスカ「とりあえずトレセン学園に連れていきましょう。あとはそこで過ごすとか？」

萩風「でも寝る場所とかは…」

提督「俺の部屋を貸す。寮に行つても部屋ないだろ。なら俺の部屋を貸す」

ダスカ「…なにか怪しいことしないでしようね？」

提督「…俺嫁14人もいるんだけど。それに部下だぞ。こいつらに手を出して連れていかれた奴なんて何人も知ってる」

ウオツカ「…連れてかれると？」

提督「軍法会議にかけられて遠方に飛ばされるか処刑されるか…」

ダスカ「…恐ろしいわね…」

提督「処刑されるならまだいい。場合によつては特攻されて骨も残らない。ま、これは艦娘を奴隸のように使つたバカがされたけどな」

ウオツカ（どんなところだよ…）ブルブル：

提督「ていう事で、こいつも俺が管理するから安心しろ」

ダスカ「はいはい…」

ー横須賀鎮守府ー

ゴルシ「…あ…つまんねえ」

ゴルシ（飯は美味しいし、風呂は入れるし、別に外に出るには見張りが必要なだけでそこまで制限はされてねえが…）

ゴルシ（ジョーダンやフラッシュをいじつて楽しみてえな。まあ、マックちゃんがいるから退屈はしてねえが）

ゴルシ「…しかしょ…こ…女ばつかだな…まあ、うちもそうだけど。あいつハーレム作つていやがったのか」

ゴルシ「…ん？」

提督の部屋「

ゴルシ「面白そ…じやねえか」ニヤツ

ゴルシ「おお、鍵はかかつてねえ」

ティオー「ゴルシうなにしてんの」

ゴルシ「ここ、あいつの部屋だぜ。ここに何かあるか調べてみねえか？」

ティオー「面白そう！もしかして…変な本とか会つたりとか？」

ゴルシ「あると思うぜ。あいつだってヤラシイ本1つやふたつは持つてるだろうぜ」

マックイーン「…何してらっしゃるの？」

ゴルシ「おう、マックちゃん。あいつの部屋に潜入するところだぜ」

マックイーン「人の部屋に入るなんてそんなはしたないこと…」

ゴルシ「そんなこと言つて…マックちゃんも気になるだろ？あいつがどんな生活してるのかよ～」

マックイーン「…」

ゴルシ「あいつがどんな本持つてるとかよ～」

マックイーン「し…仕方ありませんわね。担当トレーナーの生活

チエツクも大事ですからね」

ゴルシ「そう来なくっちゃ」

—提督の部屋—

ゴルシ「オラツ！」バキッ！

ティオー「電気電気…あつた」パチッ！

マックイーン「…見た感じ普通の部屋ですわね」

ティオー「ふふん…僕の目からは逃れられないよ～」

ゴソゴソ…

※安価を取ります。

何があつた？》 399

(昔エロ本はあつたが赤城と結婚して全て捨てたのでエロ本はなしにします)

—5分後—

ゴルシ「何かあつたか？こつちはないぜ」

ティオー「ん…壁に勲章があつたことばかりかな？」

マックイーン「…すごい数の勲章ですわ。少なく見積つても20個以上は…」

ティオー「…何これ？勲章に『甲』って書いてある」※主は乙提督

なので甲は持つてないです。

マックイーン「…これはここ の皆さん の写真と…あの人（嫁艦）達の写真ですわね。それも1人からだんだん人が増えていくように飾られますわ」

ゴルシ「…お？」

ティオー「なにか見つけた？」

ゴルシ「あいつの日記だぜ」

ティオー「わあ～！見せて見せて！」

マックイーン「確かに気になりますわね…」

ゴルシ「じゃあ見てみようぜ」ペラツ：

↑… To be continued

#41 一過去ー

ゴルシ「早速読んでみようぜ」ペラ：

ティオー「一体何が書いてあるのかな?」ワクワク：

マツクイーン「…」ドキドキ：

—1日目—

今日から鎮守府に着任する。正門を見る限りボロボロの廃墟だ。前任の事もあってか艦娘達の心はかなり荒んでいる。鎮守府自体も機能していないし、かなりまずい。今日はとりあえず施設の見回りと自分の支度をして寝た。

ゴルシ「…初っ端から内容がやべえな」

—2日目—

今日から執務開始。執務室に行くとかなり趣味の悪い物があつたので全て捨てて、ボロいもので執務開始。途中艦娘に銃口を向けられた時は初めて背中に冷や汗を感じた。

—3日目—

艦娘との関係はかなり気まずい。何人かは睨んでくる。それどころか最悪銃口突きつけてくる艦娘もいる。メンタル弱つた奴なら自殺とか考えそうだが、俺は一切気にしない。ただ己のやるべき事をやる事だ。そう言えば最近赤城や吹雪がよく話してくれる。彼女となるら…。

—4日目—

飯は一人で食べる。一度毒物らしき物を混ぜられていることも考え、外の定食屋で飯を頂いた。…韓国のように箸も銀にするべきなのか?

マツクイーン「…なんですのこれ…」

ティオー「どうやらここもトレーナーを信用してなかつたようだね」

—58日目—

艦娘が敵に囚われた。どうやら艦娘達は心配しているようだ。俺も赤城や吹雪の救出の為に乗り込んだ。捕らえられた艦娘を救出し

て、深海提督を拷問、その後海の藻屑とした。艦娘が怖がっていたが…。

—59日目—

この頃、艦娘が俺に声をかけ始める。俺に恐れているのかそれとも慕っているのか…おそらく前者だろう。力でねじ伏せる事は動物にもできる。俺は彼女らと心を開いていきたいのにな…。

—半年後—

初めて大規模作戦に参加。難易度は低いが、艦娘のおかげで突破できた。かなり信頼度は上がつてゐる気がする。ちょくちょく話しかけてくれる子も増えてきた。

—1年後—

鎮守府に来て1年、赤城と結婚。艦娘全員で祝福てくれた。来た時とは大違ひだな…。吹雪も複雑そうな気持ちだつたが…。

ゴルシ「ふーん…」ペラツ

—書き始めて5年後—

書き始めて5年経つ。来た時から轟沈者は出さず、ここまで來た。艦娘の態度も初期の頃は全く別のものになつた。嫁も14人と多くなつたが、みんな仲良くやつてくれていいようだ。

マックイーン「…」

ゴルシ「…」ペラツ…

—6年後—

今日、会議の帰りにある女子を見つけた。名前はトウカイティオー。車の中だつたが足を怪我してゐるようだ。会議で短期間トレセン学園に行けとか言われて偵察したが…あの元帥…何考へてるんだ?

ゴルシ「あいつが来た理由…ね…」

ティオー「…ぼくの事が書いてある…」

—6年と1ヶ月後—

ついに日がきてしまつた。まだ嫁たちには話していないが…取り敢えず長い出張になるとは言つておいた。理由は元帥が話してくれるらしいし、帰つてきたら嫁達にも話そう。

マックイーン「…ここで終わってますわね」

ゴルシ「なんかつまんなかったな～もつと何か…ん？」

『警告 この先俺、嫁以外の者が読む事を禁止する』

ティオー「…何これ？」

マックイーン「…一部の人を除いて読むな…？」

ゴルシ「おお！こうゆうの待ってたんだぜ！早速…」ガシツ！

マックイーン「やめた方がよろしいかと…」

ティオー「なんでだよ～。せっかく面白そうなのに！」

マックイーン「人の私生活を覗くこと自体はしたない事ですわ。それに…なにかまずい感じが…」

ゴゴゴ：

ティオー「ならマックイーンだけ見なければいいじゃん」

マックイーン「み…見ないとは言つてませんわ！」

ゴルシ「じゃあ開けるぜ…」

※安価を取ります。

何が書いてあつた？》 408

1 読む（何が書いてあつたかも）

2 読まない

3 読もうとしたら邪魔が入った。

「どうすれば艦娘とウマ娘が仲良くなるかー

・年にか交流会をする

・年にかイベントの企画をする

・担当ウマ娘となにか…

ゴルシ「…なんだこれ？」

マックイーン「どうやらあの子達と私たちが仲良くする為の提案の

ようですね」

ティオー「な～んだ…ん？」

このページを読んだ奴、後ろに気をつけろ。

ティオー「まっさか～誰かがいるつて…」クルツ…

マックイーン「…ティオー？」クルツ

ゴルシ「んな訳…」

飛龍「…何してるの？」

マツクイーン「…」サアア…

ティオー「あ…」

飛龍「人の部屋に勝手に入つて拳句荒らしてさらに人の日記読む…」

それも軍の機密事項がある所で

飛龍「…何してたの？場合によつてはあなた達を連行しないと行けなわけです」

マツクイーン（や…やばいですわよ?!）

飛龍「正直に話したら解放してあげる。動機は別として」

ゴルシ「…分かったよ」

↑……To be continued

#42 一確認一

かくかくしかじか…

飛龍「ふくん…やらしい本とかね…残念だけどないよ」
ティオー「えつ？」

飛龍「確かに提督は持つてたらいいけど…赤城さんと結婚して全て捨てたらしいし。というか自分の部屋見られたらヤダでしょ？」
マックイーン「おっしゃる通りですわ…」

飛龍「という訳で…罰は受けてもらうよ？」
ティオー「えつ?!でも許すって…」

飛龍「あくまで連行はね。それに瑞鶴とかに見つかったらもつとやばかつたけど…今から呼んでくる?」

ゴルシ「…分かったよ。従えばいいんだろ」
飛龍「よろしい。じゃあ罰は…」

※安価を取ります。

どんな罰?» 412

(死なない程度で)

一翌日一

ゴルシ「ピースピース!」↑バニーガール
ティオー「うう…恥ずかしいよ…」↑同上
マックイーン「こ…これ…肌が…」↑同上
ライス「ま…マックイーンさん…」

マックイーン「ライスさん?!み…見ないでくださいまし!」

ルドルフ「…ティオー」

ティオー「カイチヨー!」

スペ「ゴルシさん?!その格好はなんですか?!」

ゴルシ「新しい勝負服らしいぜ」

スズカ「」

蒼龍「…何あれ?」

飛龍「ん~? ちょっととした罰」

蒼龍「罰?」

飛龍「聞きたい？」

蒼龍「うーん：遠慮しとく」

→トレセン学園」

グルーヴ「…で、その子たちが会長達を攫つたと？」

萩風「会長…？誰ですか？」

嵐「知らねえぜ？」

提督「まあ、正確に言えばオレの嫁が攫つたんですけどね」

ブライアン「…」

マルゼン「可愛いわね♪♪」

グルーヴ「で…その子達はどうする」

提督「監視下には俺が置きますが、基本的にはあなたたちに任せます」

グルーヴ「…分かつた。ではこうしたらどうだ？」

※安価を取ります。

どうする?」 413

(なんでも構いません)

グルーヴ「この学校で少し私達と交流という形でウマ娘と生活してもらおう」

提督「だとよ。ま、お前らとやつてる事同じだけどな」

萩風「…分かりました」

嵐「おう」

グルーヴ「で…会長たちは」

提督「こいつらから聞いた話だと軟禁状態ではあるが衣食住は与えられてるらしい。あと、達が出し合つたお金で多少は苦労はしていない」

そうだ」

グルーヴ「…なるほど…」

提督「よし、お前ら行くぞ。お前達は一時的ではあるがスピカのメンバーとしてこの学校に在住してもらう」

萩風「分かりました」

→校内一

『あの子たち誰？』『見たことない…新しい子？』『尻尾とか耳とかつい

てないしね』

萩風「な…なんか注目されてますね…」

嵐「なあ、ここつてどういうとこなんだ?」

提督『日本トレーニングセンター学園』在校ウマ娘2000名弱、全寮制で日本中から猛者が集まる学校だ』

萩風「提督が担当される子は…」

提督「お前らが殆ど誘拐してつたけどな…」

萩風「な…なんかすいません…」

－Aクラス－

ガラガラ…

提督「ここで少しの間、ウマ娘に交じつて勉強させてもらう。一応教科書は俺のを貸す。交流と勉強を通じて仲良くなれよ。帰りはスピカの部室で待ってる」ガラガラ…ピシャ

嵐「あ…おい…」

萩風「あ…」

ウマ娘「…誰?」

ウマ娘2「ウマ娘じゃ…ないですよね…」

ウマ娘3「さつきのトレーナーの知り合いかな?」

ザワザワ…

萩風「あ…ええと…」

?「ここにちは

※安価を取ります。

話しかけたのは?』 416

(1人でお願いします。ちなみにアニメ版だとAクラスはグラス、エル、スカイ、スペがいました)

グラス「ここにちは、あなた達はウマ娘ではありませんね」

萩風「は…はい! 艦娘です!」

グラス「艦娘…確か…深海棲艦とかいう化け物と戦ってる女の子…でしたつけ?」

嵐「ああ、合ってるぜ」

グラス「…最近妙なことばかり起こるのですが…あなた達が関係し

てると思うんです」

萩風「…」

グラス「スペちゃんが誘拐されたりルドルフ会長が行方不明になつたり…もしかして…」

グラス「あなた達が関係してますか?」

萩風「…」

嵐「…」

グラス「答えないのは肯定と同じですよ?」

↑…To be continued

一一番外編、夜の探検ー

ー横須賀鎮守府ー

日が沈み、横須賀の海は街の灯りに照らされている。町は寝静まり、鎮守府も多くの人々が寝静まる中その中で一室、明かりが付いている部屋が一つあつた。

ースペシャルウイーク、サイレンスズカの部屋ー

スペ「…」

スペ「…」

スペ「…」ムクツ：

スペ「…午前1時ですか…」

スペ（…眠れない…トレーナーさんや皆さんはどうしてるんでしよう…）

ー廊下ー

ガチャ…

スペ「…」

ゴルシ「お、スペ」

スペ「うわあ?!ゴルシさん?!それと…」

ティオー「スペちゃん」

スペ「ティオーさん…どうしたんですか?」

ゴルシ「なにか面白えことねえかなつてな。部屋抜け出してきた」

ティオー「僕もー」

スペ「そうなんですね…」

ゴルシ「…なあ、少し探検しようぜ」

スペ「や…やめておきましょよ…。この前トレーナーさんの部屋を漁つて怒られて他じやないですか…」

ティオー「いいじやんいいじやん。こんな事滅多にないんだよ? もつと探検しようよ」

ゴルシ「それじゃあ行くぞー」

ー2階ー

ゴルシ「この辺は宿舎なようだな」

スペ「…あの…もう帰つた方が…」

ゴルシ「スペ、ここから逃げ出すにはどうしたらいいと思う?」

スペ「…えつ?」

ゴルシ「見張りの薄い場所、時間…それを見つけるんだ。あたしは夜な夜なマックイーンに内緒でこうやって歩いてるんだけどな…」

ティオー「それで何か見つけた?」

ゴルシ「…それが全然ダメだぜ」

ティオー「なんだ…」

ゴルシ「…でも情報を聞き出せそうな場所は見つけ出せたぜ」

スペ「…?」

12階、突き当たりの部屋ー

ゴルシ「…ここだ」

スペ「…バー?」

ティオー「バーってお酒飲むところだよね?こんな所で情報手に入るの?」

ゴルシ「よく言うだろ。人は気分が良くなると口を滑らせるつてな。ここで何か情報を聞き出せると思つてな。ここを覗いて見たらよ、案の定酔っ払いが何人かいるんだよ。そいつらから情報を聞き出す」

ティオー「…それ、絡まれたりしない?」

ゴルシ「そん時はそん時だ。開けるぞ」ガチャ…
ーバー、エトワール・ド・メールー

カラントラン…

タシユケント「いらっしゃ…ん?」

コマダン「B o n s o i r (こんばんは)、珍しいお客様さんね」

ガンビー「…ここはこ…子供が来ちや行けないところですよ?!」

ゴルシ「知つてる、別にお酒が飲みたいわけじゃないんだ。喉が乾いたからなにかくれねえか?」

タシユケント「棚にあるジュースなら出せるよ」

ティオー「じやあ僕ハチミーね!」

ガンビー「ハ…ハチミー?」

ゴルシ「んなもんねえよ。あるジユースでいいよ」

「5分後」

ジユークボックス♪↑加賀岬(メロディのみ)(ちなみにカラオケ機能あり)

ゴルシ（…今日は誰もいなか…）カラーン…

タシユケント「ウマ娘か…まじまじと見るのは初めてだな」

タシユケント「人間と同じようで同じじやない…まるで艦娘みたいだね」

ゴルシ「それ言うならお前らも水の上浮いたりする所は人間から離れてるけどな」

コマダン「それは艦装をつけてる時だけデスね。普段はちょっと力が強い人間程度ですよ」

ティオー「へ…。艦装つてあの金属みたいなやつでしょ?僕もあれつけたら水の上浮けるのかな?」

タシユケント「やめといった方がいいよ。同志は吹雪の艦装を試しつけて死にかけた事あるし」

スペ（トレーナーさん…何してるんですか…）

ティオー「あんなに大砲、バンバン撃つてるんだから僕らにも出来そうだけどな…」

ガンビー「普通の人がやつたら脱臼するらしい…です」

コマダン「でもこの子、艦装の大砲撃つてませんでしたっけ?」

ゴルシ「鍛えてるからな」

スペ（そういう問題ですか…）

タシユケント「…さて…こんな時間にここに来たってことは怪しいね…。まさか鎮守府の情報を盗もうとしてたりしてたのかな?」

スペ「そ…そんなことしませんよ…」

タシユケント「それとも逃げようとしてたとか、逃げるための情報集めかな」

ティオー「?!」

コマダン「?」

ガンビー「?...?...」

タシユケント「…まあ、理由は聞かないよ。あまり夜出歩かないようにな。見張りの子に見つかるとうるさいから」「

ゴルシ（…全てお見通しつて事か）

タシユケント「…まあ、ジユースの肴に話でも聞かない？」

スペ「…話?」

タシユケント「…ここ）のバーができたときのこと」

タシユケント「）のバーはね、同志が訪れる前は隠れてやつてたんだよ。同志が来る前、酷い司令官がいて文句なんか口にもできない時、ここ）に移転する前の地下にあつたこのバーが唯一艦娘が本音を言える場所だつたんだつて」

スペ「…」

タシユケント「で、司令官が処刑された後、やつて来た同志が地下からここに移したんだつて。その頃ここには居なかつたけどね」

タシユケント「『エトワール・ド・メール』、ここに移される前、隠れてやつてた時からこのバーの名前何だけどやつてた艦娘がね、鎮守府の希望の星になりたいつて意味で付けたんだつて」

ゴルシ「『海の星』か…」

※海（海のある鎮守府を連想させる） 星（希望の星）

ティオ一「…」

タシユケント「何か他に聞きたい」とある？同志の弱点教えようか？」

ゴルシ「お！教えてくれ！」

タシユケント「同志はね…お酒弱いんだよ。下戸じゃないんだけどね、酔つ払うのが早いんだよね。酔つ払うと泣き上戸になつたりするよ」

ティオ一「ええ?! そんなトレーナー見たことないな…」

タシユケント「ここ）で飲んではしょっちゅう愚痴言つて寝てるけどね」

ゴルシ「他に何かあるのか教えてくれよ！」

コマダン「たまにここでカラオケしてるんですが※『24時間シン

『デレラ』歌つてますね」※龍が如く0に登場する真島吾朗が歌う昭和のアイドルみたいな曲

ティオー「ええ!・トレーナーカラオケ行つた時流行りの歌とか歌つてたけど?」

コマダン「恥ずかしいらしくてここでしか歌わないんだそうですねよ」

ゴルシ「アハハ! 今度行つた時にからかつてやろうっと!」

一午前中2時-

タシユケント「…そろそろ店仕舞いにするか」

ガンビー「そうですね」

ゴルシ「いや〜いい話聞けたぜ」

ティオー「これでトレーナーの弱点丸わかりだね!」

スペ（トレーナーさん…お気の毒です…）（――；

タシユケント「あ、そうそう。ここから抜け出すのはやめといた方がいいよ」

ゴルシ「…分かつたよ…」

コマダン「また話がしたかつたらここに来てくださいね」

スペ「はい、ありがとうございました」

一廊下-

ゴルシ「結局手がかりなしか…」

ティオー「…ま、色々話聞けて良かつたじやん」

スペ「…ふああ…眠くなつて来ちゃいました」

ゴルシ「おう、早く寝ようぜ」

一?一

タシユケント「…今日の事は見なかつた事にしてあげる。でも本当に抜け出したら…」

タシユケント「…地の果てまで追いかけるからね。同志と会うまでもまだ人質として貰いたいからね…」

鎮守府の夜は深く、そして混沌として進んでいく…。

#43 一派遣ー

グラス「…最近チームスピカのウマ娘だけが消えているんです。それに送られてきたあなた達…あなた達とスペちゃんの関係はなんですか？」

グラス「…私はちょっとした特技がありましてね…嘘をついているのかわかるのです。肌のてかり、目の動き…人が嘘をつく時には些細な動きが出るわけです」

グラス「…もう一度聞きます。スペちゃんとあなた達の関係はなんですか？」

萩風「…そのスペちゃん…っていう子はどんな子なんですか？」

グラス「そうですね…こんな子です」↑写真

萩風「…知りませんね」

嵐「何言ってる…ムグツ?!」

萩風（いい…ここで話したら何されるか分からぬわよ）

嵐（わ…分かつたぜ）

嵐「お…俺も知らないぜ…」汗ダラダラ

萩風（嵐?!）

グラス「…」ジー

嵐「…」ダラダラ…

グラス「…いいでしよう。トレーナーさんが連れてきたんです。そこまで深くは聞きました。知らないなら催促してしまつてしまふせんでした」ペコッ…

エル「ハイグラス♪絶対何かしつて…o h?!」ドカツ！

グラス「エル♪」

エル（何するデース！）

グラス（ここ）は泳がせましょう。あの子達がスペちゃんと関係あるのは間違ひありません。ですが証拠がない…）

スカイ（ならどうするのさ）

キング（さつさと吐かせればいいじゃない！）

グラス（…疑わしきは罰せざ…あの子たちにはスペちゃん達に關

わつた証拠がありません。それに軍隊ですよ）

エル（ならどうするデース）

グラス（私たちは私たちである子達についてなにか調べてみましょ
うか）（この間3秒弱）

グラス「…そうですか…なら仕方ありませんね」

萩風「力になれずすいません…」

グラス「いいですよ。皆さん交流会だと思つて仲良くしてくださ
い」

ウマ娘「はーい」

グラス（まずはこの子達と仲良くならなければ…ですね）
—横須賀鎮守府—

赤城「…」

コンコン：

舞風「お邪魔します」

野分「お話があります」

赤城「舞風さん、野分さんどうしましたか？」

野分「実は…萩風達と連絡が取れないのですが…」

加賀「…その子たちは…」

野分「はい、府中に偵察に行つてます。毎日決まつた時間に連絡を
取るのですが、昨日は連絡が来ず…」

飛龍「ただ単に忘れたとかは？」

野分「萩風姉さんがいるのに忘れますかね…」

赤城「…加賀さん、何人か府中に行かせてください。もしかしたら
…」

加賀「…捕まつた…つて事ね。分かつたわ」

※安価を取ります。

送る艦娘は?」 431

（人数は6人とします）

加賀「…瑞鶴、伊勢。小沢艦隊を連れて府中に行けるかしら？」

瑞鶴「別にいいけど…何で？」

加賀「少なくともあなたはあの町について少しだけ私達よりは知つ

てるはず。それに艦娘の統率…私達の中から少なくとも2人は行く必要があるのよ」

瑞鶴「…分かった」

伊勢「やれやれ…じやあ行こうかね…。瑞鶴、瑞鳳達を呼んできて」

瑞鶴「了解」スタスター：

こうして瑞鶴を筆頭に伊勢、日向、瑞鳳、千歳、千代田の4人が府中へと向かうことになつた。

↑……To be continued

#44 一劇物一

一トレセン学園一

先生「このようにレースにはグレードレースG3からG1があり、その中でもG1に出れるウマ娘はほんのひと握りなのです（シンデレラグレイより）」

嵐「…グレードレース…」

先生「さて、では質問してみましよう。艦娘の：萩風さん」

萩風「わ：私ですか？は、はい！」

先生「あなたの知っているG1のレースを1つ答えてください」
※G1は全部で20レース（皐月賞、日本ダービー、菊花賞、天皇

賞春秋、有馬記念など）

萩風「はい！え…ええと…」

嵐（頑張れはぎー！）

ウマ娘「…」ワクワク：

グラス「…」

キング「…」

萩風「え…ええと…東京カップとか？」※日本ダービーは漢字に直

すと東京優駿

シーン：

ウマ娘（…） ポカーン：

グラス「…」

キング「…」

スカイ「…」ズコツ：

エル「…」

嵐（ありや…）

萩風「えつ？皆さんどうしましたか？」

ハハハハハハハハハハー！！

グラス「フフフ…」苦笑い

キング「やれやれだわ…」

エル「ナアハハハ…アウチ?!」

グラス「エル？人の間違いを笑つてはいけませんよ？」

エル「理不尽デース！」

ウマ娘「お：面白いよ…」

先生「あ…ありがとうございます…」 フフ…↑隠しきれない笑い

萩風「う…うう…」 //

一カフエテリアー

萩風「大恥かきました…」

嵐「気にすんなよ…」

グラス「そうですよ。誰にでも間違いはあるんですから。エルなんて漢字テストで10点（100点中）取つたこともあるんですから」

エル「グラス?!」

グラス「だからあれ程一夜漬けはやめなさいと言つたのに…」

エル「あ…あの時はたまたま調子が悪かつたダケデース！」

萩風「…なんかすいません…」

グラス「いえいえ」

グラス（ここで親しくなるように少し話題をふつてみましょうか）
※安価を取ります。

なにか話題は？〉 347

（何でも構いません）

グラス「…そう言えば…聞いたところによれば艦娘は私達のように寮制だと聞きましたが…」

萩風「そうですね。私たちは他の子達と一緒に暮らしてます」

嵐「まあ、今は司令がいないから司令が結婚した人がリーダーシップを取つてるけどな」

グラス「…スピカのトレーナーさんは結婚してたんですね…」

萩風「はい、14人もいますが…」

スカイ「…14人?!」

嵐「ああ、司令の奥さんは14人いるぜ」

キング（日本に側妻制つて認められていたかしら…）※認められて

ません

グラス（この人達やスピカのトレーナーさんの事がわからなくなつ

てきました…)

—横須賀鎮守府—

スペ「そろそろご飯ですね」

スズカ「…あら?」

吹雪「あああ…」

スペ「どうしましたか?」

大和「…やつてしましました…」

スズカ「えつと…どうしました?」

吹雪「ああ、スペシャルウイークさん…逃げてください…」

スペ「えつ?」

大和「比叡さんが食堂に…!」

その時、食堂の方から何か得体の知れない臭いが流れてきた。

スペ「?!」[↑]鼻押さえ

スズカ「な…なんの臭い…」

鳥「…」[↑]ひつくり返った

スペ「と…鳥さんが…」

スズカ「も…もう限界…!」ダツ!

吹雪「こ…ここから逃げた方が…」

比叡「あ、吹雪さん、大和さん、スペシャルウイークさん。こんな

ちは」

吹雪「あ…はは…どうも…」

スペ「こ…こんにちは…」

比叡「ちょうど料理が出来たんですよ、味見してくれませんか?」

↑何か動いてる

スペ（う…動いてます…）

吹雪「わ…私忙しいので…」

比叡「そんな…すぐ終わりますので」

スペ（何でもこんな臭いの近くにいて平気なんですか…）

大和（フグが自分の毒で死ないよう慣れてるから…らしいです）

比叡「良ければ感想聞かせてください」

吹雪…（。Д。）ナンデコンナコトニ…
スペ（きよ…今日は厄日です…）

↑
To
be
co
n
ti
n
u
e
d

#45 一不幸一

比叡 「さあ…感想を聞かせてください」

スペ 「え…遠慮しておきま…」

比叡「でも…食べるの好きじやありませんでしたつけ…? 今日のは自信作なんですよ」

吹雪 「ち…ちなみに入れたんですか?」

比叡「…ええとですね…シーフードカレーなんですが、海岸に落ちてたうねうね（深海忌雷）とかカレーなのでスペイスに唐辛子とか色々使いました」

大和（動いてるやつですか?!）

比叡「あ、安心してください。すぐやつたので新鮮ですよ」

吹雪 「そんな問題じや…」

比叡「はい、どうぞ!」

スペ 「で…でも…」

比叡「…」↑笑顔

スペ（も…もうどうにでもなれ…です!）パクッ!

スペ「…」

吹雪「…す…スペシャルウイークさん?」

スペ（な…何これ…今まで食べたことが無い感触…この味…この臭い…もう…）

スペ「バタツ!」

吹雪「スペシャルウイークさん!!」 ユサユサ…

比叡「よかつた氣絶するほど美味しかったんですね!」

大和「どこがですか!え…衛生兵!!」

比叡「さあ、吹雪さんも…」

吹雪「い…いや…」

うわああああ!

「その後」

スペ「↑氣絶

吹雪「↑氣絶（ダブル主人公ノックアウト）」

赤城「…」（～、？）ゴゴゴゴゴゴオ

ルドルフ「…」（～、？）ゴゴゴゴゴゴオ

比叡「ひ…ひえい…」↑正座

赤城「比叡さん、あなた調理場侵入禁止でしたよね？なんで食べたんですか？」

ルドルフ「スペシャルウイークが真っ白になつて抜け殻になつてゐぞ！」

加賀「…これは私でも弁護出来ないわ」

飛龍「2人とも凄い白いんだけど々

古鷹「吹雪ちゃん！大丈夫?!」

神通「…比叡さん、今度一緒に訓練しましようか。もちろん特別メニューで

比叡「ひえー！許してくださいー！」

スズカ「スペちゃん!!」ペシペシ…

スペ「アハハ…川の向こうで産みのお母ちゃんが手を振つてる…お母ちゃん…」↑顔は知つてる

マックイーン「それ三途の川ですわよ！渡らずに早く戻つてきてくださいまし!!」

ゴルシ「ほい、六文錢」チャリ…

ティオー「そんな事してないでスペちゃん助けてあげてよ!!」

一府中市ー

伊勢「…着いたね」

瑞鶴「と言つてもレイテ以来の編成だけどね」

日向「まあ、やつてやるさ」

千歳「提督を探せばいいのよね」

千代田「あの迷惑男をさつさと探すよ！」

瑞鳳「それじやあ艦載機とか使つて一気に探すよ！」

バシユツ！カシユツ！ブーン…!!

一付近ー

マヤノ「ティオーちゃん戻つてこないし…マヤちよつと心配…ん？」ブーン…:

マヤノ「…何あれ？この辺じや見ない飛行機…」

マヤノ「向こうから飛んできたのかな？行つてみよう！」

—瑞鶴 S i d e —

瑞鶴「…これで提督さんを見つけたら連絡が来るわ」

瑞鳳「でも学園にいるんじゃないの？」

瑞鶴「…いい、この作戦は提督さんを捕まえて鎮守府に連れていく」

瑞鶴「萩風たちも助ける、提督さんも攫う。両方やらないといけないって言うのが…この作戦の辛いところね」

瑞鶴「最悪提督さんだけでも連れて帰ることが大事よ」

伊勢「…！ 誰か来てる」

マヤノ「ここから飛行機が飛んでたような…ん？」

瑞鶴（ウマ娘よ…）

瑞鳳（名前わかる？）

千代田（私達が知るわけないじやない…）

マヤノ「んく…どこかで見たような…」

マヤノ「…！ 思い出した！ テイオーちゃんを攫った人でしょ！」

瑞鶴「?! な…なんの事かしら？」

マヤノ「学校からメールで来た…あつた。マスクもしてないし、格好も違うけど…ツインテールと緑の髪…ティオーちゃん達を攫った犯人と特徴が一致してる…！」

瑞鶴（…！ 思い出した…トウカイティオーが言つてた同室の子… 確か名前は…マヤノトップガン！）

マヤノ「…ティオーちゃんはどこに攫つたの?!」

瑞鶴「…なるほど…確かに私はトウカイティオーを攫つたよ」

マヤノ「やつぱり…！」

瑞鶴「だけどね…マヤノトッップガン…あなたがここから逃げられるかは分からぬけどね？」

マヤノ「?!」

瑞鶴「…なぜなら…貴方をここで始末（誘拐）するからね！」

瑞鶴「私達の姿を見られたからには逃がさないわよ！」

マヤノ「?! ダッ！」

瑞鶴「あなたがどれだけ足が早かろうと逃げられないわよ。既にもう包囲は出来上がつてゐるからね」

艦載機「…」

瑞鶴「1人の剣豪を1対1で倒すのは無理でも足軽100人となれば剣豪破ることは出来るわ。瑞鳳と千歳千代田はあの子を追いかけて。私達は逃げ道を塞ぐ…つまり…」

瑞鶴「挟み撃ちつて奴よ」

↑……To be continued

#46 一連行一

マヤノ「…あれ…しつこい！」

艦載機「」

マヤノ「くつ…」

一土手一

ブライアン「…」

マヤノ「…！ブライアンさん！助けて!!」

ブライアン「ん？」チラツ：

マヤノが艦載機に追われてる「」

ブライアン「…ちつ…何であいつは面倒なものを連れてくるんだ。こつちは女帝殿から…」

グルーヴ「見つけたぞブライアン！今日こそは…ん？」

艦載機「…」

グルーヴ「な…なんだ?!」

瑞鶴「！あいつ…確かに鎮守府に潜り込んだやつよ！」

グルーヴ「ちつ…逃げるぞ！」

瑞鶴「逃がさないわよ！」

→10分後、物置き場→

グルーヴ「はあ…はあ…なんなんだあれは…」

マヤノ「あの子たちがティオーチちゃんを攫つた人達なの！」

グルーヴ「何?!」

ブライアン「それはいいが…ここからどうやって帰るのだ？」

グルーヴ「迂闊に出たらあれに捕まるぞ…」

※安価を取ります

どうする?」> 456

(なんでも構いません。結果もお願いします)

グルーヴ「やはりここは凶作戦の方が良さそうだ」

ブライアン「…誰が行く?」

シーン…

グルーヴ「…私が行こう。女帝たる者、生徒の命を守ることも大事

だ

ブライアン「…そうか」

グルーヴ「いいかブライアン。帰つたらスピカのトレーナーに報告

しろ」

ブライアン「…わかつたわかつた」

グルーヴ「それと…」

ブライアン「…何？」

マヤノ「副会長…」

グルーヴ「…行つてくる」

ブライアン「…武運を祈る」

グルーヴ「そう簡単には捕まらんさ」

—瑞鶴 s i d e —

瑞鶴「…見失つた」

伊勢「…！居た！」

瑞鶴「待ちなさい！」

グルーヴ「この女帝を舐めるなよ！」ダツ！

日向「足が早いな」

伊勢「私達低速だからね…」

グルーヴ（さて…まず逃げ切るにもあれがじやまだな）

艦載機「

※安価を取ります。

エアグルーヴは…> 457

1 捕まつた

2 逃亡成功

3 その他

グルーヴ（なら、せいぜい時間を稼ぐことだ）

瑞鶴「ちつ…待て！」

グルーヴ「待てと言つて待つ奴がいるか！たわけ！」ダツ！

瑞鶴「もう頭にきた…！あいつを捕まえるわよ！」

—5分後—

ブライアン「…女帝殿が引き付けたようだな」

マヤノ「今のうちに…」

ブライアン「ああ」ダツ！

—2時間後—

グルーヴ「ぐつ…ハアハア…」

瑞鶴「捕まえたわよ！」ハアハア…ガシツ！

グルーヴ「…貴様…何者だ…」ハアハア…

瑞鶴「横須賀鎮守府所属、翔鶴型航空母艦2番艦の瑞鶴。あなたの所で働いているスピカのトレーナーの嫁よ」

伊勢「や…やつと追いついた…」ハアハア…

日向「やはり…こうなるな…」ハアハア…

瑞鶴「…！ちよつと待つて…2人足りない…2人はどこ?!」

グルーヴ「…今頃学校にいると思うぞ」

伊勢「お…凹か…」ブルル：

千代田『ちよつと?!何での子達逃がしちゃうの?!』

日向「すまんな。瑞鶴が先走った」

瑞鶴「ぐつ…」

日向「だが、1人ウマ娘を捕らえた。学校の副会長だ」

伊勢「で…どうするの？私達の目的は偵察だよ？」

瑞鶴「…鎮守府に送るわ。伊勢、日向。行つてくれるわね？」

伊勢「そういうことは構わないけどさ…ヘマしないでよね？」

日向「瑞鶴、お前は昔よりは治つたが短気だ。今回のように目的を忘れて先走るなよ」

瑞鶴「分かつてるつて。じやああとよろしくね」

グルーヴ「くつ…離せ!!（会長…申し訳ありません…）

携帯「

瑞鶴「…ん？携帯？」ピッ…

伊勢「これも持つてくよ」

ートレセン学園ー

ブライアン「…という事だ。女帝殿は…」

ダスカ「そんな…先輩が…」

提督「…そうか。艦載機は？」

マヤノ「…こんなのが…」→写真

提督「…天山か…これは瑞鶴の奴だな」

ダスカ「…誰よそれ？」

提督「嫁の1人。後これは日向もいるな」→瑞雲

提督「…他に写真は？」

マヤノ「これだけ…」

「その後」

提督「…いるのは小沢艦隊か…」

ブライアン「そういえば女帝殿は最後にヒントをくれた。女帝殿は捕まる際、携帯の通話状態を維持しながら走っていた。捕まる際、聞いた話だと連れてくのは伊勢日向とか…」

提督「…なるほど…瑞鶴。そこが浅いな…。おかげで作戦が決ました…」

ブライアン「と言うと…」

提督「瑞鶴達4人を捕まえる手立てがで来た」

「翌日、横須賀鎮守府」

グルーヴ「…ここは…」

伊勢「あなた達が忍び込んだ場所。まあ、下手したらあなたはここで死んでたけどね」

日向「全く…軍の敷地に入るなんて無茶するな…」
「嫁艦の部屋」

加賀「…あら、貴方は…」

グルーヴ「…エアグルーヴだ」

ルドルフ「エアグルーヴ…！」

グルーヴ「…申し訳ありません…」

ルドルフ「いや、無事なだけ良かつた」

加賀「…貴方達、瑞鶴達は？」

伊勢「別れてこつちに帰ってきたけど」

加賀「…あなた達、すぐ帰りなさい。あの子は視野が狭く短気。を率いるには1人では無理。だから私は伊勢を行かせたのに…！」

日向「…だが、瑞鶴はかなり練度が高いだろう」

軍

加賀 「この場合は別よ。これでもし瑞鶴達が捕まつたら…」

伊勢 「…！行くよ！」

日向 「おい待て！」

一数日前、？—

グラス「…」カタカタ…↑パソコン

エル「出そうデース？」

グラス「…あの子達が急に来た理由…恐らく…」

スカイ「…出た」

キング「…！この人つて…」

提督の写真

グラス「…やはり、トレーナーさん関係の子でしたか」

スカイ「で…どうするのさ」

グラス「あの子達に聞かせてもらいましょう。いつかボロを出すと

思います」

エル「尾行デース？」

グラス「…いえ、そんな事しなくても恐らく…」

↑… To be continued

#47 一誘引一

「数日前」

萩風「…スペシャルウイークさん達は今頃どうしてるんでしょうか
…」

嵐「分からねえ。だがよ、赤城さん達が生活の準備はやつてくれてるって聞いたぜ」

萩風「あの鎮守府に行つた子達もですかね？」

嵐「…恐らくな

『あら？ 先程はスペちゃんのこと知らないと言つていませんでしたか
？』

嵐「?!」

グラス「話は聞かせてもらいましたよ」

エル「ついに尻尾を出したデース」

スカイ「まあ、ここに来た時点で怪しいとは思つたけどね」

キング「やっぱりあなた達が関わつてたようね」

グラス「…説明…してもらつてよろしいですか？」

萩風「…」

グラス「…スピカのトレーナーさんとの関係も調べさせて頂きましたよ。軍の司令官らしいですね」

萩風「…何が言いたいんですか？」

グラス「なんでスペちゃんを攫つたか教えてください」

嵐「…」

「前日、スピカ部室」

ダスカ「で…何よ捕まえる手立てつて…」

提督「前提条件として、まずこれには俺以外の人が必要、少なく見積つて8人、そして四、最後に場所。これさえ満たせば作戦は完了する」

ウォツカ「…ここにいるの4人だけだぞ」

ブライアン「…あと4人はどうする？」

提督「…そこが難しい。一般人を雇うのには危険が伴う。相手に怪

我させる場合は勿論、最も怖いのが裏切り。金目当てで逃げる奴だ。
だからこれには自発的に参加する奴がいいが…」

コンコン…

グラス「失礼します」

提督「…君は…」

グラス「はい、スペちゃんと同じクラスのグラスワンダーと言いま
す」

エル「話は聞かせて貰ったデース！」

キング「…その誘拐犯…とやらを捕まえればよろしいのですね」

スカイ「ま…やる気は出ないけどスペちゃんとが関わってるんじゃ
あね…」

萩風「…」

嵐「…司令…悪い。話しちまった…」

提督「…萩風達から聞いたか」

グラス「はい、話を聞かせてもらいました」

グラス「私達も参加してよろしいですか？」

提督「…ベネ。話を進めよう」

カクカクシカジカ…

グラス「…なるほど…その人達を捕まえればいいんですね」

エル「で…囮は誰がやるデース？」

シーン…

提督「…囮は勿論俺が行く。その辺は安心しろ。最後に場所…それ
が…」

グラス「…分かりました。では明日…」

提督「ああ、頼む」

萩風「…司令、やつぱり瑞鶴さん達を捕まえるんですね」

嵐「…」

提督「…反対するのか？」

萩風「…私達は何も言いません。今は司令が身を預かつてゐる身です
し、何より…私は司令と皆、がもう一度仲良くなつて鎮守府に戻つてしま

て欲しいからです」

嵐「…もうあんな事は懲り懲りなんだよ…だから司令には戻つてきて欲しい。だが、司令には司令の気持ちがある。それを尊重したいのさ」

提督「…すまないな。明日朝から策を発動させると、『誘引の計』の始まりだ」

—翌朝—

瑞鶴「…いないわね…」

瑞鳳「…あ、あれ提督じやない?」

提督「…」

千歳「…こちらには気づいなさそうね…」

千代田「絶対に捕まえてやる」

—提督 side —

提督「…見つけた。瑞鶴の彩雲だ」→イヤホン装着
グラス『分かりました、では作戦開始ですね』→通信

ダスカ『あんた、ヘマするんじゃないわよ』

提督「分かつてる。さて…ここからは俺の演技力次第だな」

↑……To be continued

#48 一作戦ー

—10分後—

ウォツカ『どうだ?』

提督「ああ、バツチリ着いてきてる。順調だ」

スカイ『なんか暇だね…』

提督「暇…か…なら少しアイデアを応募しようか」

マヤノ『アイデア?』

提督「少しばかり隙を見せたい。君たちもレースで相手が隙を見せた時に、勝負を仕掛けるだろう。ならばこちらが少し隙を見せるだけでもこの作戦は成功する確率がかなり上がる」

提督「と言つてもあまり露骨過ぎると今度は怪しまれる。今日は休日、多少は無茶なことをしてもいいけどやりすぎるとしたら俺にもアイデアがあるから俺のを採用させてもらう」

グラス『分かりました。ではこういうのはどうでしょうか?』

※安価を取ります。

隙を見せるには…>< 465

(あまりに露骨過ぎる場合はこちらの案を採用させていただきます)

グラス『では…警察に化けて近づくのは?』

提督「…いい案ではあるが非現実的だな…最悪警察に捕まるな」※

軽犯罪法に抵触

キング『なら、ゴールドシップさんのように誘拐するのは?』

提督「…あいつらは極度の警戒態勢だ。無理だな…。他には?』

シーン…

提督「…OK、なら俺の案でいく」

ダスカ『でもそんなに案つてあるの?』

提督「あるぞ、それもかなり簡単な方法だ。まずは場所に行くぞ」

—瑞鶴 s i d e —

瑞鶴「…建物内に入つた?」

瑞鳳「うん、デパートに入つた。何階に行つたかは分からぬけど

⋮

千歳「どうする?」

千代田「追うわよ」

瑞鶴「…よし、彩雲はそのままデパートに行くわよ」

—20分後—

瑞鶴「見つけた?」

瑞鳳『うん、8階のレストランにいる…しかも…』

—中華レストラン—

提督「これとこれ頼む」

店員「はい、かしこまりました」

ダスカ『ちよつと?!何でお酒頼んでるのよ!』↑ペン型カメラで提督の行動がわかる

提督「良いからいいから」

瑞鶴「すいません、1名です」

店員2「ではこちらの席へ」↑提督のすぐ近く

瑞鶴（昼間からビール飲んでる…）

千歳「すいません、3名です」

店員「ではテーブル席に案内します」↑少し離れた場所

グラス『スピカのトレーナーさん、しつかりしてください。今は…』

提督「これが俺の作戦だ、問題ない。あ、もう一本追加で」↑3本

目（ラベルは外すようにお願いしてる）p

エル『そんなに飲んで大丈夫デース?』

提督「…これ、ノンアルコールだからな。これでアイツらも少しば油断する」

一千歳 s i d e —

千歳「…昼間からお酒飲んで…羨ましい…」

千代田「ちょ…?!ダメだよお姉?!」

千歳「すいません、取り敢えず生…」

瑞鳳「今任務中なんですよ!」

—瑞鶴 s i d e —

瑞鶴（どういう事…結婚して3年経つけどあんな飲んだくれだつける?でも…これで提督さんを捕まえやすくなつたわね…）

—提督 sidel

提督（これだけでは不十分…もうひと手間だな）
—デパートから出た後…—

提督「あいつら…随分油断してるな…」

千歳「千代田…なんで飲ませてくれなかつたの…」ズーン…

千代田「任務中にお酒飲むなんてダメでしょ！」

瑞鶴「でも初めて見たわ…あんな昼間から酒飲んでる提督さん…」

瑞鳳「まあ、チームメンバーが攫われちゃね…しかもちよつと千鳥足になつてない？」↑千鳥足は演技

提督「…さて…もう少し油断させるか…次の店に行こう」

グラス『またお酒ですか？』

提督「ああ、俺行き先のバーに行く」

グラス『私達はどうすれば？』

提督「B A Rから出た所を囲んで捕まえる。場所を伝えるから近くに来て欲しい」

グラス『わかりました』

—バー—

バー テンダー「おまたせしました。『シンデレラ』です」※パイナップル、オレンジ、レモンジュースを混ぜたノンアルコールカクテル

提督「ありがとうございます。あとミルクセーキ、サラトガクラーラーもよろしく」※どちらもノンアルコール

提督（というかあいつら入つてきてないのか…）グイツ…

—瑞鶴 sidel

瑞鶴「…あのバーに入つて30分近く経つけど…」

瑞鳳「あ、出てきた」

千歳「うう…あんなにお酒飲んで羨ましい…」

千代田「ほら、早く捕まえるよ！」

一路地—

提督「…」

瑞鶴「…」

提督「…あの、何か？」

瑞鶴「いえ、なんでもないですよ」ブーン： チラツ：

提督「…お前、ずっと俺を着いてきてるだろ。デパートからさつきのバーまでずっと…お前は艦娘だ」

瑞鶴「な…何を証拠に？」

提督「お前はちらりとあの方向を見た。用心深く偵察してる…あの方向にあるのは彩雲だ」

瑞鶴「…ちつ…やつぱり気づいてたのね。皆！」

瑞鳳「…提督」

千歳「恩はあるけど…」

千代田「捕まつてもらうよ！」

瑞鶴「今まで赤城さんや私たちを侮辱して…許さない！こんな男に惚れた私が馬鹿だったわ！」ギリツ↑弓構え

提督「おいおい…こんな場所で弓構えるのかよ」

瑞鶴「あんたなんて爆撃してやるんだから！」バシユツ！

瑞鳳「ええ?! いきなり爆撃!?!」Σ(ノ。 ;ノ)/

瑞鶴「第一次攻撃発艦！目標ここにいる裏切り者!! 赤城さんと艦娘達の悲しみ怒りを思いしれ！」

提督「…やるしかない様だな」↑構え

→ウマ娘 side-1

グラス（なんですかあれ…）

スカイ（スピカのトレーナーさんってあんな怖い奥さんと結婚してたんですね～）

ブライアン（…やれやれ）

マヤノ（あんな大人の女性…マヤ知らない…）

↑… To be continued

#49 一士道ー

瑞鶴「提督さんに打つ手はない！どうしようもない！勝った！頭を吹き飛ばす！トドメだ喰らえ！岩本隊!!」バシュツ！

瑞鶴（いくら提督さんでもこの量は避けきれない！）→慢心

提督「…なるほど…それなら…」↑小型銃

瑞鶴「拳銃なんて通じないわよ！」

提督「違うな」カチツ！

グラグラ…ガシャ！ガシャ!!↑艦載機が墜落

瑞鶴「?!何で?!」

提督「…電磁波…艦載機に超強力な電磁波を流したことで計測器などに影響を与えた。明石が超強力な電磁波を流す銃を持たせてくれたな」

※携帯を飛行機でつけては行けないのはこれと同じ理論です。大戦末期にも日本軍がアメリカの艦載機にやろうとしてたとも…（結局出来なかつたが）。

瑞鶴「くつ…こうなつたら！」ダツ！

提督「向かつてくるのか…逃げずにこの俺に向かつてくるのか」

瑞鶴「近づかなきやあんたをぶちのめせないでしょ！」ブン！ブン！

瑞鳳「瑞鶴さん！出過ぎです！」

瑞鶴「煩い！こいつは私が蹴りをつけてやる！」ブン！

提督「…」サツ！サツ！

一ウマ娘 sideー

スカイ「ありやりや？全部避けてるよ

ブライアン「…極度に相手の手の内を見極めてギリギリで避けて

る」

キング「…」

提督 sideー

提督「おい、瑞鶴。俺の話を聞け！お前達は誤解してる！」サツ！サツ！

瑞鶴「うるさい！裏切り者の言葉なんて聞きたくないわよ！ウマ娘に浮気した口利コン野郎！」ブン！ブン！

提督「仕方ない…こうなつたら強行手段だ！」ガシツ！

瑞鶴「?!」

提督「お前には少し黙つて貰うぞ！」ブン！↑一本背負い

瑞鶴「えつ?!うわあああ?!」

瑞鶴「ガツ?!」

提督「…来てもらうぞ」

瑞鶴「」↑氣絶

千代田「瑞鶴?!」

千歳「流石に仲間がやられてこのまま黙つてているのは…ね」

瑞鳳「瑞鶴を助けるよ！」ダツ！

提督「…こい！」

ダダダ…！

千歳「提督、覚悟！」

千代田「はあああ！」

瑞鳳「提督覚悟！」

? 「…」

ガキッ！

瑞鳳「?!」↑パンチを防がれた

グラス「…1人を多数で襲うとは武士道の欠片もありませんね。私が相手しましよう」↑薙刀

グラス「スペちゃんと達を誘拐した報いを受けて下さい」

※安価を取ります。

どうなつた?」 476

(なんでも構いません。ちなみに艦娘の周りは既に囲まれています)

グラス「…さあ、覚悟してください」

瑞鳳「ま…負けないよ！」ブン！ブン！

グラス（なるほど…単調な動きですね…という事はさつきの飛行機

…あればこの人たちの肝のようですね）ガキッ！ガキッ！

千歳「痛た…この子柄で全部受け止めてるわ…」

千代田「ちよつと！武器なんて卑怯よ！」

グラス「…卑怯？何もしてないスペちゃんと誘拐したのは卑怯じやないんですか！」ブン！

瑞鳳「えつ?!ちよつまつ…があ?!」↑グラスの薙刀の嶺が頭に直撃

千歳「瑞鳳?!きやあ?!」ドカツ！↑横腹に直撃

千代田「お姉?!きやあ?!」ドガツ！↑肩に直撃

グラス「…制圧完了ですね」

艦娘「

提督「まあ、本当は囮んで捕獲するつもりだつたが結果オーライだな」

ダスカ「で…この子たちどうするの？」

ウォツカ「4人だぞ…」

提督「こいつらには聞きたいこともあるし、取り敢えず連れていく

う

ブライアン「…重いな…」

マヤノ「こつち誰か持つて～！」

キング「キングが持つて差し上げるわ」

ー？ー

フジ「まあ、何があつたかは聞かないよ。まあ、それならうつつけの場所があるよ」

提督「…それがここか…」

フジ「そう、地下牢」ガラガラ…

※地下牢…ウマ娘公式漫画、starting gateにも書いてある。

ダスカ「な…なんか不気味ですね…」

フジ「まあ、私も滅多に入らないからね…」

ブライアン「で…こいつらどうする？」

提督「下着にして拘束椅子に括りつけてくれ」

エル「了解デース」ガチャガチャ…

グラス「下着にしちゃつていいんですね…」

提督「いいよ、出撃した後服破れて下着丸出しになつてるし…」

ダスカ「…この子達、どんなところで働いてるのよ…」

スカイ「フーン…以外と派手だね…」

キング「そんなまじまじと見ない！」

—20分後—

瑞鶴「う…う…?こは?」

提督「よお」

瑞鶴「! 何これ…外しなさいよ!」

提督「これからお前に質問する。素直にこたえろよ。質問は…」

提督「既に拷問に変わっているんだからな。いくら俺でも嫁は傷つけたくないからな」↑竹串

瑞鶴「ぐつ…」

↑…To be continued

#50 一兆候ー

提督 「さて…お前に質問する」

瑞鶴 「…答えないわよ」

提督 「…そうか」

瑞鳳 「ん…ここは…」

千代田 「な…何これ?!」

千歳 「こ…これは恥ずかしい…」 カアア…

提督 「起きたようだな」

グラス 「…なんでスペちゃんを攫つたんですか?」

瑞鶴 「…」

エル 「話すデース!」

瑞鶴 「…」

瑞鳳 「瑞鶴、何か話した方が…」

瑞鶴 「こんな裏切り者に喋ることなんてないわ」

提督 「…そ…うか。俺はサディストでも拷問マニアでもないから心が

痛むが…やむを得ないな」 ↑竹串

瑞鶴 「な…何するのよ…」

提督 「え? お前の指に竹串を生やすのさ」

瑞鶴 「?! ほ…本気?!」

提督 「まじだよ。俺、敵には容赦しないからな

瑞鶴 「待つて! それは嫌!」 ギュツ…

提督 「…バット」

ブライアン 「ああ」 パシッ

提督 「オリヤ!」 ドガツ! ↑手の甲叩き

瑞鶴 「痛つた!!」 ↑手を開いた

提督 「よつ…」 ガシツ…↑瑞鶴の人差し指掴み

瑞鶴 「?!」

提督 「…こんな女子がいる所で拷問したくないんだがな…やむを得

ないな」 ↑指に近づけ

瑞鶴 「ま…まつて! まつて! お願ひ!!」

瑞鳳「や……やめてあげて！」

ダスカ（あいつ……怖い……）

ウォツカ（結構えげつねえな……）

提督「指の先には神経が集まってる。ここを責められたら……どうなるかね？」

瑞鶴「わ……分かった！話すから！話すからやめて!!」

提督「そうか」スツ：

瑞鶴「うつ……うう……」エグツ・エグツ・

グラス「結構Sなんですね……」

提督「こんなのが拷問のこの字にもならないけどな。本当だつたら全部生やした後に爪剥がして四肢切断するんだからな」

スカイ「う……」

キング「気分が悪くなってきたわ……」

提督「じゃあ話してくれ」

瑞鶴「助けて赤城さん……加賀さん……翔鶴姉……」

提督「……なんでスペ達を攫つた？」

瑞鶴「うつ……うつ……2人を尾行してたら気づかれてやばいと思つたから……」

提督「……この指導者は？」

瑞鶴「……私達結婚艦娘……」

提督「……スペ達は？」

瑞鶴「鎮守府で私たちと暮らしてる……特に危害は加えてない……」

瑞鳳「ほ……本当だよ！」

提督「……おい、入つてこい」

萩風「……皆さん……」

嵐「なあ、少しは司令からの話を聞いてやつて欲しいんだ」

瑞鶴「……分かつたわよ……」

——10分後——

瑞鶴「……そ……だつたんだ……私なんて事を……」

提督「まあ、お前がやつた事は逮捕罪、誘拐罪、監禁罪その他諸々だが……まだ世間には艦娘が誘拐したということは伝わっていない。俺

が規制してゐるからな…」

ダスカ「…できるのそんな事…」

提督「知り合いのハツカーと情報屋に情報をストップさせてる。ウマ娘が誘拐されたことに関して全て削除してゐるからな」

ウオツカ「まじかよ…」

提督「軍の力は強力だ。真実の一つ二つは消せる程に。それを今回利用した。このまま行くと双方に利がないどころか害が出る」

千代田「…害つて何?」

提督「艦娘側は先程の罪もそうだが、トレセンにも不法侵入、誘拐、窃盗、監禁、逮捕罪が成立してゐる。スカーレット、お前鎮守府から車で脱出しただろ。同乗者にも無免許運転は適用される」

ダスカ「なつ?!」

提督「G P Sで車が何処にあるか俺にはわかる。艦娘は憲兵に捕まつて軍法会議、ウマ娘はこのままじや逮捕だぞ」

ダスカ「嘘でしょ…」

フジ「だけど…この場合仕方ないんじや…」

提督「仕方ないけどしようが無いな。だが…この状態を何もなかつた状態にする方法がある」

グラス「…その方法とは…」

提督「…それは…」

カクカクシカジカ…

提督「…という事だ」

ウオツカ「…それに賭けるしかないか…」

千歳「…私達はどうするの?」

提督「お前らにはここで俺と生活してもらう。そしてアイツらとの交渉役だ」

瑞鶴「…分かったわ。罪は償うわ」

提督「ああ、ここからは俺の領分だ。それから艦娘をここに誘き出す。まるで穴熊や狸を巣から炙り出すようにな。名付けて…『燻り出し作戦』だ」

—鎮守府 side—

スペ「…お…お母ちゃん達が見えかけました…」→2日間寝込んだ
吹雪「酷い目にあいました…」

スズカ「スペちゃん大丈夫?」

スペ「すいません…まだ気持ち悪いです…休ませてください…」
うえつ…

加賀「…何かしら?」ブルル…ピツ!

伊勢『ごめん…瑞鶴と繋がらない…他の子も…』

加賀「…連れ去られたのね…」

日向『すまん…どうする?』

※安価を取ります。

どうする?」〉491

(なんでも構いません)

加賀「…赤城さん、どうしますか?」

赤城「伊勢さん、日向さん、一度帰ってきてください」

伊勢『分かった』プチッ…

赤城「…もうこうなつたら最終手段ですね…10日後に行動を起こ
しましよう」

吹雪「だ…だめですよ!そんなことして騒ぎになつたら…」

赤城「…でも…私はあの日々に戻るのが怖いんです。人の扱いをさ
れないあの日々…吹雪さんもそう思いませんか…」

吹雪「で…ですが…」

赤城「…今でも寝ているとたまに思い出すんです…あの悪魔にい
ようにされて何も出来ない私が…皆さんが私を責めてくる幻覚が…」

赤城「…もう…嫌なんです…提督に見捨てられたくない…」ブルブ
ル…

吹雪「赤城さん…」

加賀「…赤城さんが1番前任の嫌がらせを1番受けっていたものね
…」

赤城「…元々提督に近づいたのもどんな人なのか自分で調べる必要
があつたからです。もし前任と同じなら…殺してやろうと思いまし
たよ。でも提督はその事について気づいてました。気づいて私に

優しくしてくれました」

赤城「…私がおかしいのは分かつてます。本来であるならば提督に連絡を取るべきだった…私は…どこで間違つてしまつたんでしょうね…」

加賀「…あなたが人一倍責任を感じているのは私も分かります。私もあなたを止めるべきでした。私もあるの時焦つていたから…」

赤城「…私は決着を着けようと思います…提督へと、そして私のために…」

赤城「…10日後にトレセン学園に行きます」

↑……To be continued

一番外編】

ルドルフ「…しかし、トレセン学園とは違つて色々な施設があるな」

グルーヴ「はい、以前来た時には気が付きませんでした」

ルドルフ「…あれはなんだ?」

ティオー「どうしたのカイチヨー」

小さなお店「

グルーヴ「…看板に何か書いてありますね。暖簾に『鳳翔』と書いてあります」

ルドルフ「…食事処か…小腹がすいたし少しいつてみよう」

グルーヴ「はい、お供致します」

ティオー「なんで軍の中にお店があるんだろう」

一居酒屋鳳翔】

ルドルフ「…」ガラガラ…

鳳翔「あ、ここにちは」

ルドルフ「ここは?」

鳳翔「ここは私のお店です。艦娘の皆さん方がお酒や料理を楽しむ場

所です」

グルーヴ「つまりここは居酒屋…」

鳳翔「居酒屋に近いですね。でも駆逐艦の子達もよく来ますよ。どうぞお座り下さい」

ルドルフ「そうか…では失礼するよ」

グルーヴ「…何かおすすめはありますか」

鳳翔「そうですね…漬け丼はどうですか？今朝漁師さんから頂いたものを漬けておきました」

ルドルフ「じゃあそれを頂こう」

ティオー「漬けって何？」

グルーヴ「カツオやマグロを醤油に漬けて保存、味付けする物だ」

ティオー「ふーん…じゃあこれちようだい」→海鮮丼

グルーヴ「私は刺身の盛り合わせを」

鳳翔「はい、分かりました」

—20分後—

鳳翔「お待たせしました」コトツ…コトツ…コトツ…

ルドルフ「おお、では早速頂こう」パクツ…

ルドルフ「…うん！これは美味しい！」

ティオー「これ美味しいね！」パクパク…

グルーヴ「はい、しかし何故ここにお店を構えているのですか」

鳳翔「私はこの艦隊の中でも早く着任しました。しかし私は他の子達より力不足であり、皆さんを送ることしかできなかつたのです」

鳳翔「そんな時に提督が『鎮守府の中でお店を開いたらどうだ？』と提案していただいたのです。私もこの小さなお店で皆さんの話し相手に少しでもなれたらと言うことで話をお受けして今ここにいるのです」

鳳翔「…前の提督は皆さんに暴力、虐待をして皆さん的心は暗くなつていましたが、提督はそれを改善して下さり今こうして生活出来ています」

ルドルフ「そうですか…辛いことを聞いてしまいました」

鳳翔「私はあなた達ウマ娘と艦娘の皆さん分かり合えると思っています。本当にご迷惑をお掛けしました」

ルドルフ「鳳翔さん…あなたが謝る必要は…」

鳳翔「…もし、私に協力できること後あるならなんでも仰つてください」

ルドルフ「…ありがとうございます」

#51 一緊張ー

一鎮守府、風呂場ー

ティオー「…熱い…」

ルドルフ「蒸し風呂だからな。しかしこの蒸し風呂はいいな。汗がどんどん出てくる」

ティオー「…この塩何?」

グルーヴ「聞いたところによると肌の上に置くらしいが…」※置く程度でOK、揉み込むと肌が傷つきます

ルドルフ「…トレセン学園にも欲しいものだ」

グルーヴ「こんな物お金が幾つかつても足りません」

ルドルフ「言つてみただけだ」ハハハ…

グルーヴ「…ここは種類が豊富ですね。軍事施設とは思えません」
ルドルフ「さすがスピカのトレーナーか。戦力を維持させるための努力と言えよう」

ティオー「…そういうえば聞き耳したんだけど10日後にあの人たちトレセン学園に行くらしいよ」

ルドルフ「…何をするかは分からぬが、生徒達に何かあれば…」
グルーヴ「しかし、囚われの身ではどうしようも…」

ティオー（そういえば言つてた：あの子が…）

時雨（艦娘とつて戦うことが存在意義なんだ）

村雨（冷たい海の中に一人で沈む寂しいものかわかる？）

ティオー（あの子達の事もわかる気がする…死ぬのは僕だつて怖い…あの子たちはいつも生死の境をさまようような場所に行く。今日生きてても明日死ぬかもしれない…だから優秀な人が必要なんだ…）
ティオー（でも…他に出来ることがあつたんじやないかな…話し合いとか…ほかの…あれ…頭がクラクラしてき…）バタツ

ルドルフ「?!ティオー！」

グルーヴ「たわけ…！会長と同じ時間に出ようとするからのぼせるのだ！早く運びましょう！」

ティオー「きゅ…」

—提督の借家—

瑞鶴「…」

—数時間前—

提督「その策を行うのに少なくとも10日はかかる」

ダスカ「もっと早く出来ないの?」

提督「無理だ。折衝だけにも7日はかかる。予備交渉で3日だ」

ウオツカ「…これからは仕方ねえな」

提督「…瑞鶴、罪を償うと言つたな?」

瑞鶴「う…うん…」

提督「…あいつらが攻めてきたらお前達がこの子達を守れ」

—提督の借家—

瑞鶴（そう言うけどね…提督さん、さつきまでバチバチだつたのよ
…）チラッ：

提督「…」Zzz…

瑞鶴「…久しぶりに提督さんと寝たな…」

瑞鶴「…おやすみ、提督さん。私は…私で責任を取るよ。例え皆に
恨まれようとも…」

—トレセン学園—

マヤノ「ねえ、この飛行機の名前つて何?」

瑞鳳「これはね…九九艦爆と言つて足が可愛いんだよ」

マヤノ「これは?」

瑞鳳「それは烈風だね」

マヤノ「ふーん…かつこいいね!」

瑞鳳「マヤノちゃんと飛行機の話をしてると楽しいよ!なかなか艦
娘でも飛行機の話する人が少なくてね…」

マヤノ「そなんだ…」

瑞鳳「お礼に卵焼き作つてあげる!たべりゅ?」

マヤノ「食べたい~」

—10日後、朝—

提督「…言つてくるおそらく昼頃には帰る」
千歳「わかりました」

ダスカ 「あんた、誰か来たらどうするのよ?」

提督 「…これを渡しておく」

ウオツカ 「…卷物?」

萩風 「司令はいつも作戦内容を卷物にまとめますね…」

ダスカ 「…これは…」 ベラツ…

提督「あいつらの性格とか書き記した。まあ…使わないことに越したことはないが」

提督「そしてお前達、あいつらが攻めてきたら説得役だ。決裂した
ら…」

瑞鳳 「守れ…つて事ね」

提督「帰つてきたら死屍累々、灰燼に帰していたとかはやめろよ

ブロロ…!

ダスカ 「…長いわね。一応ブライアンさんに渡しておきましょ
うか」

—2 時間後—

赤城 「…」

吹雪 「司令官がいればいいですが…」

加賀 「まあ…対立が起こらないことには越したことはないわね」

ズラ～…↑艦娘

→後ろのバスー

ティオー 「…トレセン学園に来たけど…」 →見張り付きでバスの中
に待機

スペ 「ま…まるで…」

マックイーン 「ええ…」

スペ、マックイーン 「正月の福袋を買いに来た人達みたい…!」

ゴルシ 「おい、もつといい例えがあつただろ」

ルドルフ 「どちらかと言うと力チコミだな」

キタブラ (見てるだけで何も出来ないなんて…)

→トレセン学園、正門ー

ブライアン 「…ちつ…あいつが来る前に來たか…」

赤城 「…ここにスピカのトレーナーはいますか?」

ブライアン「今、ここにはいない」

赤城「そうですか」

加賀「…なら一度引きましょうか」

ワラワラ…↑ウマ娘集合

ファイン「あれはなんですか?」

S P隊長「殿下、お下がりください。何か危ない気配がします」

フジ「こっちが先に来ちゃつたか:」

ファルコ「何あの人だかり? ファルコのファンかな?」

ブルボン「…あれは…」

グラス「…来たようですね」

スカイ「ええ…」

こうしてトレセン学園の正門を挟み、ウマ娘と艦娘が向かい合う形となつた。

ー提督 s i d eー

提督「…元帥。用意はしてくれましたか?」

元帥「ああ、あと…」

男「ん！」↑縛られた人

元帥「お望みの品だ」

提督「ああ、こいつが張本人ですか」

元帥「ああ、調べはついてる。軍としても内密にやるつもりだつた。今日は君が要望したようだからな」

提督「ありがとうございます」チャキッ…

元帥「それと…1つ確かな情報がある。これも交渉に使えるだろ

う

……

提督「…なるほど…仕方ありませんね」

元帥「わしは行く。それと今回の件については軍が賠償金とその他諸々を出す。君は心配するな」

提督「…分かりました」

ー2分後ー

提督「おいクソ野郎。最後に遺言だけ聞いてやる」

男「お…お前が悪いんだ！お前ばかり活躍するから俺の活躍の場が

…ぶつ?!」↑殴られた

提督「…救いようがないな。だから俺に刺客を送つて来たのか」

提督「やるなら戦果で結果を示すべきだつたな。俺の艦娘だけなく担当のウマ娘も巻き込んだお前の罪は重い」

提督「死を持つて償え」力チャヤ：

↑… To be continued

#52 一開戦ー

一正門ー

赤城「みなさん、撤収です」

金剛「待つデース」

ブライアン「?」

金剛「この子達が嘘ついてる可能性がありマース

ブライアン「いや、今朝からここにはいない」

曙「有り得るわね。私達からクソ提督を取ったんだから」

マルゼン「本当よ」

赤城（まずい：このままじゃ衝突が…）

時雨「…話にならないね。ここを探させてもらうよ」

ドーベル「ここは関係者以外立ち入り禁止よ」

村雨「隠し事してるんじゃない？」

比叡「司令を隠すのは！許しません！」ダツ！

ブライアン「おい！止める！」

叢雲「強行手段よ！」ダツ！

ブライアン「ちつ！おい早くバリケードを…うわっ?!」

長門「探させてもらうぞ！」

ウマ娘「な…何この人たち…きやああああ?!」ブン！

ウマ娘2「うわあ?!」ドガツ！

艦娘「入れ！提督を探せ！」

ブライアン「全校生徒に告ぐ！こいつらを止めるぞ！」

こうして赤城や吹雪の思惑とは別に衝突が発生した。本来であるならば赤城はここで撤収するつもりであつたが、統率が取れないまま合戦へと発展した。

赤城「吹雪さん！加賀さん！大和さん！早く止めますよ！」

大和「分かつてます！ですが、全く統率が取れません！」

吹雪「これじゃあ暴動です！」

加賀「くつ…落ち着きなさい！」

艦娘「瑞鶴さん達を返せ！提督を返せ！」ドドド！

※安価を取ります。

この戦いでの出来事…」 502

(最終決戦なので艦娘 vs ウマ娘の戦いをやろうと思います。組み合
わせとか提案すればやりたいと思います。出来れば勝敗も)

例 グラス vs 神風、神通（引き分け）など

そもそも力が違う。吹雪1人の馬力だけでもはウマ娘6万人に匹
敵する。あつという間にウマ娘が学園内になだれ込んできた。

長門「どけ！」

ブライアン「ふん！」 ドガツ！

長門「ほう…やるな…」

ブライアン（なんだこいつは…ビクともしない…）

長門「だがこの程度、蚊に刺されたようなものだ。フン！」 ドガツ

！

ブライアン「ぐわあ?!」

マヤノ「ブライアンさん?!」

金剛「邪魔デース！」

ウマ娘「きやあ〜！」

ウマ娘「助けて〜！」

グラス「このままでは…！」

エル「?!グラス！」

神風「…！」

龍田「あら〜？」

グラス「覚悟！」

神風「はあ！」 ガキッ！

グラス（し損じましたか…）

神風「…貴方も薙刀を使うのね」

グラス「…いざ、尋常に一騎討ちといきましようか」

神風「…望むところよ」 チヤキッ…

別の場所ー

ファルコ「スズカちゃんを誘拐したのはあなた達だね！」

那珂「艦隊のアイドルは、誘拐なんてしないよ！」

ファルコ「ムムム…ウマドルの方が人気だもん！」

那珂「那珂ちゃんの方がファンが多いし！」

2人「ムムム…」

那珂「こうなつたら…」ブン！↑マイク

青葉「あ…あれは！」

衣笠「知ってるの?!」

青葉「ヨーロッパの貴族が決闘を申し込む時に手袋を投げるよう アイドルが対決する時にマイクを投げるらしいです！」※元ネタはア ニメ艦これ

パシツ！

霧島「マイク音量大丈夫？チエツク…ワンツー…よし、どうぞ」

ファルコ「あ…ありがとうございます」

一別の場所↓

タイキ「スズカを攫つたのはあなた達デスネ！」

アイオワ「…You are American?」

タイキ「…！」

サラトガ「… Where is the Admiral（提督

はどこ？）？」

タイキ「… Do not know（知らない）」

アトランタ「… Retreat there（そこを退きなさ

い）」

タイキ「I refuse（断るわ）」

ワシントン「… There is no choice（なら仕
方ないな）」

タイキ「… カチヤ

ジョンストン「Guns don't work for us

（私達に銃は効かないわよ）

タイキ「…やつて見なきや分からぬデース」

アイオワ「なら遠慮なく行かせて頂きマース！」

↑…To be continued

#53 一修羅ー

一グラス sideー

グラス「…巴形薙刀…私と同じ物ですね」

神風「…」

巴形薙刀：巴御前が使っていた型と言われている薙刀。身幅が広く、反りが大きく攻撃力が大きい。

グラス（薙刀を構えて分かる…この人から今までどれだけ戦つてきたということが…）

グラス（横の人（龍田）はもつと血の臭いがする）

グラス（今にも震えるような殺氣…力強く握りしめないと体が震える…だけど…不退転…ここで引くわけにはいかない…！）

神風「…用意はいいですか？」

グラス「…」スツ：

神風「では…参ります！」

グラス「はあ!!」ガキッ！

※安価を取ります。

薙刀1回戦、勝敗は？〉〉 522

1 神風の勝利

2 引き分け

3 グラスの勝ち

（下二つのどちらか場合、この後、神通 o r 龍田に変更します）

グラス「はあ!!」ガキッ！

神風「…」ガキッ！ガキッ！ガガガ…！

グラス（まともに攻撃してない…守りに徹してる?）ガキッ！

神風「…なるほど…」

グラス「…?」

神風「確かに型に沿った戦い方。普通にやれば貴方はかなり強いでしよう」

グラス「…それがなんですか」

神風「…だけど、それはあくまで相手を完璧に型にはめない限り勝て

ない…特に我流を使う私の前では…」

グラス「…」ダツ！

神風「勝てないわよ！」ガキッ！

グラス「?!」ズガガガガ!!!↑数メートル吹っ飛んだ

スカイ「グラス?!」

神風「…今のは手加減してたのよ」→艦装

グラス「ぐつ：（手が痺れてる…）」ビリビリ…

神風「もうその手で薙刀を持つのは不可能ね。あなたの負けよ」

グラス「…ま…まだです…スペちやん達を返してもらうまでは…」

スツ：

神風「…どうして…ウマ娘というのはこうも負けず嫌いなのかしら」

神風「なら完膚なきまでに叩きのめすまで！」スツ：

神通「待ってください。私が相手します」

神風「神通さん?!」

グラス「ぐつ…」

神通「あなたの覚悟、分かりました。なら…私が相手しましよう」

グラス（左手薬指：指輪…）

グラス「…貴方も結婚艦娘ですか…」

神通「はい、結婚しますよ」

グラス「…テレビで見たことがあります。確か名前は…」

神通「神通です。私の刀で貴方を負かしましょう」

神通「私が刀を抜いて生きていた人はいませんがよろしいですか？」

グラス「…望むところです」

キング「ダメです！引き返しなさい！」

グラス（みんなを守れず…何が不退転ですか…!）

神通「…では始めましょうか」スツ：

一提督 s i d e 1

提督「…ようやく終わつた…というか何だこの着信回数…」プルル
…プルル…

提督「はい…『ちょっとあんた!』スカーレットか?！」

ダスカ「こつちにあんたの子達がカチコミに来てるわよ！早く来なさい！今どこにいるのよ！」

提督「ちつ…あいつら先走ったか。今から急いでも20分は掛るそれまで待て！」

ダスカ「分かつたわ」ピッ

提督「あいつら…！」

提督「タクシー！」

ガチャ…

運転手「お客さん、どちらまで？」

提督「トレセン学園まで！」

一グラス side-1

グラス「はあ…はあ…」

神通「…」

グラス（…軽くいなしてる程度…攻撃する訳でもなく只躲している…）

神通「…もう分かりました。満足です」スツ…パチツ！

グラス（抜刀術…）

神通「…」ダツ！

グラス「ぐつ…！」→薙刀構え

神通「はあ！」ガキッ！ズバツ！

グラス「?!」

スカイ「薙刀が切れた?!」

神通「…同じ所で受けてたら脆くなりますよ。薙刀はや長巻はその長さゆえ相手を圧倒できるもの…あなたに打つ手はありません」

グラス「ぐつ…がつ…」

神通「完全なるトドメを差しましょう」スタスタ…

グラス（逃げれない…スペちゃん…ごめんなさ…）→峰打ち
ガキッ！

エル「グツ…！」→バツトで受止め

グラス「エル?!」

エル「グワッ?!」↑吹っ飛ばされた

エル（バットが…凹んだデース）

神通「…1度目は受け止められても次はどうですか？」

キング「やらせないわよ！」

スカイ「流石に仲間を守らないのはね」

神通「…」スツ：

神通「！」ズタダダダダ!!

神通「…艦載機？」

瑞鶴「…」

神通「…どういう事ですか」

瑞鶴「…提督さんから頼まれたからね…」

神通「この子達は関係ないですよね。それにあなたを誘拐した子ですよ」

瑞鶴「…もし力を持つ者が力無き者を攻撃してたら庇うなりなんなりする。誰だつてそうする、私もそうする」

神通「…あなたも提督に毒されたんですね」

瑞鶴「…まずは私の話を聞いて。そしてその武器を下ろしなさい」

神通「ええ、いいですよ。ただし納得出来たらですけどね！」ダツ

！

瑞鶴「ちいっ！」

瑞鶴「…あんた達、早く逃げなさい」

エル「し…しかし…」

瑞鶴「早く行きなさい、今の神通はやばいわよ！」

キング「グラスさん！大丈夫?!」

グラス「な…何とか…」

神通「邪魔建てするならば…！」

萩風「はあ！」ガキッ!!

神通「…貴方もですか」

萩風「お願ひします。話を聞いてください！」

神通「なぜ庇うんですか」

嵐「司令の話を聞け！」

神通「あんな男の話を聞きたくありませんので、覚悟してください」

瑞鶴（ああ、もう堅物！）

瑞鶴「こうなつたら赤城さん達と話すしかない！」

萩風「ここは食い止めるので行つてください！」

瑞鶴「分かつたわ！」

萩風「瑞鶴さんの邪魔はさせませんよ」

神通「…ですか」

↑……To be continued

#54 一熱戦ー

ー提督 s i d e ー

提督「まだ着きませんか！」

運転手「まだあと10分はかかりますよ！」

提督（あいつら、早まらないといいが…）

ー校舎前ー

ライアン「な…なんですか」

アルダン「穩やかではないですね…」

ドーベル「マックイーンを返して」

長門「ここに居るのだろう」

ドーベル「だから居ないわよ！」

伊勢「なら家宅捜索させて貰うよ」

ライアン「ここは通さないよ！」

日向「怪我をしないうちにどけ」

アルダン「私は非力なれど…マックイーンさんを返してもらう為に
ここは…」

は…」

ブライト「学園内までは入らせませんわ〜」

※安価を取ります。

どうなつた?」 535

1 突破された

2 誰か助つ人に参戦

3 防いだ

ライアン「とにかくここには入らせませんよ！」

長門「そ…か…なら…」

長良「私達も手伝うよ」

武藏「私がやろう」

ドーベル「だ…誰?!」

武藏「…喰らえ! 15万栗田パンチ!!」 ドガツ!

アルダン「！ ライアンさん！ 避けて！」

ライアン「うわあ?!」サツ！

ドガツ！バリーン！↑ドア粉碎

ドーベル（な…なんて力よ…）

長門「流石だな。探すぞ」

ブライト「↑氣絶

ライアン「あわわ…」

アルダン「…」↑腰が抜けた

ーファイン s i d e -

S P 隊長「なんとしてでも殿下を守れ！」

S P 「大丈夫ですか！ 殿下！」

ファイン「私は大丈夫だけど皆が…」

叢雲「あら…まだ居たのね」

ファイン「貴様へ！ 何者だ！」

叢雲「そうね…通りすがりの艦娘…とでも言つておこうかしら」↑

槍

S P 「殿下！ お下がりください！」

ファイン「…急に襲つてきて何がしたいの」

叢雲「ここに居るボケを返してもらいに来たのよ。隠し立てするなら…容赦しないわよ」

ファイン「…！」

叢雲「まずはその護衛から剥がしてあげる！」

※安価を取ります。

どうなつた?」 537

(なんでも構いません)

S P 「殿下に近付くことなど…きやあああ?!」↑宙に舞つた

叢雲「殿下に近づくななど…何?」

S P 「殿下をまも…ぐばつ?!」

叢雲「張合いがないわね」

ファイン「ぬぬぬ…」

? 「待ちなさい叢雲。私が相手します」

叢雲「…あんたは」

ファイン「貴様へ。何者だ」

アーク「まさかここに居たとはな…」

ウォース「隣国のプリンセスがここにいるとはね…」

S P隊長「ま…まさか…ウォースパイトイギリス国王殿下?!」

ウォース「H e l l o . I t , s a m a z i n g t o m e
e t i n a p l a c e l i k e t h i s (こ ん に ち は 、 こ

んな所で出会うとは驚きです)」

ウォース「アイルランドと我が国の因縁…ここで決着をつけましょ

うか」↑女王の眼光

アイルランドとイギリスの因縁は16世紀ごろまで遡る。ヘンリー八世（エリザベス一世の父）のイギリス国教会やジャガイモ飢饉によつて今でもアイルランドとイギリスの中は非常に悪い。

ウォース「アーク、ヴィクトリアス、シェフィールド。お願ひします」

アーク「O K 、 S w o r d f i s h 発艦始め！」バシュツ！

ヴィクトリアス「やれやれ…やるか」バシュツ！

シェフィールド「了解」

S P「くつ…」

↓5分後↓

S P隊長「で…殿下…お逃げ…」ガクツ

ファイン「こ…これが…イギリスの本気…」

ウォース「…貴方は1つ勘違いをしてる様ですね」

ファイン「えつ…」

ウォース「私達がいつから100%の力を出していると思いましたか？」

ファイン「そんな…」

ウォース「この程度1／1000も出していませんよ。さて…貴方を追いかけ回しましようか。こう見ても追撃戦は得意なんですよ」

ソードフィッシュ「…」

ファイン「う…うわああ?!」ダツ!

アーク「ビスマルクさえ逃げきれなかつたSwordfishの力を舐めるな」

ファイン「たゞ助けて〜！シャガール！」ダダダ！

↑...To be continued

#555 一終戦一

艦娘が優勢で戦いを進める一方、反撃に出る者もいた。

ハヤヒデ「ブライアン！」↑バット

ブライアン「姉貴、助かつた」パシツ！

臯月「司令官を返して！」カチャ！↑銃構え

ブライアン「ちい！」ブン！↑バット投げ

臯月「えつ？あいた?!」ガン！↑critical! 1

ブライアン「他の奴らを傷つけることは許さないぞ」

タマ「あ、あ、あ、!!君らのせいでめちゃくちゃやや！」

黒潮「なんや？」

龍驤「ほお…同じ臭いがするで…」

黒潮「いや…龍驤はん、あんた関西生まれじやないやん」

ドトウ「うわああ?!退いて退いて〜！」ブンブン！↑鍼振り回し

望月「うわあ?!なんだし?!」

各地でウマ娘と艦娘が戦う混戦状態となつた。

—瑞鶴 s i d e —

瑞鶴「赤城さんはどこ…」

瑞鶴「…！見つけた！」

加賀「…！瑞鶴?!」

吹雪「無事だつたんですね！」

瑞鶴「そんな事より赤城さんは！」

赤城「瑞鶴…さん…」

瑞鶴「赤城さん！私の話を聞いてください！提督さんは…」

—2分後—

加賀「それは…本当なの？」

瑞鶴「うん…証拠もあつたし。それにここに提督さんはいないから今すぐ軍を引いて！」

飛龍「無理だよ！完全に交戦状態になつてる！神通とかも真っ先に飛び出して言つたよ！」

古鷹「ここから水偵飛ばしても皆に届くのは時間が…」

瑞鶴「これ以上犠牲が出る前に戦いをやめないと…それに…」

蒼龍「それに…？」

瑞鶴「あと提督さん5分ぐらいで大本営からここに帰つてくるよ！」

嫁艦娘「?!」

赤城「…」クラツ…↑顔が真っ白

加賀「赤城さん！」

ドーン!!ガシャーン!!

蒼龍「何事?!」

彩雲『武藏さん達が校舎のドアを破壊して学園内に侵入しました！』

大和「何やつてるの?!」

赤城「提督が…提督が…」

翔鶴「落ち着いてください！赤城さん！今艦娘を制御できるのは貴方だけですよ！」

加賀「…いえ、翔鶴。戦場を見なさい。これが統率の取れてる軍と言える？」

ワアワア!!↑混戦状態

翔鶴「そ…それは…」

加賀「こんなの統率も何も無いわ。みんな頭に血が上ってる。これでは…」

赤城「…加賀さん。もういちど伝令を飛ばしましよう。停戦を呼びかけましょう」

加賀「そ…それはわかってます。ですが…」

赤城「これ以上長引けば双方に被害が出ます…。これ以上の犠牲は無用です」

赤城「そして…コレは私が皆さんを統率できなかつた私の不手際です…。提督がココに着き次第、皆さんの釈明と助命嘆願…そして私は責任を取ります…最悪の場合には…」

加賀「まさか…」

赤城「…離婚するといえば受け入れます。死を賜るなら…もちろん

⋮

赤城「…これが艦娘を統率する立場の責任のとり方です」

加賀「…なら私もお供します。そもそもこれは私達の問題です。こんな時に背負い込まないで下さい」

吹雪「…私もやります」

飛龍「…やれやれ…私もやるよ」

蒼龍「うん、私も責任を取るよ」

大和「はい、私もやります」

古鷹「私も皆さんを止められませんでした。その責任はあります」

赤城「…皆さん…すいません…」

加賀「…早く伝令を飛ばしますよ」

赤城「…はい。伝令です！これ以上の戦いは中止です！」バシュツ

!!

－タイキ side－

タイキ「グツ…はあ…はあ…」

アイオワ「WOW…意外とtoughですネ」

タイキ「…Meのpowerが全然効かないデース…」

アトランタ「まあ、アイオワが相手じやね」

タイキ「…スズカやエアグルーヴは無事なのデスカ…」

アイオワ「ええ、だけど…」

ブーン！

サラトガ「あれは…アカギの…」

タイキ「…？」

－カノープス部室－

バーン！

ター・ボ「な…なんなのだ?!」

時雨「…ここじやないね…」

村雨「あなた達、この人知らない？」

ネイチャ「ん…この人…スピカのトレーナーさんだよね…」

イクノ「…ところであなた達は」

山風「…パパを返して…」

マチタン「えつ?!ぱ…パパですか?！」

ネイチャ「えつ…でもどう見ても娘さんには見えないような…」

時雨「…早く答えて。じゃないと…」ガチャ！

ターボ「うわあ?!本当になんなのだ!!」

イクノ「…少なくとも私は見てませんよ」

マチタン「わ…私もです」

ネイチャ「私も知らないよ」。あ、でも朝方に門前にタクシーが…」

村雨「…ここにはいないの?」

ターボ「少なくともターボたちは見てないよ！それよりティオーはどこ行つたんだ？」

時雨「…ティオー？」

ネイチャ「あ…ココ最近見てないよね…行方不明らしいけど…」
イクノ「…マックイーンさんもです…まさかあなた達が…」

村雨「…気づかれたようね」

ネイチャ「いやいや…部外者がここに来てる時点で怪しいでしょ」

ターボ「早くティオーを返して！」

時雨「…なら僕たちを倒してから言つてよね」

※安価を取ります。

勝敗は?〉 5 4 4

1 時雨達の勝ち

2 カノープスの勝利

(この場にいるのは時雨、村雨、山風にします)

—2分後—

ネイチャ「ムリ…」

マチタン「うええ…」↑鼻血

イクノ「くつ…」

ターボ「こんなのに聞いてない…」

時雨「ここにもいないようだね」

村雨「じゃあ、担当してるこの部室に行こう」

山風「パパ…パパ…」ガチャ…

ネイチャ「痛た…私…出オチ?」

—正門前—

提督「ありがとう！釣りは要らない！」バタン！

運転手「お…お客さん?!」

提督「…ちつ…絶賛反乱祭りかよ…」

赤城「…！」

提督「赤城お前…」

赤城「申し訳ありません！私が皆さんを止められませんでした！」

提督「お前は後！まずはこの戦いを止める！」

加賀「でもどうやつて！」

提督「…メガホン！」

吹雪「は…はい！」

提督「…全員よく聞け！これは軍の命令だ！今ここで停戦しろ！さ
もないと軍令に基づき処刑する！」

↑…To be continued

#56 一戦後

提督「…全員よく聞け！これは軍の命令だ！今ここで停戦しろ！さ
もないと軍令に基づき処刑する！」

一校舎内

伊勢「?! 提督?!」

長門「何…」

日向「…軍令だと…」

一神通 s i d e l

グラス「…どうやら何かあつたようですね」

千歳「提督が帰ってきたらしいわ」

千代田「何とか間に合つたようだね…」

神通「…提督…？」

萩風「ま…間に合いました…」

嵐「もうヘトヘトだ…」

一那珂 s i d e l

那珂「ふえっ…」↑頬引つ張られ

ファルコン「はひる…？」↑頬引つ張られ

ブルボン「…報告、スピカのマスターが帰られました」

一時雨 s i d e l

時雨「…！」

村雨「…提督？」

ダスカ「はあ…間に合つたわね」

ウオツカ「ああ、全くだぜ…」

一3分後

提督の指示により全員が武装解除となり、校舎を背にしてウマ娘、正門を背にして艦娘達が並んだ。

曙「ちょっと！説明しなさいよ！なんでこの子らを…」

提督「…俺はウマ娘のトレーナーでもお前らの提督として来てる訳では無い。俺はここに軍使としてここに来た。口答えするなら…」↑

曙「ぐつ…」

提督「…お前ら、まず双方の人質を開放しろ」

ブライアン「ああ」

赤城「分かりました」

伊勢「ちよつと赤城さん！」

赤城「…従わないと殺されますよ。提督の目は本気です」

神通「ですが…」

人質交換「」

スペ「グラスちゃん…皆…」

グラス「スペちゃん…良かつた…」

タイキ「スズカ！」

ファルコン「スズカちゃん！」

スズカ「タイキ：ファルコン先輩…」

ルドルフ「校舎の土を踏めたな…」

グルーヴ「ええ…」

ティオー「学校に帰つてこれたね」

マツクイーン「ええ…嘘のようですね」

ゴルシ「あたしはもう少し居ても良かつたんだぜ？」

キタブラ「ダイヤちゃん…」

サトダイ「帰つてこれたね…」

ライス「ブルボンさん！」

ブルボン「ライスさん、おかえりなさい」

瑞鶴「…ただいま」

加賀「おかえりなさい」

千歳「皆、提督の話を聞いてあげて」

嵐「あいつもあいつなりに事情があつたんだよ」

萩風「お願ひします！」

千代田「…私からも」

艦娘「…」

提督「…やれやれ…これで平等に話を勧められるな。最も俺の策が一部変更とはなったが…」

長門「で…事情とはなんだ。つまらなければこいつで潰す」→理事長が乗つてた機械（ロードローラーみたいなやつ）

龍田「つまらなかつたら…ね？」

神通「なぜ私達を見捨てたのか…教えて頂けませんか。私達が頼りなかつたからですか」

提督「…いいだろう。これはごく数人の軍部の人間しか知らないことだが…」

提督「…俺がここに来た理由…俺は後で知つたが刺客から隠れるためだそうだ」

艦娘「…えつ？」

スペ「し…しかく？こういう…」→四角形の形

ティオー「違うよスペちゃん！刺客！暗殺者とかの方だよ！」

スズカ「トレーナーさんが…刺客に狙われてた…？」

赤城「…一体どういうことですか」

提督「軍部内に俺の命を狙う奴がいて一時的にではあるが軍の外に逃げるようとの指示だつたらしい。話を聞いたのはここに来てからだけどな。それとさつき首謀者は処刑されて今、ここにいるわけだ」

加賀「…じやあなんでここに？逃げるなら他の場所でも…」

提督「スピカのトレーナーが心労で引退する時、知り合いだつた元帥に相談したらしい。そこで一時的にではあるが軍から身を隠す必要があつた俺に白羽の矢が立つたらしい。俺なら潰れかけたチームを立て直すとの意味も兼ねてな。実際ここまでなるとは思わなかつた」

スペ「そういう事だつたんですね…」

提督「それにこのことは俺が知らなかつたとは言え、外部に話すことは禁じられていたらしい。だから事情を知つた後でもお前たちに伝えられなかつた。すまなかつた」

赤城「いえ：提督にも事情があると分かつていれば…」

提督「…さて…ここからは処理の方法について。まずお前ら」

提督「艦娘に関しては一般人に手を出した時点でもうお前らの非は

明らかだ。尾行ならまだしも、誘拐、逮捕、監禁、暴行、傷害…その他諸々」

提督「はつきり言つて憲兵に連行案件だよ。その後は解体か銃殺か拷問か…まあ、そんな所だろう」

艦娘「サアア…」

霞「しょ…しょうがないじやない！あんたがいなければ私たちは動けなかつたのよ！」

曙「だからこの子達を…」ドン！

提督「…は？」ギロツ！→すごい眼光

艦娘「!」ビクッ！

ウマ娘「!」ビクッ！

提督「だからつてな…一般人ねらうのはおかしいだろが！お前らのやつた事は半グレと同じだ！ヤクザでもカタギの人間は狙わねえんだぞ！お前らのやつた事は非道そのものだ！」

艦娘「…」

ゴルシ「…あいつやべえ…」

ティオー「…トレーナーだけは怒らせちゃダメだね…」

赤城「提督…これは私の独断です。皆さんの命は…私が責任を…」

提督「赤城、これはお前だけの責任じやない。こいつら全員の責任だ」

提督「どうしてもと言うならここでお前が腹を切るか？切るなら俺が介錯してやる」

赤城「…分かりました」

スペ「ま…待つてください！確かに誘拐とかはやりすぎですけど私は良くしてもらいましたし…」

ティオー「それにトレーナーのお嫁さんまで巻き込むのは…」

ルドルフ「…トレーナーくん。確かにこの子達はやりすぎだ。でも私達も良くしてもらった。せめて刑を軽くする事はできないかね？」

提督「…なら説明するよ。そもそもこいつらを処刑することは出来ないんだよ」

赤城「えつ…」

提督「軍から命令で解体、処刑は免除されたんだ。ただでさえ練度の高いこいつらが300人も一斉に消えるのは国防上まずいんだよ。それに俺にはそんな権限ないしな」

提督「だから懲罰するとかそんなもんしかできない。良かつたな」

↑目が笑ってない

提督「最も…俺がその気になれば鎮守府の設備を使ってこの世から消すことも出来るが…反省してるなら今回は俺の腹で収めることにする」ジロツ：

艦娘「…」ガクガク：

提督「…さて…ウマ娘 sideだが…不法侵入、窃盗、無免許運転、器物破損、逮捕、誘拐、暴行、監禁…こっちもだな」

提督「特に1番最初…これ殺されてもおかしくなかつたぞ。それに積極的に反撃しようとしてたのでこれは正当防衛には当たらないぞ」
提督「とはいえ、こいつらが行動を起こさなければ問題は起こらなかつたわけだから罪は免除されるだろう」

ルドルフ「そうか…」

提督「…さて…こうなつたらだれが責任を取るか…つまり当事者は俺だ。部下の失態は上司の失態。つまり…」

提督「俺が腹を切る」↑短刀

ウマ娘「?」

艦娘「?!」

提督「他に手はあるか？」

吹雪「ま…待つてください！私達が…」

提督「お前が死んだら日本は誰が守るんだよ。最悪の俺の代わりはいくらでもいるしな」

ダスカ「ちょ…ちょっと待ちなさいよ！あんたが死んだら私たちのチームはどうなるのよ！」

スペ「そ…そうですよ！トレーナーさんは何も悪いことしてないんですよ！」

マックイーン「トレーナーさんが私と一心同体となつてレースに挑む約束はどうなるんですの?!」

ティオー「トレーナー！死んじゃ嫌だ！！」

提督「…ならこうしたらどうだ？」

↑
T
o
b
e
c
o
n
t
i
n
u
e
d

#57 一結末一

一数ヶ月後一

そして…季節は流れ…桜が舞い散るようになつた春。

ウマ娘新入生「うわああ…ここがトレセン学園…」

ウマ娘新入生2「大きいね…」

ぜえぜえ…

ウマ娘「よ…ようこそ…トレセン学園へ…」

ウマ娘2「こつちだよ」

新入生ウマ娘「はい、でも…場所を移動したと聞いたのでびっくりしましたが、海が見えますし綺麗ですね！」

一あの後一

提督「俺がこと鎮守府の両方に所属する。それで構わないか?」

艦娘「?!」

ウマ娘「?!」

ティオー「えつ？いいの？」

提督「ああ、ただし条件付きだ。トレセン学園の場所を移動する…

それが条件だ」

ルドルフ「何?!」

提督「どうやら深海棲艦が本土空襲を企てているらしい。恐らくだが、真っ先に狙われるのは東京だ。それを防ぐ為に横須賀に移つていいただく」

提督「これは軍の命令書だ」

ルドルフ「し…しかし…そんな資金は…」

提督「資金は軍が全て出す。君たちに負担はさせないよ」

グルーヴ「しかしそんな話…」

提督「じきにこの街は戦火に包まれるだろう。なら…俺たちの手が届きやすい横須賀に移つた方が俺たちが救援や支援がしやすいしな」

ブライアン「だが、それまでどうするのだ？」

提督「…大淀」

大淀「は…はい！」

提督「…空き部屋はいっぱいあるよな？」

大淀「あ：ありますガ」

提督「：帰つたらすぐにウマ娘用の部屋の用意だ」

それからトレセン学園は合併とはいかないものの、横須賀に移設されることになった。この後数日後、規模は小さかつたものの東京に空襲が行われた（被害はなかつたし、その後空襲を行つた空母は沈没されたが）。

鎮守府から少し離れた場所に府中より少し大きめのトレセン学園が移設され、歩いて10分もかからない程度の距離に移設された。建設の間、ウマ娘と艦娘たちは親睦を深めていく。最初は仲が良いとは言えなかつたが、提督主導で新しい校舎が建つ頃には打ち解ける程度になつていた。

—横須賀鎮守府—

提督「…」カキカキ：

バン！

ティオー「トレーナー！トレーニング行こうよ～！」

マックイーン「ダメですわよ。まだ仕事してますし」

提督「いや、今丁度終わつたところだ。行くか」

あの後、艦娘達には謹慎処分及び提督に接触禁止、手錠押込（手錠をして牢屋に閉じ込める刑罰）が適用にした。その後、トレセン学園に行つてウマ娘との交流を命じることにした。嫁艦娘には懲罰を与えた後、厳重注意を行うことで和解することになつた。流石に今回ることは反省したらしく、あれから嫌惡していた艦娘もだんだん仲良くなつて言つたようだ。

—鎮守府武道場—

グラス「…やあ！」ブン！

神通「流石ですね。どうですか？」

グラス「ありがとうございます。師匠」

あの後グラスちゃんは神通さんの弟子になりました。あれからトレーニングのない日は神通さんの所に行つて鍛錬をしてるそうです。あれからウマ娘と艦娘は距離が近づいているような気がします。ト

レーナーさんは私達スピカと軍の指揮をしながら生活しているそうです。トレーナーさんが言うにはそこまで苦じやないらしいですが…。あれからなんだかんだ交流イベントとかもあつて皆も楽しそうです。あ…そうそう…もう1つ…

キタブラ「トレーナーさん、よろしくお願ひいたします！」

サトダイ「よろしくお願ひいたします」

キタサンブラックさんとサトノダイヤモンドさんがチームスピカに加入しました。こうしてみるとあの騒動もなんだか不思議な感じがします…。あ…そろそろトレーニングの時間ですね。

スペ「トレーナーさん！」

提督「ああ、始めようか」

吹雪「これ、皆さんに差し入れです」→お菓子

ティオー「うわあ～！ありがとう！」

マツクイーン「それでは頂きましょうか」

提督「それは終わつてからな。じやあ始めよう」

ここは横須賀市…ウマ娘と艦娘が交わる場所である。
そして…

タキオン「フフフ…出来たぞ…ついに出来た！」

タキオン「まさか副産物でこんなものが出来てしまふとはな…おつ
とこうしてはいられない。トレーナー君の弁当を…」

?↑続編に続く物

それは艦娘、ウマ娘、横須賀市を巻き込んだ話へと発展していくこ
とになる。

一吹雪『司令官が浮氣している?』→完→

一番外編

一番外編、温泉旅行ー

ー温泉旅行ー

騒動が終わつた後、謝罪と休息を兼ねて提督とスピカメンバーは1泊2日の温泉旅行へと出発した。次のレースに向けてのリラックスとメンタルを整えるためである（料金は提督の自腹です）。

ー温泉ー

ゴルシ「うほおく！広いぜ！」

ダスカ「へえ：あいつもやるじゃない」

ウオツカ「早速入りろうぜ！」

マツクイーン「ですがトレーナーさんもよく取れましたわね」

ティオー「どうやら知り合いの温泉旅館を貸切にしてもらつたらし
いよ」

スペ「スズカさん、早速入りましよう！」

スズカ「ええ」

キタブラ「ダイヤちゃん、入ろう」

サトダイ「うん！」

ー5分後ー

マツクイーン「はあく：いいお湯ですわ…」

ダスカ「そういうえば向こうでの生活つてどんな感じでしたか？」

ティオー「んく：普通だつたよ。お風呂入れたし、食事も美味し

かつたし、ベットはふかふかだつたし…」

スペ「出かける時も見張りが少し居た程度でしたからね…」

ウオツカ「…なんか普通でしたね」

スペ「はい：最初は拷問されるかと思いましたがそれはなかつたで
すね」

ゴルシ「あいつの部屋にも入つたしな！」

ダスカ「あいつの部屋に何かあつたの？」

マツクイーン「普通に勲章と日記があつた程度でしたわね」

ウオツカ 「…読んだんですね…」

キタブラ 「どんな事が書いてあつたんですか？」

サトダイ 「詳しく聞かせてください！」

ゴルシ 「なら今夜話してやるよ」

マツクイーン 「…そろそろ上がりましょう」

スペ 「温泉の次は…ご飯ですね！」

「部屋」

提督 「いい湯だつたか？」

マツクイーン 「ええ、リラックスさせてもらいましたわ」

提督 「そろそろ来る頃…」スツ：

女将 「お待たせしました。お食事でござります」

提督 「そう言つてたら来たな」

「6分後」

ゴルシ 「うおおー！普通に美味そだぜ！」

スペ 「これ食べちゃつていいんですか」

提督 「ああ、好きなだけ食え」

ティオー 「このお肉おいしくい！」

マツクイーン 「…トレーナーさんはお酒を飲まないんですの？」

提督 「まあな」

スズカ 「今日は泊まるので少しくらい飲んでも良さそうですが…」

ゴルシ 「さてはおめえ下戸だな！」

提督 「…まあ、あまりお酒は好きじゃねえな」

ティオー 「ふーん…」

スペ 「そういうえば…トレーナーさんつて学生の頃はどんな感じでしたか？」

提督 「…学生の頃か…。済まない、誰かお酒注いでくれ」

キタブラ 「は…はい！」

提督 「…」グビッ：

ティオー 「なんでお酒飲んだの？」

提督 「…少し酔わないと話せないからな」

提督 「…よし、じゃあ話そう。俺は小さな海の街で産まれた。学生

の頃は本当に遊んでばかりで勉強が出来なくてな……」

ティオー「バカだつたの?」

提督「ああ、勉強は底辺だつた。だがな……ある日勉強するきつかけになつた事があつた」

スズカ「きつかけ」

提督「俺の家族が深海棲艦に殺された」

ウマ娘「?!」

提督「ある日遊んで帰つてきたら遺体袋があつてな……街の人、が言うには歩いてたところを砲弾が破裂して即死したらしい。死んだ時、俺は両親の顔を見れなかつた。顔が修復不可能なぐらい原型を留めていなかつたらしい。これほど自分と神を恨んだ日はなかつた」

サトダイ「……」

提督「そして俺はあいつらに復讐する為に勉強を始めた。兵法書から基礎的な事も全て。部屋に籠つて寝る間を惜しんで勉強した。街の人、に言われた「人が変わつた。もうあの頃の〇〇（提督の名）じゃない」つてな」

提督「呉下の阿蒙……そんな俺がこんな事になつたのはあいつらのおかげという訳だ。皮肉だがな」

スペ「その事は……」

提督「ああ、あいつらに話した。どん引かれたけどな。その中で何人か共感してくれた奴もいてそれが今嫁だ」

ゴルシ「なんか悪い……」

提督「……この際だ。全て話そう。艦娘に会つた時も話そうか」

マックイーン「それなら日記に……」アツ!

提督「やつぱり読んだか。まあ、咎めないよ。書いてあつた通りだ」

ティオー「じゃあ銃口向けられたとか」

提督「ああ、その時はまじで死ぬかと思つた」

提督「あいつらに会つた時の目は一言で言うなら……この世の闇を全て体験したような目だ。絶望に打ちひしがれ、生きる事になんの価値もないような……人間不信の目だつた」

提督「まあ、前任が奴隸のように扱つて何人かは暴力の後に乱暴さ

れたから無理もないが…」

ダスカ「で…どんなことされたのよ」

提督「まず銃口向けられた、そして刀で斬りつけられた。これは返り討ちにした。食事に睡眠薬いれられたり、物が捨てられていたこともあった」

ウオツカ「…いじめのレベルじゃねえ…」

提督「俺は臆病な人間だ。だからこうして生きていた。そのうち艦娘が捕らえられた時、艦娘を捕らえた奴を殺つて、あいつらを助け出したことから何かが変わり始めた」

キタブラ「変わり始めた…?」

提督「ああ、まず何人かは今までの行いを謝った。そして俺に協力するようになつた。神通とかは昔は俺に殺しに掛かつてきただのに今では結婚してるしな」

ゴルシ「前任は?」

提督「ああ：奴なら本部で拷問されてこの世から抹殺されたよ」

提督「…まあ、そんな所だ。あ、この事はあいつらに言うなよ。今でも黒歴史として後悔してるやつも多いから」

マツクイーン「わ：分かりました」

提督「…あと酒飲まないのは健康に気を使つてだからな」ガラツ：

マツクイーン「…色々奥が深いですわね…」

ティオー「まさか独り身だつたとはね…」

スペ「ちよつと可愛そうです…」

スズカ「そうね…」

キタブラ「何かしてあげられませんかね？」

サトダイ「キタちゃんの得意なマッサージとかは?」

ゴルシ「よし!ならあたしは明日振り回してやるぜ!」

ダスカ「あたしが何とかしないと…」

ウオツカ(スカーレットがやべえこと考えてそุดだな)

↑…To be continued

一番外編一　温泉旅行2日目

—翌日—

ゴルシ「ん～！あ？」

マツクイーン「かつとばせ～…?!」ばつ！

ゴルシ「よお、おはよう」

マツクイーン「～～～?!」//

ティオー「…ん～！いい朝だ…ね？」

ゴルシ「ぐああああ⁈」

マツクイーン「忘れて…忘れてくださいまし！」ググググ…

ティオー「…ヘッドロックしてなにしてんの」

—10分後—

ゴルシ「朝から酷い目にあつたぜ…」

ティオー「そういうえばトレーナーは？」

ゴルシ「あいつなら起きてねえんじやねえか？」

マツクイーン「…」

ティオー「なら突撃しようよ！」

ゴルシ「ああ、隣の部屋で寝てんだから突撃されても文句はねえよ
な！」ガラツ！

ガラーン：

マツクイーン「…いませんわね」

ゴルシ「…なんだ、つまんね」

提督「何がつまんないだ？」↑上半身裸

ティオー「うわあ?!起きてたの?!」

提督「ああ」

マツクイーン「…その木刀…」

提督「ああ、鍛錬とシャワー浴びてきた。遠征先でも基本鍛錬は欠
かさないからな」

スペ「おはようございま…えつ⁈」

スズカ「おはようございます、トレーナーさん」

提督「ああ、荷物まとめておけよ。昼には出る」

スペ「は…はい」

ティオー（トレーナーの体、腹筋すごい割れてた…）

スズカ「あんなに鍛えてたんですね…」

マツクイーン「普段のトレーナーさんからは考えられませんわ」

ゴルシ「いや、納得できる部分あるぜ」

スペ「えつ？」

ゴルシ「昨日の話であつたろ。あいつ、1人で艦隊全滅させたんだぞ」

マツクイーン「そうでしたわね…」

一温泉街

キタブラ「いい景色ですね」

サトダイ「キタちゃん、あそこ行つてみよう！」

スペ「スズカさん、あそこにおまんじゅう売つてます！行きましょう！」

スズカ「もう…スペちゃんとたら…」

マツクイーン「私も行きますわ！」

ティオー「あー！僕も行く！」

ダスカ「ふふ…綺麗ね」

ウオツカ「お前には似合わないけどな」

ダスカ「はあ？それどういう意味⁈」

提督「…」

ゴルシ「隣失礼するぜ」

提督「なんだ？」

ゴルシ「…なあ、お前嫁さんは上手くいってんのか？」

提督「いや、まだ謹慎中だからな」

ゴルシ「…仲直りするなら早めにしておけよ。お前にも家族はいるんだから」

提督「…肝に銘じておくよ」

ゴルシ「…なんだかんだ言つてこのチーム楽しいからよ。最初は全員懷疑的なチームがここまで復活できたんだ」

ゴルシ「…ありがとよ。トレーナー」

提督「ああ、これからもよろしくな」

ゴルシ「…と、言うわけで…財布貰つてくれぜ〜」

提督「!」サッサツ：

提督「…味な真似しやがる」↑苦笑い

ゴルシ『おう〜！トレーナーの奢りでなにか食おうぜ〜』

提督「おい！それはほんとにやめろ！」

—温泉旅行編、(完) —

一番外編、出逢ー

白いものは何にでも染まる。赤、青、黄色…白は混じり気のない色だ。例えその染まる色が…たとえ黒でも綺麗に染まってしまう…。

—ウマ娘と出会う6年前、大本営—

提督「…お呼びでしようか」

元帥「うむ、君に頼みたい事がある」

提督「…頼み事ですか」

元帥「ああ、もしかしたら死ぬかもしれない仕事だ」

元帥「…君に横須賀鎮守府に着任して欲しい」

横須賀鎮守府：聞いたことがある。ブラック鎮守府で提督が無茶な進軍や補給無視、艦娘の酷使で更迭された鎮守府だと…。

元帥「過去に3人の者を送つたが尽く追い返された。皆這う這うの体でかえってきた…。そこでだ、文武両道の君を送りたい」

提督「…分かりました。できる限り頑張ってみます」

元帥「ありがとう…。もし何か準備して欲しいものがあれば言つてくれ。艦娘が襲つてくる可能性もある」

提督「…では1つだけ頂けますか？」

元帥「なんだ？」

提督「木刀1本です」

—横須賀鎮守府、正門—

駅をおりてしばらく歩いて鎮守府に到着した。門はボロボロであり建物は原型を留めていなかつた。

提督「…取り敢えず入ろうか」

? 「…覚悟！」ダツ！

提督「…そう言つている暇も無さそうだな」

神通「恨みはありませんが…！」

提督「…恨みがないなら攻撃するなよ」パシッ！

神通「?!（取つた?!）

提督「これは没収だ」ドガツ！

神通「うぐつ？」

提督 「隙ありだ」押し倒し

神通 （や…殺られる…）ドスツ！

提督 「…型がガタガタだ。基礎から学び治せ」↑神通の顔の横に刀を突き刺した

神通 「…」ペタツ：

神通 「…な…なんなんですか…」

摩耶 『軍人はかえ…うわあ?!』ドガツ！

提督 『お前も軍人だろ』

加賀 『貴方が来る場所ではないわ…?!』パシユツ！

提督 『弓は接近戦に弱い、刀で近づかれたら終わりだ』

天龍 『おい勝負しよ…うげえ?!』ドガツ！

提督 『話す暇があれば攻撃しろ』

道中に立ち塞がる艦娘を全て氣絶、もしくは戦闘不能にしてようやく執務室に着いた。

睦月 『な…何者にやし…』

時雨 『…ここまで来るのは艦娘を難ぎ倒してきたんだ…』

陽炎 『…な…なんてやつよ…』

提督 『…別に俺は攻撃するわけじゃない。まずは話を聞いてくれ』

夕立 『そんなの嘘っぽい！早く帰るっぽい！』

提督 『…なら俺が指揮官に足りえない者だと感じたら殺せばいい。信じないやつはいつでも襲つてこい、それで気が済むなら俺はいつでも相手になる』

吹雪 「…」

その翌日から艦娘による攻撃が始まった。

神通 「覚悟！」

提督 「甘いな」ガギツ！

神通 （攻撃をはじめられた?!）

提督 「…勝負ありだな」↑腹に木刀を当てられた

神通 「…くつ…」

提督 「腕はいい。もう少し鍛えろ」

由良 「提督さん、どうぞ」↑ご飯

提督「お、ありがたいな」パクツ：

由良「…」

提督「…ん…なんだ…この眠氣…」

由良「今よ！」

五十鈴「好きだらけよ！」

鬼怒「じやあね！」「

ガキツ！

提督「…奥歯に気付け薬があつて助かつた…。睡眠薬か…確かにふらつと来たよ」→書類でガード

五十鈴「嘘?!」

提督「…書類ボロボロだな。後で作り直そうか」

由良「…」

天龍「おい、昨日の続きだ。覚悟しろ」

提督「そう言つて昨日も負けただろ…」

天龍「うそ…だろ…」バタツ：

提督「…お前は単調だ。もう少し攻撃に幅をつける」

そう言つてしまらくの間、死に直面しながらも何とか生を保つっていた。その中でも協力してくれる艦娘も現れた。

提督「…もうしばらくかかりそうだな」

吹雪「…あ…あの…何か手伝いましようか？」

提督「…じやあこれを頼む」

赤城「提督、お疲れ様です。お茶を入れましようか？」

提督「ああ、頼む」

赤城と吹雪は特に積極的に手伝ってくれた。赤城は後に殺すために近づいたと分かったんだけどな…。

そんなある日、俺と艦娘の関係を一篇させる出来事が起こった。

夕立「て…提督さん！吹雪ちやん達が捕まつたっぽい！」

提督「…何？」

吹雪達が捕まつた。艦娘が対応に困っている時、俺は敵に遭遇した場所、そして捕まつてどのくらいだつたかを聞いた。

瑞鶴「どうするのよ！赤城さん達が捕まつても殺されでもしたら

⋮

大和「取り敢えず救出部隊を…」

提督「…その必要は無い」

長門「何？」

提督「お前らが行つたら警戒される。下手したら人質に取られて身動き出来ない」

瑞鶴「じゃあどうしろと?! もしかして見捨てろでも…」

提督「逆だ」

蒼龍「えつ?」

提督「俺があいつらを助ける」

俺は1人敵の薄いところから入り、頭を潰した。

提督「…敵が弱いな。これならあいつらの方がよっぽど強い」

ル級「ガボツ…」

提督「さて…最期に言い残すことは?」

深海提督「ま…まで！死にたくな…」

提督「さよなら」ドキューン！

その後赤城らを救出、生き残った深海棲艦は派手に死んでもらつた。俺は元々特殊部隊且つ拷問官だったからそれはもう最期には命乞いしながら原型を留めずに奴らは死んだ。死んだ後は解体して秋刀魚の餌になつた。

ー?ー

提督「冷凍した深海棲艦を解体する。俺が切つていくからそれを運んでくれ」

長門「…わ…わかつた…」ギュッ!!!

提督「次はミンチにしてそれを海にまく。そうすればこの世から奴らの死体が全て消えることとなる」※これはヤクザとかがやる死体処理法です。

瑞鶴「う…うえつ…」

神通「…な…」

提督「…」

一数時間後！

吹雪「…司令官は…なんでそんなに非情になれるんですか」ポイツ

！

提督「…家族を深海棲艦に殺されたからだ。人知れず砲撃を受けて俺が駆けつけた時にはもう…人の姿じやなかつた」

赤城「…」

提督「…だから俺は非情になる。全ての深海棲艦を討ち果たしてこの戦いに勝利する…それが俺が両親にできる償いと恩返しだと思つてる」

赤城「…償い…ですか？」

提督「ああ…。魚が寄つてきたぞ。早く捕まえて帰ろう」

艦娘「…」

戦国大名、毛利元就の言葉にこんな言葉がある。

『まず、村を見つけたら第1、第2、第3発見者を殺せ。その後数件に家に火を放ち笑顔で村長に『味方にならないか?』と言え』

自らを侮られない力と逆らわないようにする為に知恵が全ての詰まつた言葉と思う。俺の場合は艦娘を返り討ちにし、見せしめに深海棲艦を殺し艦娘を力で黙らせた。その後、飴である暮らしの改革をすることによつて仲を深めていく。飴が強過ぎれば舐められ、鞭が厳しそぎれば氾濫を起こされる。そのさじ加減が大事となる。それを何とか実践できた。

それから艦娘が俺を見る目が変わつた。今まで攻撃してきた艦娘がそれをやめて謝つてきた。俺はそれを笑つて許し、2ヶ月でようやく艦娘との和解を果たすことが出来た。その後は環境を整え、艦娘に負担のない作戦を立て着実に功を重ねた。そして14人の艦娘と結婚した。敵対していた艦娘とも今は上手くやつてている。

そして俺はある一言を艦娘に伝えた。

『人生は暗く道標のない大地をひたすら歩くようなものだ。1寸先がどうなつてゐるかなんて明日の俺らには知る術もない。足元には崖下には拡がつてゐかもしれない、もしくは1歩進めば天に昇る階段があるかもしれない。それが知りたくて灯りを探す。間違つてゐる、幻覚

であるかもしぬないがとにかく探し続けるために。自分の航海を無事に終える為に。お前らは今まで暗がりを歩いてきた。夜の海を灯台の灯りもなく、松明も無く、ただ間違った灯りを見ていた。ならば：俺はお前達を正しい航路に導く灯台の灯りとなろう』

着任して6年目、俺に突然辞令が下つた。トレセン学園への出立だ。この事は一切艦娘に言わないように口止めされた。そして約束の日、俺はトレセン学園へと向かつた。

これが全ての始まりだとは知らずに…。

—前日談、～完～—